GCOM-W1 AMSR2
ユーザツール
取扱説明書

第 4.0 版

2015.03

改訂履歴

版数	日付	ページ	内容
初版	2010 年 9 月	全ページ	新規作成
2 版	2013 年 1 月	53～54	HDF 出力対応
3 版	2013 年 3 月	全ページ	・動作環境へ Windows7(32bit)追加 ・インストール、アンインストール手順追加 ・AMSR2 画像への差替え
4 版	2015 年 3 月	12～15	インストール手順の画像差替え
		20	ファイルメニュープルダウンの画像差替え
		21	『動画ファイルの作成』サブメニューの画像差替え
		29	データ表示選択プルダウン項目追加
		34	データ表示選択プルダウン項目追加
		39	データ表示選択プルダウン項目追加
		44	データ表示選択プルダウン項目追加
		51	データ表示選択プルダウン項目追加
		102	カラーバー設定画面の画像差替え
		104	誤記修正（正：3σ、誤：3Σ）
		109	誤記修正（正：3σ、誤：3Σ）
		127	ヘルプ画面の画像差替え
		128	バージョン情報の画像差替え
		156	バッチファイルのデータ表示に表示チャネル(L2)を追加
		158	バッチファイルの動画作成に表示チャネル

版数	日付	ページ	内容
		160	(L2)を追加 バッチファイルの HDF 出力に表示チャネル(L2)を追加

目次

1. はじめに 1
1.1. 概要 1
1.2. 参考文書 2
1.3. 対象データ 3
1.4. 動作環境 11
1.5. インストール 12
1.6. アンインストール 16
2. 環境設定 17
3. 画面構成 18
4. 操作方法 20
4.1. ファイルメニュー 20
4.1.1. ファイルを開く／動画ファイルの作成 21
4.1.2. 画像形式で保存 55
4.1.3. KML(KMZ)形式で保存 57
4.1.4. バイナリ形式で保存 58
4.1.5. CSV 形式で保存 59
4.1.6. クリップボードにコピー 61
4.1.7. HDF 形式で保存 62
4.1.8. バッチ処理の実行 63
4.1.9. アプリケーションの終了 63
4.2. 表示メニュー 64
4.2.1. ツールバー 65
4.2.2. ステータスバー 76
4.2.3. 拡大・縮小 78
4.2.4. 地図投影 84
4.2.5. メタデータ 92
4.2.6. カラーバー表示位置 93
4.2.7. 拡大モード 95
4.2.8. 移動モード 96
4.2.9. 範囲指定モード 97
4.2.10. 選択範囲数値指定 98
4.2.11. バッチコマンド履歴 100
4.3. オプションメニュー 101

4.3.1. カラーバーテーブル設定 102
4.3.2. ルックアップテーブル設定 107
4.3.3. ユーザ設定 111
4.3.4. 画像出力設定 113
4.3.5. 地図レイヤ設定 121
4.3.6. 地図ファイル設定 125
4.4. ヘルプメニュー 127
4.4.1. ヘルプ 127
4.4.2. 関連リンク 128
4.4.3. バージョン情報 128
5. 付録 A ファイルフォーマット 129
5.1. 付録 A.1 バイナリファイル 130
5.2. 付録 A.2 CSV ファイル 134
5.3. 付録 A.3 KML ファイル 138
5.4. 付録 A.4 KML ファイル(タイムライン機能対応) 143
5.5. 付録 A.5 HDF ファイル 146
5.6. 付録 A.6 カラーバーテーブルファイル 151
5.7. 付録 A.7 ルックアップテーブルファイル 153
5.8. 付録 A.8 バッチファイル 155
5.9. 付録 A.9 パラメータファイル 163
6. 付録 B ライセンス 167
6.1. 付録 B.1 HDF4 167
6.2. 付録 B.2 HDF5 169
6.3. 付録 B.3 zlib 171

1. はじめに

本書は、GCOM ユーザツールを使用するためのものです。

1.1. 概要

GCOM ユーザツールは、宇宙航空研究開発機構(以下、“JAXA”)が提供する「地球観測データ（AMSR/AMSR-E/AMSR2）を地図投影するためのユーザツールです。本ユーザツールが持つ機能を下記表 1.1－1 に示します。

表 1.1－1 GCOM ユーザツールの機能

機能	内容
データ表示	AMSR/AMSR-E/AMSR2 の各プロダクトから観測データと緯経度情報を取得し、各プロダクトに対応した図投影法でデータを画面表示します。また、対象ファイルをドラッグ&ドロップすることでファイル名リストへの追加、観測データの表示を行うことができます。
拡大/縮小/移動	地図上に表示された画像の中から任意の箇所を指定することで拡大/縮小します。またマウス操作により画像を任意の場所へ移動することができます。
データ切り出し	地図上に表示された画像に対して、マウス操作で指定された任意の領域をフォーマット変換機能を使用することでサポート対象のファイル形式で出力します。
フォーマット変換	地図上に表示されたプロダクトの指定領域のデータを次のファイル形式で出力します。 ・バイナリ形式 ・CSV 形式 ・KML(KMZ)形式 ・画像形式(JPEG, TIFF, BMP, PNG) また、画面表示されている画像をクリップボードにコピーすることもできます。
動画ファイル変換	AMSR/AMSR-E/AMSR2 の各プロダクトを取得し、動画ファイル(AVI 形式/KML(KMZ)形式)として出力します。
アノテーション表示	地図上に表示されたプロダクトに格納されたメタ情報を表示します。また、画面下枠にプロダクト情報(チャネル、観測時刻;単チャネル表示の場合のみ)とマウス操作で指定した画面内の位置にある緯度、経度（および観測値）を表示します。
ヘルプ	メニュー操作により、本ユーザツールの操作方法を記載したドキュメントおよび FAQ を表示します。また、地球観測データに関連する情報を表示します。

1.2. 参考文書

AMSR/AMSR-E/AMSR2 の各プロダクトのフォーマットは次の文書に記載されています。

※JAXA/EORC のホームページ（http://www.eorc.jaxa.jp/）からダウンロードすることができます。

(1) AMSR レベル 1 フォーマット説明書 (NEB-01040)

(2) AMSR レベル 2 プロダクトフォーマット説明書 (NDX-000154)

(3) AMSR レベル 2Map プロダクトフォーマット説明書 (NDX-000152)

(4) AMSR レベル 3 プロダクトフォーマット説明書 (NDX-000155)

(5) AMSR-E レベル 1 フォーマット説明書 (NEB-00011)

(6) AMSR-E レベル 2 プロダクトフォーマット説明書 (NDX-000272)

(7) AMSR-E レベル 2Map プロダクトフォーマット説明書 (NDX-000273)

(8) AMSR-E レベル 3 プロダクトフォーマット説明書 (NDX-000274)

(9) AMSR2 レベル 1 フォーマット説明書 (DSS02-XU05ASD-10-106)

(10) AMSR2 高次プロダクトフォーマット説明書 (DSS02-XU05ASD-10-107)

1.3. 対象データ

表示できる地図投影法の種類は、AMSR/AMSR-E/AMSR2 のプロダクトの種類により決まります。

また、切り出しと変換できるフォーマットの種類も決まります。これらの関係については表 1.3－1 に示します。

表 1.3－1 プロダクトと機能との対応（AMSR2）（1/3）

レベル	プロダクト		単位	データ表示(*1) ●＝対象（◎:デフォルト）				フォーマット変換						動画出力	
				EQR	PS	Ortho	MER	Binary	CSV	CSV（緯経度付）(*2)	Image (*3)	HDF (*6)	KML/KMZ (*4)	AVI	KML/KMZ (*5)
L1	レベル 1A		シーン（半周回）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
	レベル 1B		シーン（半周回）	◎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	-
	レベル 1R		シーン（半周回）	◎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	-
L2	積算水蒸気量	TPW	シーン（半周回）	◎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	-
	積算雲水量	CLW	シーン（半周回）	◎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	-
	降水量	PRC	シーン（半周回）	◎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	-
	海面水温	SST	シーン（半周回）	◎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	-
	海上風速	SSW	シーン（半周回）	◎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	-
	積雪深	SND	シーン（半周回）	◎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	-
	海氷密接度	SIC	シーン（半周回）	◎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	-
	土壌水分量	SMC	シーン（半周回）	◎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	-
L3（日単位）	輝度温度	TB	全球 EQR	◎	-	-	-	●	●	-	●	-	●	●	●
			北半球 PS	-	◎	-	-	●	●	-	●	-	-	●	-
			南半球 PS	-	◎	-	-	●	●	-	●	-	-	●	-
	積算水蒸気量	TPW	全球 EQR	◎	-	-	-	●	●	-	●	-	●	●	●
	積算雲水量	CLW	全球 EQR	◎	-	-	-	●	●	-	●	-	●	●	●
	降水量	PRC	全球 EQR	◎	-	-	-	●	●	-	●	-	●	●	●

表 1.3－1 プロダクトと機能との対応（AMSR2）（2/3）

レベル	プロダクト		単位	データ表示(*1) ●＝対象（◎:デフォルト）				フォーマット変換						動画出力	
				EQR	PS	Ortho	MER	Binary	CSV	CSV（緯経度付）(*2)	Image (*3)	HDF (*6)	KML/KMZ (*4)	AVI	KML/KMZ (*5)
	海面水温	SST	全球 EQR	◎	-	-	-	●	●	-	●	-	●	●	●
	海上風速	SSW	全球 EQR	◎	-	-	-	●	●	-	●	-	●	●	●
	積雪深	SND	全球 EQR	◎	-	-	-	●	●	-	●	-	●	●	●
			北半球 PS	-	◎	-	-	●	●	-	●	-	-	●	-
	海氷密接度	SIC	北半球 PS	-	◎	-	-	●	●	-	●	-	-	●	-
			南半球 PS	-	◎	-	-	●	●	-	●	-	-	●	-
	土壌水分量	SMC	全球 EQR	◎	-	-	-	●	●	-	●	-	●	●	●
L3（月単位）	輝度温度	TB	全球 EQR	◎	-	-	-	●	●	-	●	-	●	●	●
			北半球 PS	-	◎	-	-	●	●	-	●	-	-	●	-
			南半球 PS	-	◎	-	-	●	●	-	●	-	-	●	-
	積算水蒸気量	TPW	全球 EQR	◎	-	-	-	●	●	-	●	-	●	●	●
	積算雲水量	CLW	全球 EQR	◎	-	-	-	●	●	-	●	-	●	●	●
	降水量	PRC	全球 EQR	◎	-	-	-	●	●	-	●	-	●	●	●
	海面水温	SST	全球 EQR	◎	-	-	-	●	●	-	●	-	●	●	●
	海上風速	SSW	全球 EQR	◎	-	-	-	●	●	-	●	-	●	●	●
	積雪深	SND	全球 EQR	◎	-	-	-	●	●	-	●	-	●	●	●
			北半球 PS	-	◎	-	-	●	●	-	●	-	-	●	-

表 1.3－1 プロダクトと機能との対応（AMSR2）（3/3）

レベル	プロダクト		単位	データ表示(*1) ●＝対象（◎:デフォルト）				フォーマット変換						動画出力	
				EQR	PS	Ortho	MER	Binary	CSV	CSV（緯経度付）(*2)	Image (*3)	HDF (*6)	KML/KMZ (*4)	AVI	KML/KMZ (*5)
	海氷密接度	SIC	北半球 PS	-	◎	-	-	●	●	-	●	-	-	●	-
			南半球 PS	-	◎	-	-	●	●	-	●	-	-	●	-
	土壌水分量	SMC	全球 EQR	◎	-	-	-	●	●	-	●	-	●	●	●

(*1)図中の EQR は等緯経度図法、PS はポーラステレオ図法、Ortho は地球正射図法、MER はメルカトル図法を表す
(*2)EQR,MER 表示時に範囲指定された部分を出力
(*3)出力方式は JPEG、TIFF、BMP、PNG 形式
(*4)KML/KMZ の制約上、EQR で投影されたプロダクトのみ変換対象
(*5)EQR 投影の L3 プロダクトのみタイムスケール機能に対応した KML/KMZ を出力可能
(*6)EQR,MER,PN,PS 表示時に範囲指定された部分を出力

表 1.3－2 プロダクトと機能との対応（AMSR/AMSR-E 共通）（1/4）

レベル	プロダクト		単位	データ表示(*1) ●＝対象（◎:デフォルト）				フォーマット変換						動画出力	
				EQR	PS	Globe	MER	Binary	CSV	CSV（緯経度付）(*2)	Image (*3)	HDF (*6)	KML/KMZ (*4)	AVI	KML/KMZ (*5)
L1	レベル 1A		シーン（半周回）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
	レベル 1B		シーン（半周回）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
	レベル 1B Map		シーン（EQR）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
			シーン（MER）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
			シーン（PS）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
L2	積算水蒸気量	TPW	シーン（半周回）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
	積算雲水量	CLW	シーン（半周回）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
	降水量	PRC	シーン（半周回）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
	海面水温	SST	シーン（半周回）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
	海上風速	SSW	シーン（半周回）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
	積雪深	SND	シーン（半周回）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
	海氷密接度	SIC	シーン（半周回）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
	土壌水分量	SMC	シーン（半周回）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
L2 Map	輝度温度	TB	シーン（EQR）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
			シーン（MER）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
			シーン（PS）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
	積算水蒸気量	TPW	シーン（EQR）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-

表 1.3－2 プロダクトと機能との対応（AMSR/AMSR-E 共通）（2/4）

レベル	プロダクト		単位	データ表示(*1) ●＝対象（◎:デフォルト）				フォーマット変換						動画出力	
				EQR	PS	Globe	MER	Binary	CSV	CSV（緯経度付）(*2)	Image (*3)	HDF (*6)	KML/KMZ (*4)	AVI	KML/KMZ (*5)
			シーン（MER）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
			シーン（PS）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
	積算雲水量	CLW	シーン（EQR）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
			シーン（MER）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
			シーン（PS）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
	降水量	PRC	シーン（EQR）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
			シーン（MER）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
			シーン（PS）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
	海面水温	SST	シーン（EQR）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
			シーン（MER）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
			シーン（PS）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
	海上風速	SSW	シーン（EQR）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
			シーン（MER）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
			シーン（PS）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
	積雪深	SND	シーン（EQR）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
			シーン（MER）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
			シーン（PS）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-

表 1.3－2 プロダクトと機能との対応（AMSR/AMSR-E 共通）（3/4）

レベル	プロダクト		単位	データ表示(*1) ●＝対象（◎:デフォルト）				フォーマット変換						動画出力	
				EQR	PS	Globe	MER	Binary	CSV	CSV（緯経度付）(*2)	Image (*3)	HDF (*6)	KML/KMZ (*4)	AVI	KML/KMZ (*5)
	海氷密接度	SIC	シーン（EQR）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
			シーン（MER）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
			シーン（PS）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
	土壌水分量	SMC	シーン（EQR）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
			シーン（MER）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
			シーン（PS）	◎	●	●	●	●	●	●	●	-	●	●	-
L3	輝度温度	TB	全球 EQR	◎	-	-	-	●	●	-	●	-	●	●	●
			北半球 PS	-	◎	-	-	●	●	-	●	-	-	●	-
			南半球 PS	-	◎	-	-	●	●	-	●	-	-	●	-
	積算水蒸気量	TPW	全球 EQR	◎	-	-	-	●	●	-	●	-	●	●	●
	積算雲水量	CLW	全球 EQR	◎	-	-	-	●	●	-	●	-	●	●	●
	降水量	PRC	全球 EQR	◎	-	-	-	●	●	-	●	-	●	●	●
	海面水温	SST	全球 EQR	◎	-	-	-	●	●	-	●	-	●	●	●
	海上風速	SSW	全球 EQR	◎	-	-	-	●	●	-	●	-	●	●	●
	積雪深	SND	全球 EQR	◎	-	-	-	●	●	-	●	-	●	●	●
			北半球 PS	-	◎	-	-	●	●	-	●	-	-	●	-
	海氷密接度	SIC	北半球 PS	-	◎	-	-	●	●	-	●	-	-	●	-

表 1.3－2 プロダクトと機能との対応（AMSR/AMSR-E 共通）（4/4）

レベル	プロダクト		単位	データ表示(*1) ●＝対象（◎:デフォルト）				フォーマット変換						動画出力	
				EQR	PS	Globe	MER	Binary	CSV	CSV （緯経度付） (*2)	Image (*3)	HDF (*6)	KML/ KMZ (*4)	AVI	KML/ KMZ (*5)
			南半球 PS	-	◎	-	-	●	●	-	●	-	-	●	-
	土壌水分量	SMC	全球 EQR	◎	-	-	-	●	●	-	●	-	●	●	●

(*1)図中の EQR は等緯経度図法、PS はポーラステレオ図法、Globe は地球正射図法、MER はメルカトル図法を表す
(*2)EQR,MER 表示時に範囲指定された部分を出力
(*3)出力方式は JPEG、TIFF、BMP、PNG 形式
(*4)KML/KMZ の制約上、EQR で投影されたプロダクトのみ変換対象
(*5)EQR 投影の L3 プロダクトのみタイムスケール機能に対応した KML/KMZ を出力可能
(*6)AMSR/AMSR-E では、未サポート

1.4. 動作環境

GCOM ユーザツールに必要な環境は、表 1.4-1 で示されます。なお、プロダクトを保存するためのディスク容量は含みません。

表 1.4-1 動作環境

項目	必要動作環境
コンピュータ	PentiumⅡ CPU 以上
オペレーティングシステム	WindowsXP、Vista、7（32bit）
メモリ	XP：512MB 以上 Vista：1GB 以上 7(32bit)：1GB 以上
ディスク	100MB 以上
ディスプレイ	1024×768 ドット、High Color（24 ビット） 以上
その他	マウス、又はポインティングデバイス PDF ビューア、およびウェブブラウザ

GCOM ユーザツールは、HDF ファイルから種々のデータ（観測データ、緯度経度値等）を取得し、PC 内のメモリに格納します。サイズの大きなデータを表示する場合には、ＰＣ内のメモリ領域を確認した上で本ユーザツールをインストールして下さい。

1.5. インストール

GCOM ユーザツールを使用するためにインストールを行います。インストールの手順は下記の方法で行います。

① セットアップ

インストーラ（GCOM-W1UserToolInstaller.msi）を実行します。実行した際の画面は、図 1.5-1 のようになります。ここでは、「次へ」をクリックします。

※インストールを行わない場合は、「キャンセル」をクリックします。

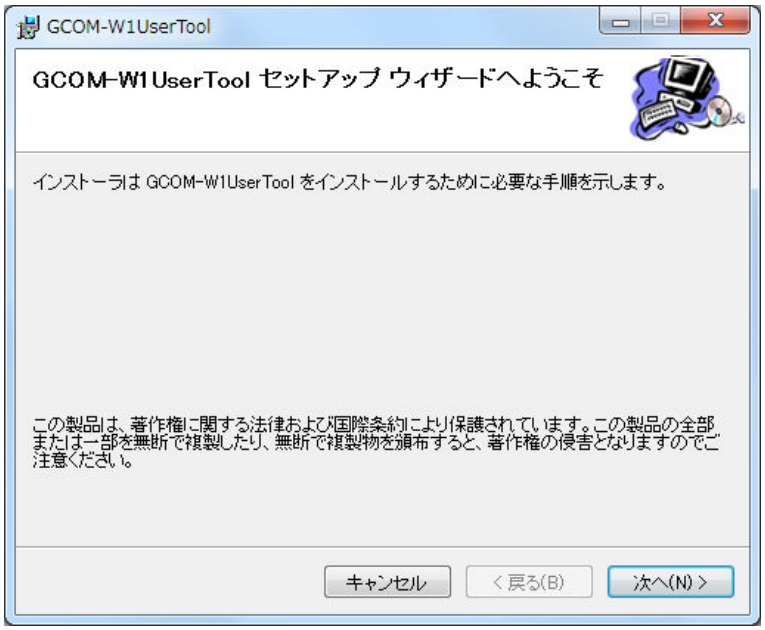


図 1.5-1　セットアップウィザード

② インストールフォルダの選択

GCOM ユーザツールのイントール先を指定します。指定の後、「次へ」をクリックします。図 1.5-2 に「インストールフォルダの選択」画面を示す。

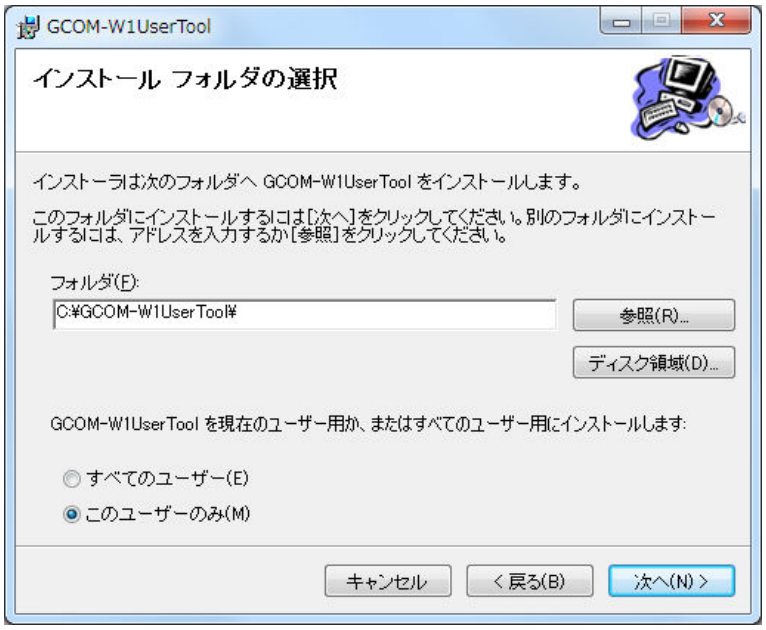


図 1.5-2　インストール フォルダの選択

③ インストールの確認

インストールの確認を行います。インストールをする場合は、「次へ」をクリックします。設定を変更する場合は、「戻る」をクリックします。図 1.5-3 に「インストールの確認」画面を示す。

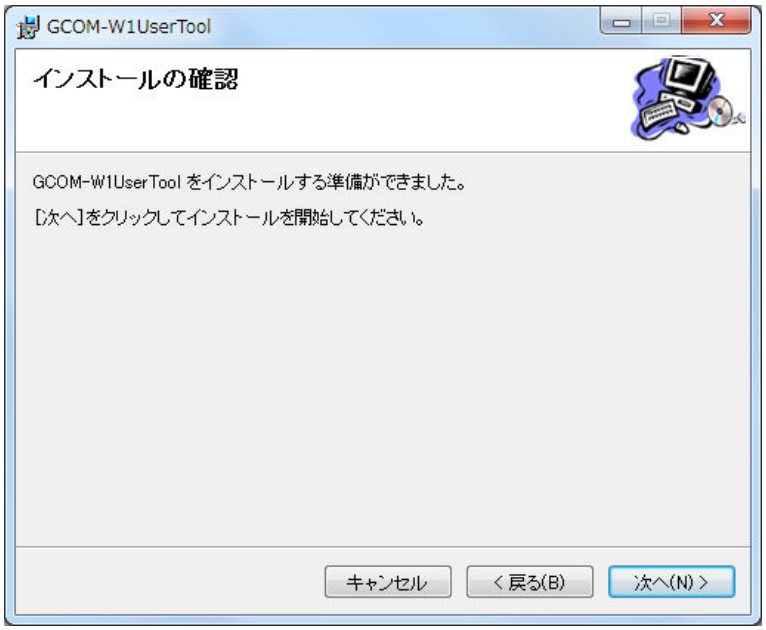


図 1.5-3　インストールの確認

④ インストール

図 1.5-4 は、インストール実行中の画面になります。インストールを中断する場合は、「キャンセル」をクリックします

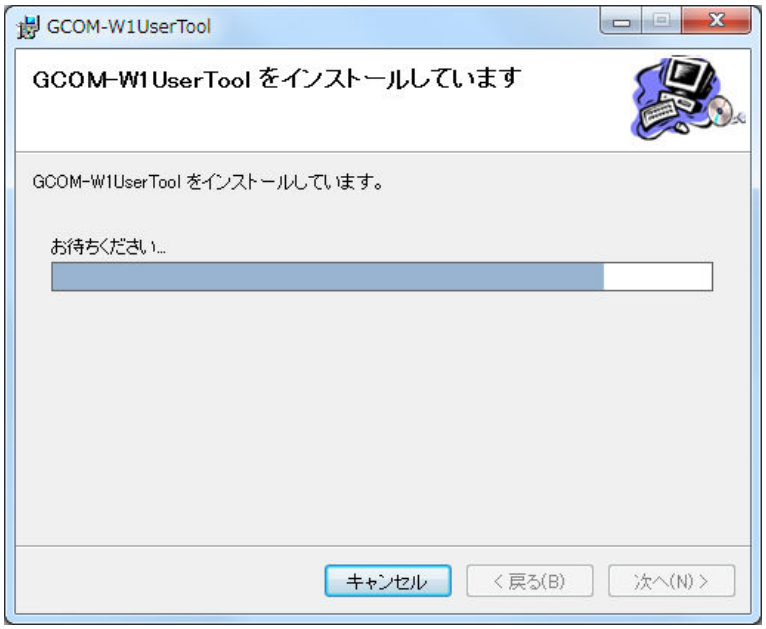


図 1.5-4　インストールの実行

⑤ インストールの完了

インストールが完了すると図 1.5-5 の画面が表示されます。

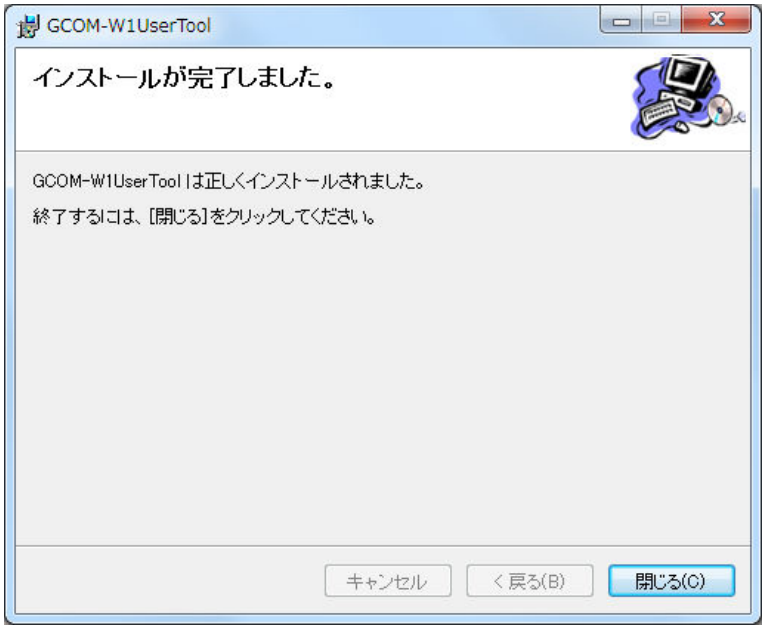


図 1.5-5　インストールの完了

⑥ インストール後の確認

インストール完了後の確認を行います。スタートメニューに GCOM-W1UserTool が表示されることで確認は完了です。

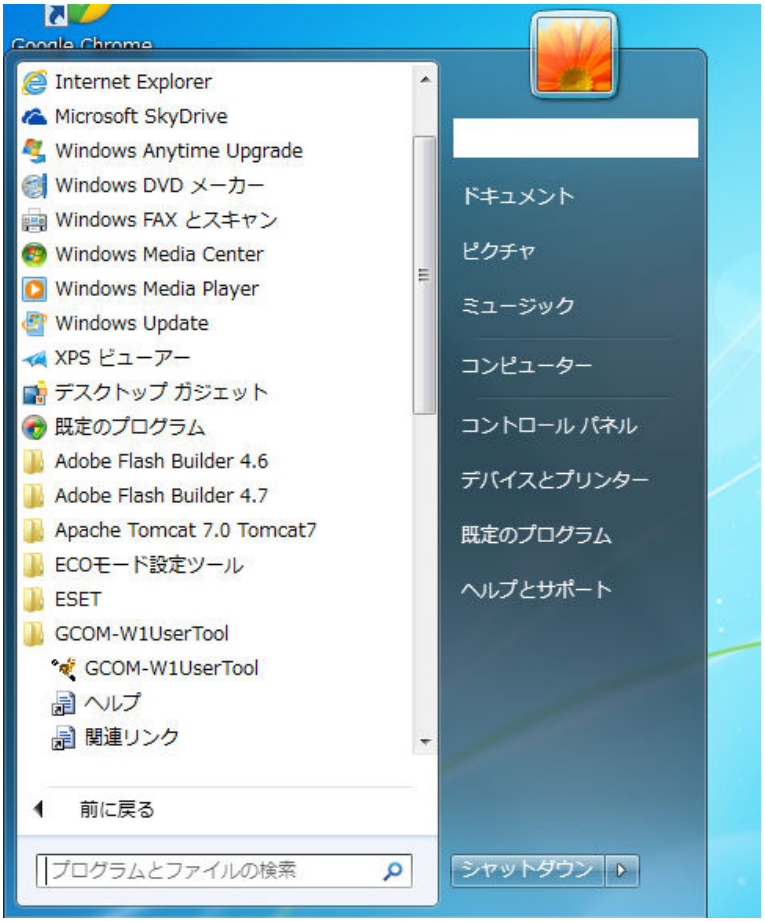


図 1.5-6　スタートメニュー

1.6. アンインストール

GCOM ユーザツールのアンインストールを行うには以下の手順で行います。

① コントロールパネルから、プログラムの削除を行います。

② GCOM-W1UserTool を選択し、「削除」又は「アンインストール」をクリックします。

③ アンインストールの確認メッセージに対して、「はい」又は「アンインストール」をクリックします。

2. 環境設定

GCOM ユーザツールを起動する前に、まず、環境設定を行う必要があります。環境設定は、インストールするフォルダ内のパラメータ（GCOMUserTool.ini）ファイルをメモ機能帳等などを使用して設定します。

パラメータファイルには、フォルダ定義情報とユーザ定義情報の２種類の情報が格納されており、それぞれを所定の環境に設定します。

パラメータファイルの詳細は、『付録 A.8 パラメータファイル』を参照のこと。

①フォルダ定義情報

本ユーザツールが動作に必要なフォルダを定義します。

②ユーザ定義情報

ユーザ特有情報(データ表示／バイナリ形式出力／CSV 形式出力)を定義します。

これらの情報は、パラメータファイルを直接編集する方法とは別に『ユーザ設定画面』を使用して設定することもできます。

『ユーザ設定画面』の操作方法については、『4.2.3 ユーザ設定』を参照のこと。

3. 画面構成

GCOM ユーザツールは、メイン画面とメニュー表示から呼び出される画面で構成されています。

表 3-1 画面概要（1/2）

項	画面名称	画面説明
1.	メイン画面	データの地図表示や表示された画像の拡大/縮小／移動／切り出し範囲の指定などを行う画面。
2.	ファイルオープンダイアログ画面（AMSR2）／（AMSR/AMSR-E）	AMSR2、AMSR/AMSR-E データの入力を行う画面。AMSR2 データ入力時に、入力プロダクトの指定／表示するチャネルおよびカラーテーブル／ルックアップテーブルの指定を行います。
3.	AMSR2 HDF 出力ファイルオープンダイアログ画面	AMSR2 データの一部を切り出して別のファイルに出力するための画面。切り出す対象のデータを入力します。
4.	動画作成ダイアログ画面(AMSR2) ／(AMSR/AMSR-E)	動画作成に用いる AMSR2、AMSR/AMSR-E プロダクトの指定を行う画面。チャネル／カラーテーブルの指定を行います。
5.	動画出力設定画面	動画出力における、タイトル表示／背景表示色などの各種設定を変更します。
6.	プロダクト/地図表示画面	プロダクトの情報を地図表示する画面
7.	ユーザ設定画面	本ユーザツールの初期情報を設定する画面。
8.	画像出力設定画面	画像を画像形式（JPEG/TIFF/BMP/PNG 形式）で保存するときのレイアウトを設定する画面。
9.	地図レイヤ設定画面	表示する海岸線、緯経線などの表示に関する設定を行う画面。 表示色の設定／線の太さ／緯経線の間隔設定のほか、海岸線の表示方法をデータの前面/背面で選択します。
10.	地図ファイル設定画面	地図ファイルの設定を行う画面。 倍率が 8 倍以上の拡大時に表示している地図を自動的に切換えるかどうかの設定を行います。
11.	カラーバーテーブル設定画面	カラーバーテーブルの設定変更と新規作成を行う画面。

表 3-1 画面概要（2/2）

項	画面名称	画面説明
12.	ルックアップテーブル設定画面	ルックアップテーブルの設定変更および新規作成を行う画面。
13.	選択範囲数値指定画面	左上および右下の緯度経度を入力して領域を指定する画面。
14.	メタデータ表示画面	表示されている画像のメタデータを表示する画面。
15.	バージョン情報表示画面	本ユーザツールのバージョン情報／著作権者を表示する画面。
16.	ヘルプ画面	本ユーザツールの操作説明をブラウザ上に表示します。
17.	関連情報表示画面	本ユーザツールの操作説明をブラウザ上に表示します。
18.	バッチファイル選択画面	コマンドが記述されたファイル(バッチファイル)を選択する画面。 ファイル選択後、「開く(O)」ボタンをクリックするとファイル内のコマンドを解析し、バッチ処理を行います。
19.	バッチコマンド履歴表示画面	ユーザが行った操作をコマンドとして記憶し表示する画面。 ただし、バッチ処理がサポートしていない機能の処理履歴は表示されません。

4. 操作方法

GCOM ユーザツールの操作は、ファイルメニューの説明を参照のこと。

4.1. ファイルメニュー

ファイルメニューには、次の 9 種類のメニューがあります。

① ファイルを開く
② 動画ファイルの作成
③ 画像形式で保存
④ KML(KMZ)形式で保存
⑤ バイナリ形式で保存
⑥ CVS 形式で保存
⑦ クリップボードにコピー
⑧ HDF 形式で保存
⑨ バッチ処理の実行
⑩ アプリケーションの終了

図 4.1-1 にファイルメニューを示し、以下それぞれのメニューについて説明します。

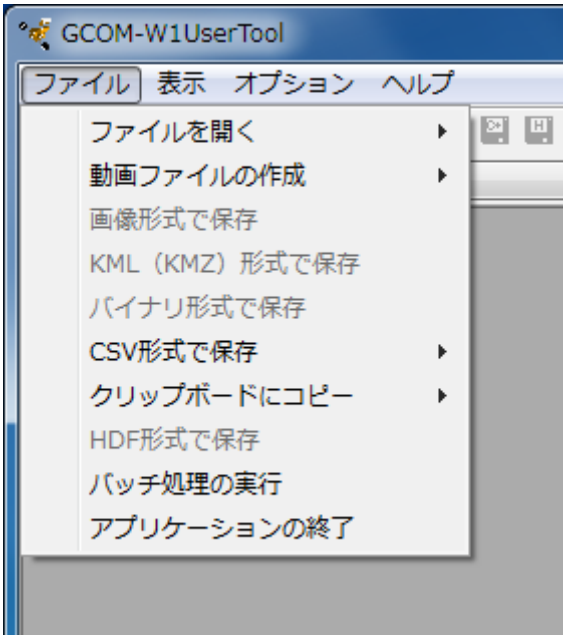


図 4.1-1 ファイルメニュープルダウン

4.1.1. ファイルを開く／動画ファイルの作成

本ユーザツールでは、表示するプロダクトを選択する方法に次の２つの方法があります。
①ファイルオープンダイアログ画面／動画作成ダイアログ画面を使用する場合
②ショートカットアイコンにファイルをドラッグ＆ドロップする場合

以下に概要を説明します。

【ファイルオープンダイアログ画面／動画作成ダイアログ画面を使用する場合】
ファイルを開くには、以下に示す 3 種類のサブメニューがあります。
①AMSR2 プロダクト読み込み
②AMSR/AMSR-E プロダクト読み込み
③AMSR2 HDF 出力

また、動画ファイルの作成には、以下の 2 種類のサブメニューがあります。

①AMSR2 動画作成
②AMSR/AMSR-E 動画作成

ファイルを開くおよび動画ファイルの作成のサブメニューを図 4.1.1-1 および図 4.1.1-2 に示します。これらのサブメニューを選択すると表示される「ファイルオープンダイアログ画面」／「動画作成ダイアログ画面」を使用して表示するプロダクトを選択します。それぞれのサブメニューについては、4.1.1.1 ～4.1.1.6 で説明します。

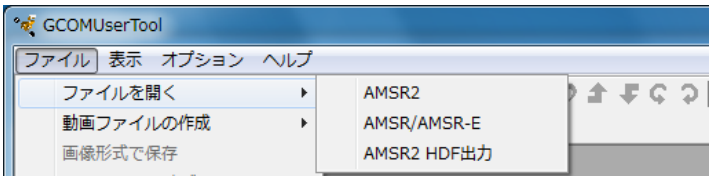


図 4.1.1-1 『ファイルを開く』サブメニュー

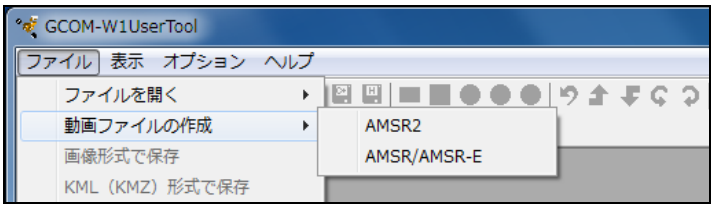


図 4.1.1-2 『動画ファイルの作成』サブメニュー

【ショートカットアイコンにファイルをドラッグ＆ドロップする場合】

本ユーザツールのショートカットアイコンに、表示させたいファイルをドラッグ＆ドロップ操作することで直接指定ができます(図 4.1.1-3、※本ユーザツールのインストール時に、デスクトップにショートカットアイコンが作成されます)。本機能は、画像表示のみができます。

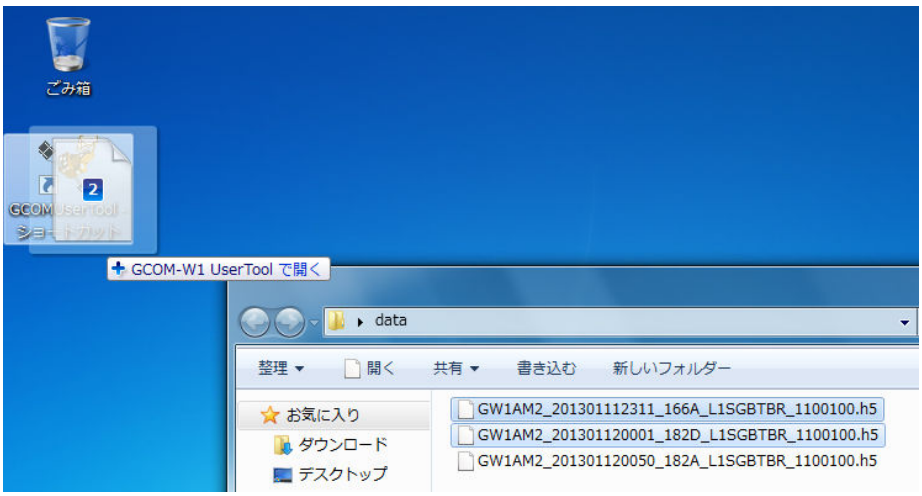


図 4.1.1-3 ショートカットアイコンへのドラッグ＆ドロップ操作(イメージ図)

この操作では、指定したファイルの種類に対応したファイルオープンダイアログ画面およびプロダクト/地図表示画面が表示されます(図 4.1.1-4)。

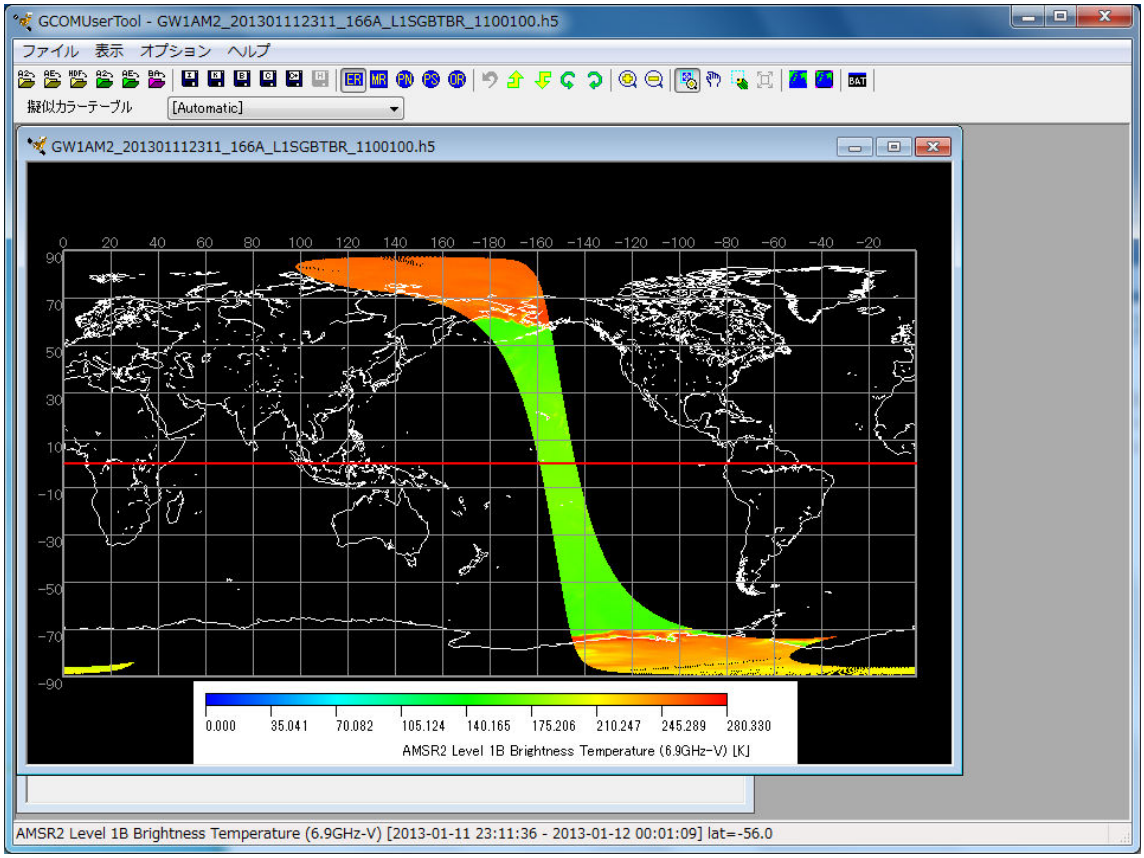


図 4.1.1-4 ショートカットアイコンへのドラッグ＆ドロップ操作による画像表示結果

同じプロダクトレベルのファイルを複数同時に指定しても、以下の場合は全てのファイルが表示されません。

- 指定したファイルがレベル３プロダクトの場合、指定したファイルの中で一つだけ表示されます。
- 指定したファイル数が最大数を超えた場合、オープンファイルダイアログ画面まで表示されます。

また、複数のプロダクトレベルを同時にドラッグ＆ドロップした場合、以下の優先順位で表示します。

複数のセンサを選択：①AMSR2、②AMSR／AMSR-E

複数のレベルを選択：レベルの低いファイルを優先して表示

4.1.1.1. AMSR2 プロダクト読み込み

本サブメニューを選択すると、『ファイルオープンダイアログ画面(AMSR2)』を表示し、AMSR2 プロダクトを読み込むことができます。

『ファイルオープンダイアログ画面(AMSR2)』を図 4.1.1.1-1 に示し、読み込み方法について説明します。

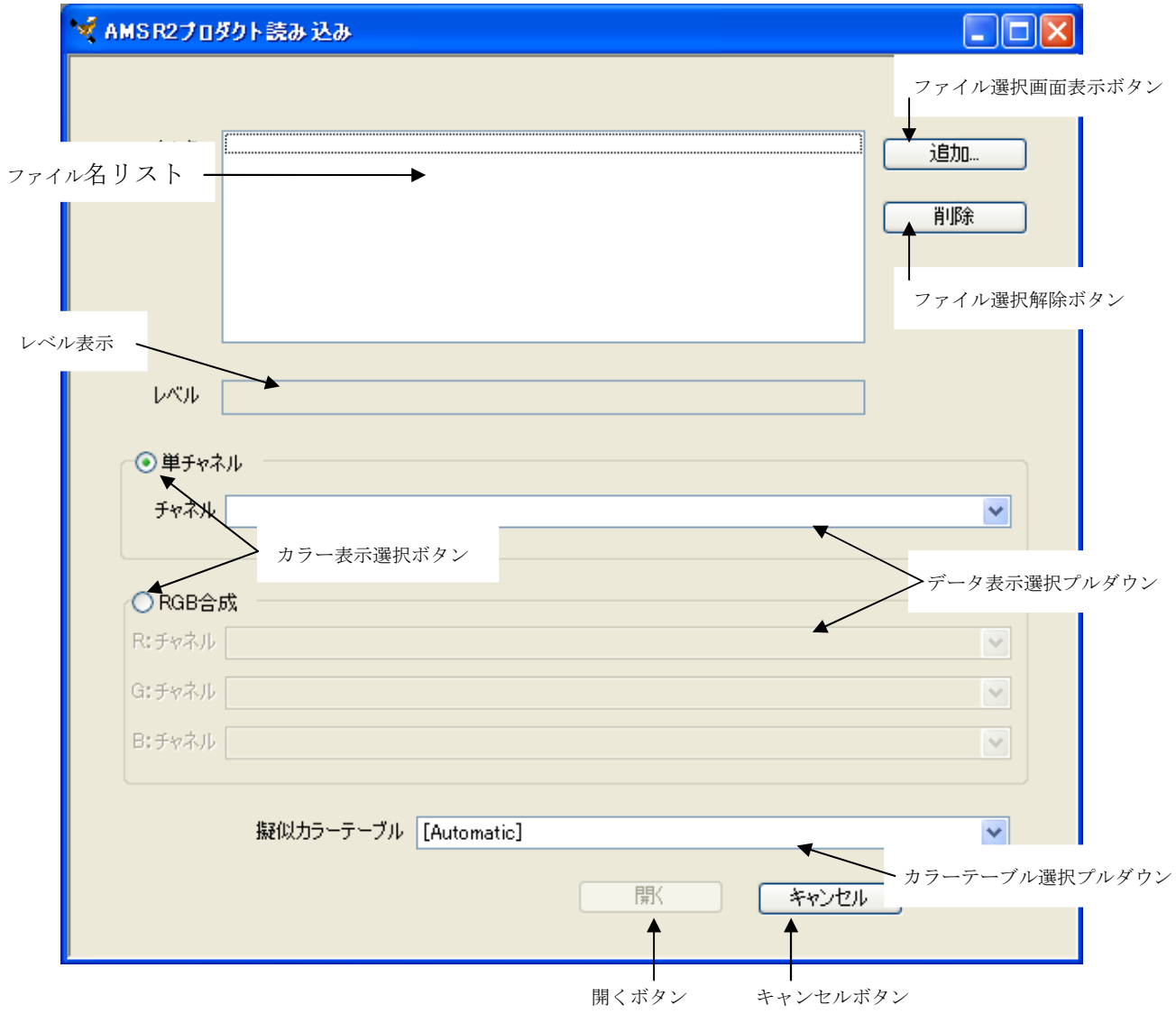


図 4.1.1.1-1 ファイルオープンダイアログ画面(AMSR2)

◆「ファイル名リスト」

本リストに、読み込む AMSR2 プロダクトのファイル名を表示します。「ファイル選択追加」ボタン、またはドラッグ＆ドロップ操作(図 4.1.1.1-2)で読み込むファイルを指定することができます。

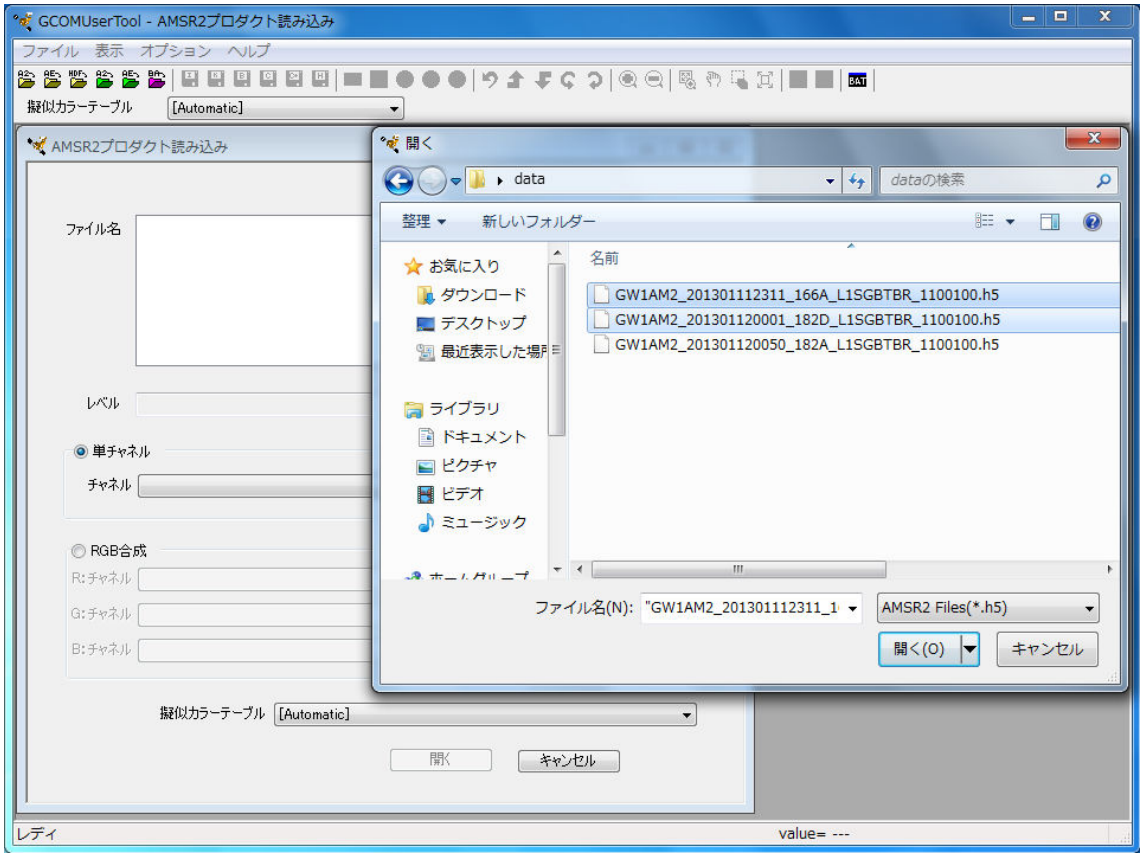


図 4.1.1.1-2 ファイルオープンダイアログでのドラッグ＆ドロップ操作(イメージ図)

本リストには、同一レベル（レベル３プロダクトは投影法も同一であること)の AMSR2 プロダクトのみ指定する必要があります。選択したプロダクトのレベルがレベル表示フィールドに表示されます。

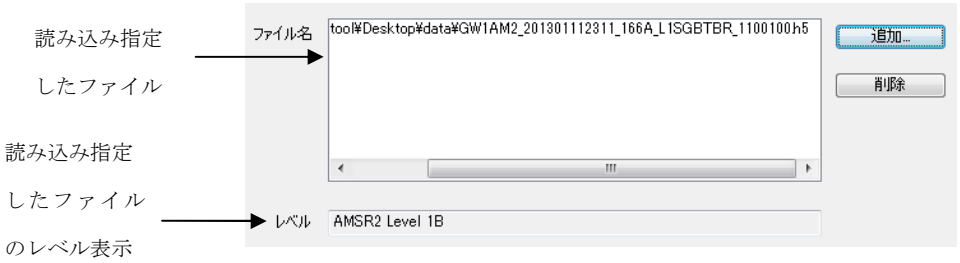


図 4.1.1.1-3 ファイル名リストへの追加結果

本リストに指定できるファイルの数は、環境設定で設定した最大ファイル数によって決定されます。

◆「ファイル選択追加」ボタン

①本ボタンをクリック

②『ファイル選択画面』が表示

③「ファイル名リスト」に追加する AMSR2 プロダクトのファイルを選択することができます。

◆「ファイル選択削除」ボタン

①「ファイル名リスト」から削除するファイルを選択

②「ファイル選択削除」ボタンをクリック

③「ファイル名リスト」からファイルを削除することができます。

◆「カラー表示選択」ボタン

①「単チャネル」または「RGB 合成」のどちらかを選択

②データ表示選択プルダウンよりチャネルを指定します。

※レベル 2 もしくはレベル 2Map のプロダクトを入力する場合はチャネル選択できません。

※レベル 3 プロダクトを入力する場合は、チャネルの代わりにファイル名リストに追加されたファイルをプルダウンから選択します。

「カラー表示選択」ボタンの指定により、カラーテーブル選択プルダウンタイトル表示が切り替わります。

【単チャネルの場合】

「単チャネル」を選択した場合は、カラーテーブル選択プルダウンのタイトル表示が「カラーバーテーブル」に替わります。

カラーバーテーブル選択プルダウンより任意のカラーテーブルを選択します。

本プルダウンメニューには、カラーテーブルフォルダの中の AMSR2 フォルダに格納されているファイルの内、拡張子が「clt」のファイルがすべて表示されます。また、プロダクトの最大・最小値と 9 色のパレットが自動的に選択される「[Automatic]」を選択することができます。

図 4.1.1.1-4 単チャネルのカラーバー選択

【RGB 合成の場合】

「RGB 合成」を選択した場合は、カラーテーブル選択プルダウンのタイトル表示が「ルックアップテーブル」に替わります。

ルックアップテーブル選択プルダウンより任意のルックアップテーブルを選択します。

本プルダウンメニューには、ルックアップテーブルフォルダの中の AMSR2 フォルダに格納されているファイルの内、拡張子が「lut」のファイルがすべて表示されます。また、RGB それぞれの最大・最小値とプロダクトの最大・最小値との対応が自動的に計算される「[Automatic]」を選択することができます。

図 4.1.1.1-5 RGB 合成のルックアップテーブル選択

◆「データ表示選択プルダウン」

表示するチャネルを選択します。

プロダクトがレベル 2 の場合には、物理量の 2 階層目まで選択することができます。

ただし、1 階層しか存在しないプロダクトで 2 階層目を選択した場合には、エラーメッセージが表示されます。

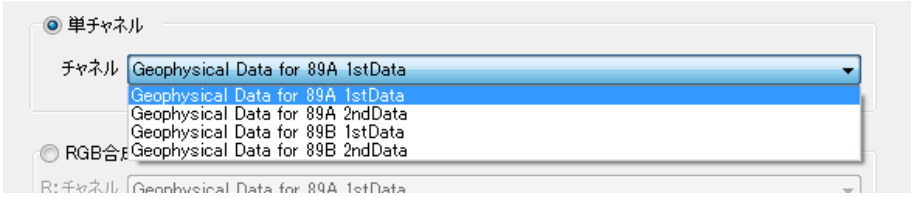


図 4.1.1.1-6 プロダクトレベル 2 のチャネル選択(高解像度)

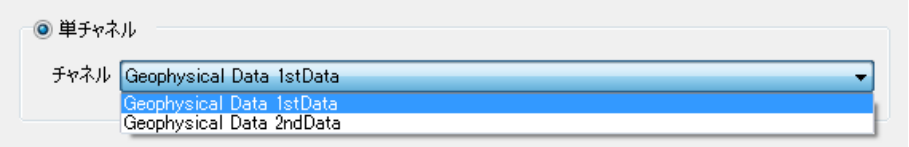


図 4.1.1.1-7 プロダクトレベル 2 のチャネル選択(低解像度)

◆「開く」ボタン

①本ボタンをクリック

②図 4.1.1.1-6 に示すようなプロダクト/地図表示画面を表示します。

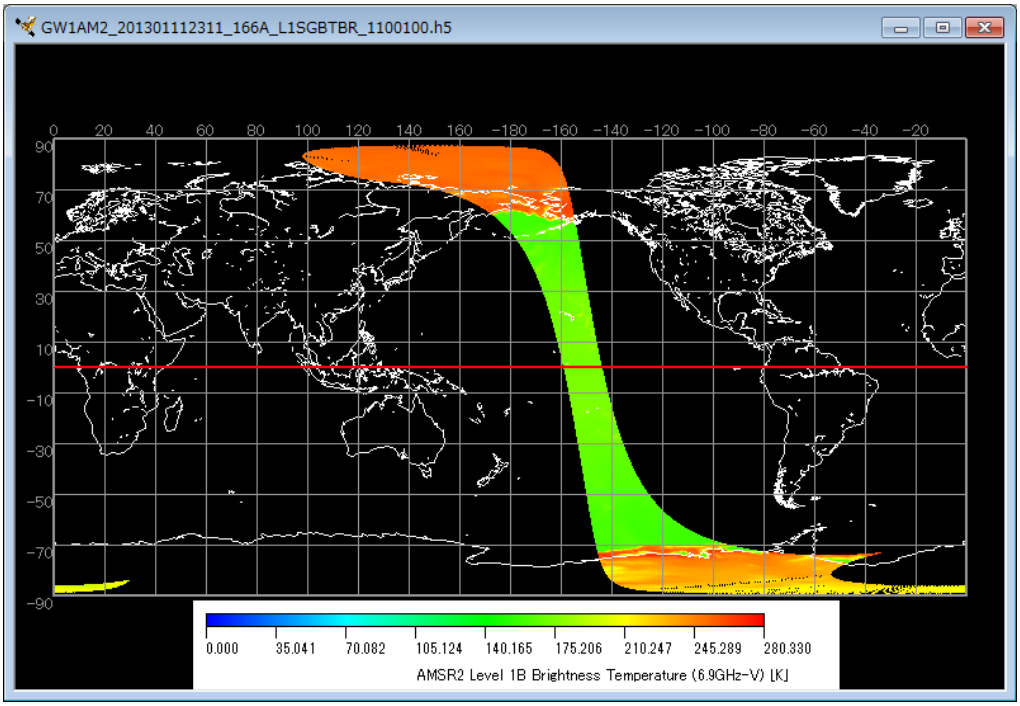


図 4.1.1.1-8 プロダクト/地図表示画面

◆「キャンセル」ボタン

①本ボタンをクリック

②AMSR2 プロダクトの読み込みを中止して『ファイルオープンダイアログ画面(AMSR2)』を閉じます。

4.1.1.2. AMSR/AMSR-E プロダクト読み込み

本サブメニューを選択すると、『ファイルオープンダイアログ画面(AMSR/AMSR-E)』を表示し、AMSR/AMSR-E プロダクトを読み込むことができます。

『ファイルオープンダイアログ画面(AMSR/AMSR-E)』を図 4.1.1.2-1 に示し、読み込み方法について説明します。

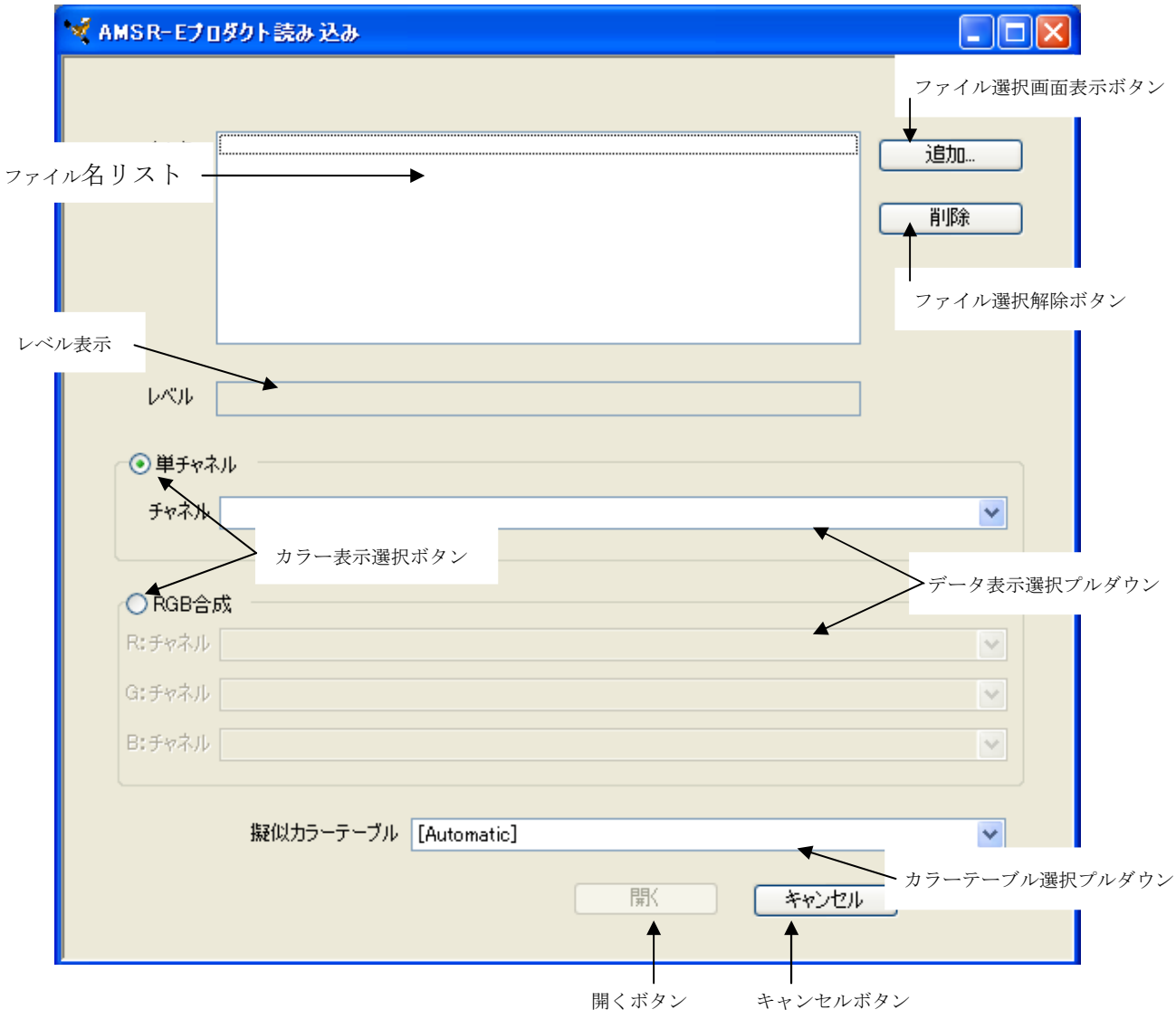


図 4.1.1.2-1 ファイルオープンダイアログ画面(AMSR/AMSR-E)

◆「ファイル名リスト」

①本リストに、読み込む AMSR/AMSR-E プロダクトのファイル名を表示します。

②「ファイル選択画面表示」ボタン、もしくはドラッグ＆ドロップ操作(4.1.1.1 章参照)で読み込むファイルを指定することができます。

本リストには、AMSR または AMSR-E プロダクトのみ指定してください。

本リストに指定できるファイルの数は、環境設定で設定した最大ファイル数によって決定されます。

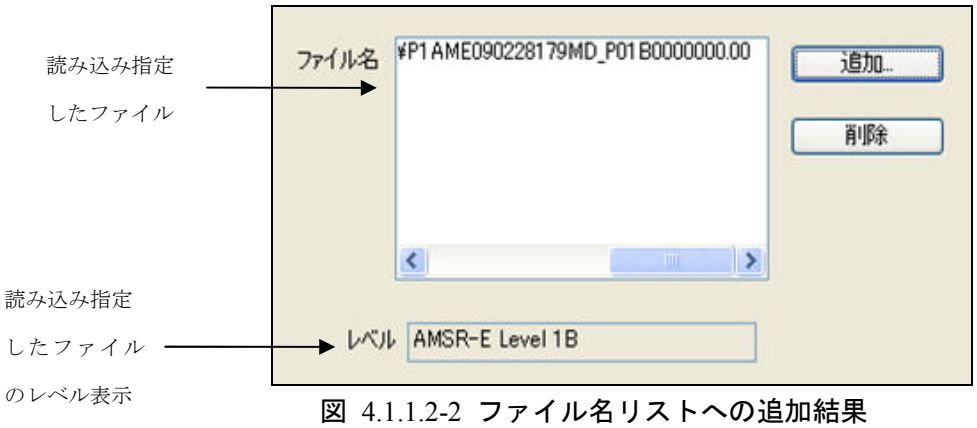


図 4.1.1.2-2 ファイル名リストへの追加結果

◆「ファイル選択追加」ボタン

①本ボタンをクリック

②『ファイル選択画面』が表示

③「ファイル名リスト」に追加する AMSR/AMSR-E プロダクトのファイルを選択することができます。

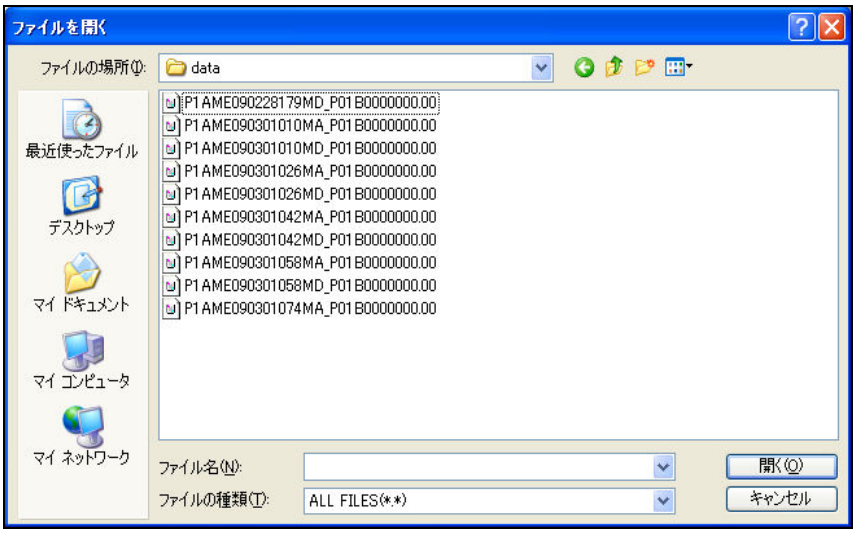


図 4.1.1.2-3 ファイル選択画面

◆「ファイル選択削除」ボタン

①「ファイル名リスト」から削除するファイルを選択

②「ファイル選択削除」ボタンをクリック

③「ファイル名リスト」からファイルを削除することができます。

◆「カラー表示選択」ボタン

①「単チャネル」または「RGB 合成」のどちらかを選択

②データ表示選択プルダウンよりチャネルを指定します。

「カラー表示選択」ボタンの指定により、カラーテーブル選択プルダウンタイトル表示が切り替わります。

【単チャネルの場合】

「単チャネル」を選択した場合は、カラーテーブル選択プルダウンのタイトル表示が、「カラーバーテーブル」に替わります。

カラーバーテーブル選択プルダウンより任意のカラーテーブルを選択します。

本プルダウンメニューには、カラーテーブルフォルダの中の AMSR/AMSR-E フォルダに格納されているファイルの内、拡張子が「clt」のファイルがすべて表示されます。また、プロダクトの最大・最小値と 9 色のパレットが自動的に選択される「[Automatic]」を選択することができます。

図 4.1.1.2-4 単チャネルのカラーバー選択

【RGB 合成の場合】

「RGB 合成」を選択した場合は、カラーテーブル選択プルダウンのタイトル表示が、「ルックアップテーブル」に替わります。

ルックアップテーブル選択プルダウンより任意のルックアップテーブルを選択します。

本プルダウンメニューには、ルックアップテーブルフォルダの中の AMSR/AMSR-E フォルダに格納されているファイルの内、拡張子が「lut」のファイルがすべて表示されます。また、RGB それぞれの最大・最小値とプロダクトの最大・最小値との対応が自動的に計算されます。

「[Automatic]」を選択することができます。

図 4.1.1.2-5 RGB 合成のルックアップテーブル選択

◆「データ表示選択プルダウン」

表示するチャネルを選択します。

◆「開く」ボタン

①本ボタンをクリック

②図 4.1.1.2-6 に示すプロダクト/地図表示画面を表示します。

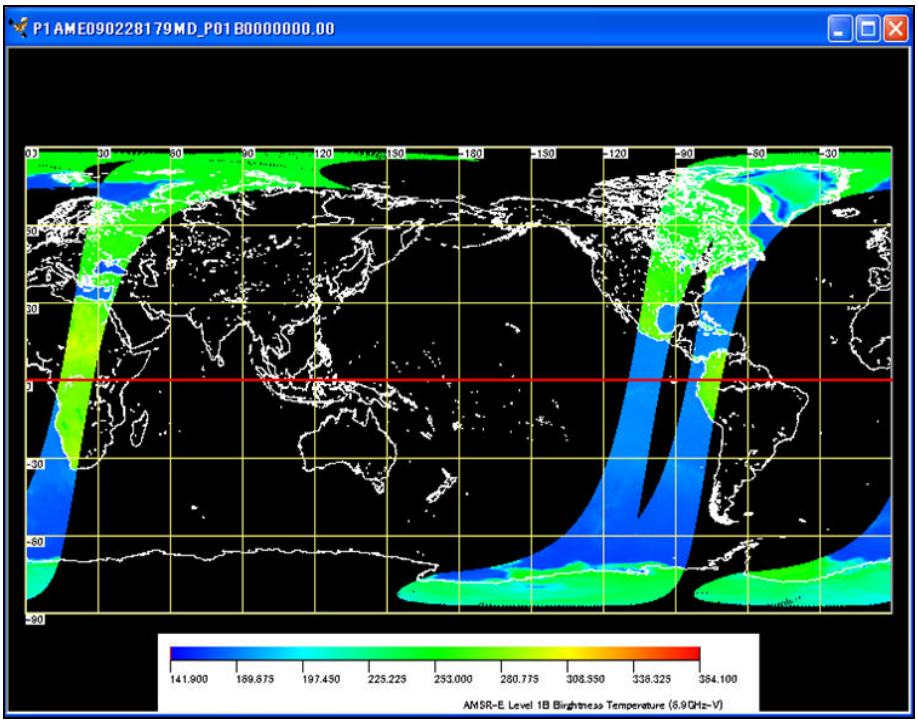


図 4.1.1.2-6 プロダクト/地図表示画面

◆「キャンセル」ボタン

①本ボタンをクリック

②AMSR/AMSR-E プロダクトの読み込みを中止して『ファイルオープンダイアログ画面(AMSR/AMSR-E)』を閉じます。

4.1.1.3. AMSR2 HDF 出力プロダクト読み込み

本サブメニューを選択すると、『AMSR2 HDF 出力ファイルオープンダイアログ画面』を表示し、AMSR2 プロダクトを読み込むことができます。

『AMSR2 HDF 出力ファイルオープンダイアログ画面』を図 4.1.1.3-1 に示し、読み込み方法について説明します。

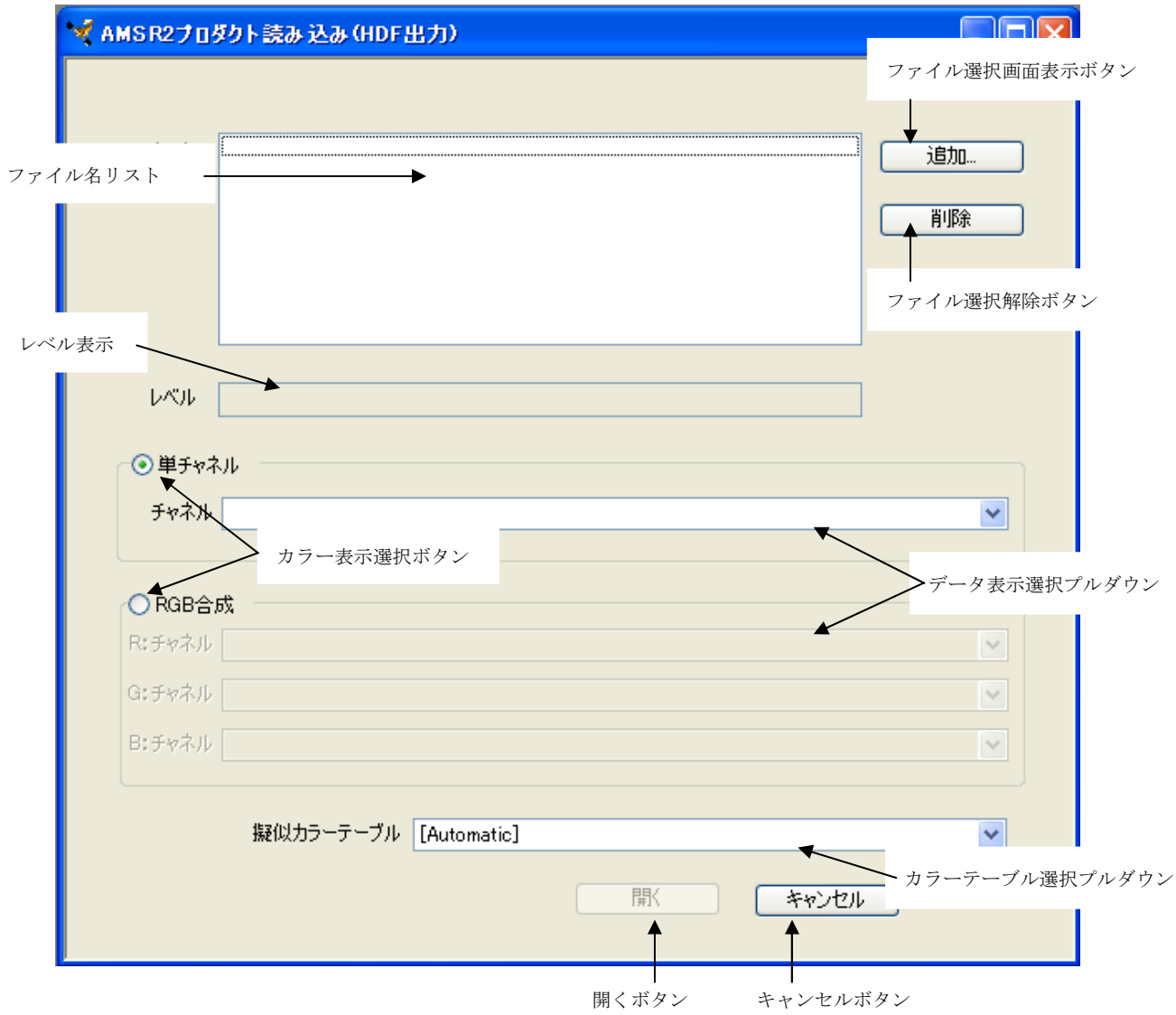


図 4.1.1.3-1 AMSR2 HDF 出力ファイルオープンダイアログ画面

◆「ファイル名リスト」

本リストには、同一レベルの AMSR2 プロダクトのみ指定する必要があります。選択したプロダクトのレベルがレベル表示フィールドに表示されます。

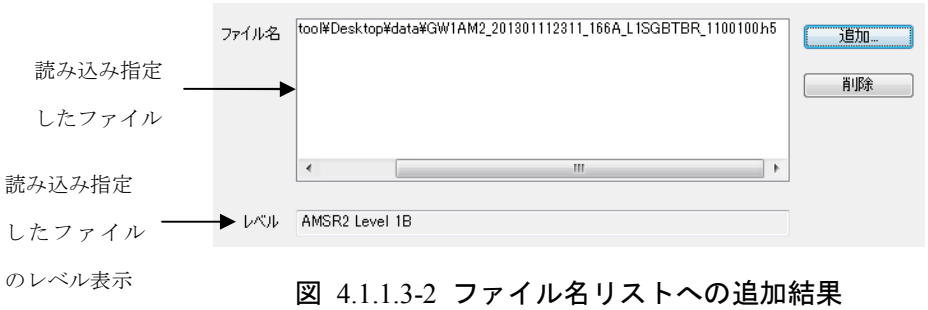


図 4.1.1.3-2 ファイル名リストへの追加結果

本リストに指定できるファイルの数は、1 ファイルのみになります。環境設定で設定した最大ファイル数は適用されません。

◆「ファイル選択追加」ボタン

①本ボタンをクリック

②『ファイル選択画面』が表示

③「ファイル名リスト」に追加する AMSR2 プロダクトのファイルを選択することができます。

◆「ファイル選択削除」ボタン

①「ファイル名リスト」から削除するファイルを選択

②「ファイル選択削除」ボタンをクリック

③「ファイル名リスト」からファイルを削除することができます。

◆「カラー表示選択」ボタン

①「単チャネル」または「RGB 合成」のどちらかを選択

②データ表示選択プルダウンよりチャネルを指定します。

※レベル 2 のプロダクトを入力する場合はチャネル選択できません。

「カラー表示選択」ボタンの指定により、カラーテーブル選択プルダウンタイトル表示が切り替わります。

【単チャネルの場合】

「単チャネル」を選択した場合は、カラーテーブル選択プルダウンのタイトル表示が「カラーバーテーブル」に替わります。

カラーバーテーブル選択プルダウンより任意のカラーテーブルを選択します。

本プルダウンメニューには、カラーテーブルフォルダの中の AMSR2 フォルダに格納されているファイルの内、拡張子が「clt」のファイルがすべて表示されます。また、プロダクトの最大・最小値と 9 色のパレットが自動的に選択される「[Automatic]」を選択することができます。

図 4.1.1.3-3 単チャネルのカラーバー選択

【RGB 合成の場合】

「RGB 合成」を選択した場合は、カラーテーブル選択プルダウンのタイトル表示が「ルックアップテーブル」に替わります。

ルックアップテーブル選択プルダウンより任意のルックアップテーブルを選択します。

本プルダウンメニューには、ルックアップテーブルフォルダの中の AMSR2 フォルダに格納されているファイルの内、拡張子が「lut」のファイルがすべて表示されます。また、RGB それぞれの最大・最小値とプロダクトの最大・最小値との対応が自動的に計算される「[Automatic]」を選択することができます。

図 4.1.1.3-4 RGB 合成のルックアップテーブル選択

◆「データ表示選択プルダウン」

プロダクトがレベル 2 の場合には、物理量の 2 階層目まで選択することができます。ただし、1 階層しか存在しないプロダクトで 2 階層目を選択した場合には、エラーメッセージが表示されます。

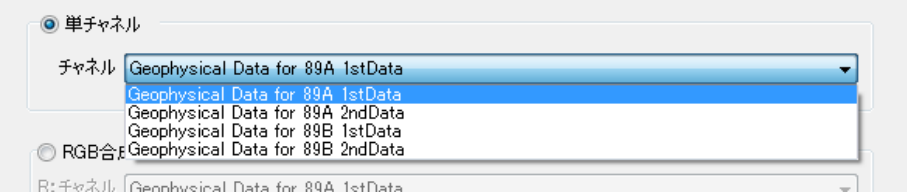


図 4.1.1.3-5 プロダクトレベル 2 のチャネル選択(高解像度)

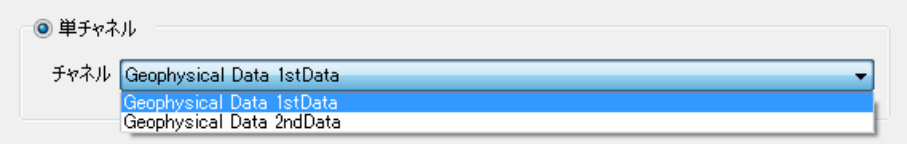


図 4.1.1.3-6 プロダクトレベル 2 のチャネル選択(低解像度)

◆「開く」ボタン

①本ボタンをクリック

②図 4.1.1.3-6 に示すようなプロダクト/地図表示画面を表示します。

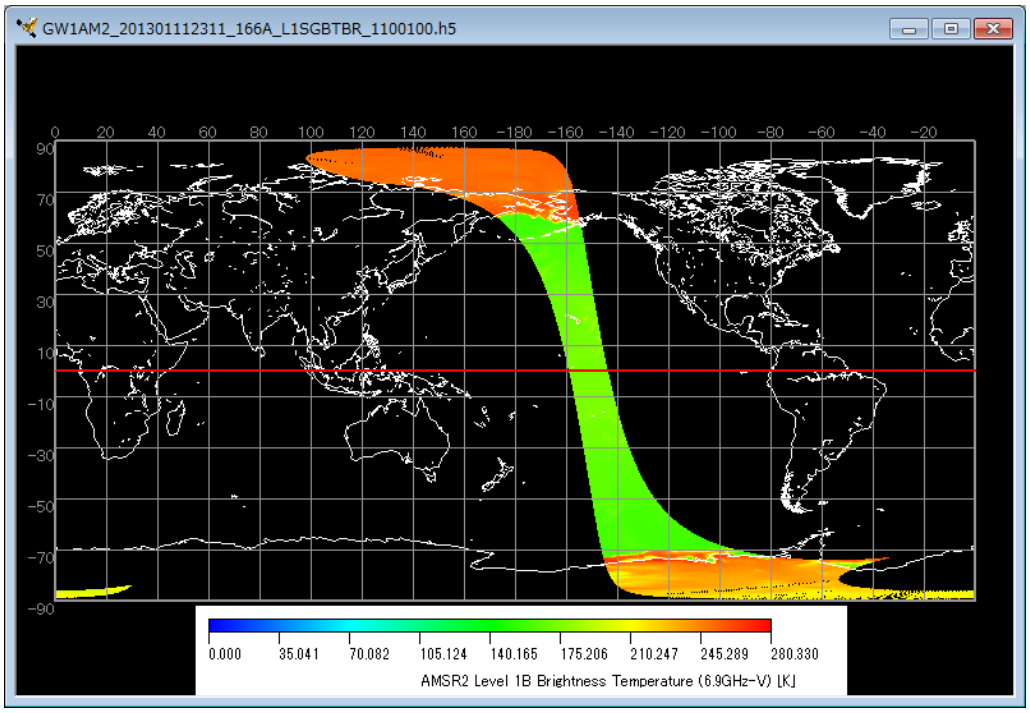


図 4.1.1.3-7 プロダクト/地図表示画面

◆「キャンセル」ボタン

①本ボタンをクリック

②AMSR2 プロダクトの読み込みを中止して『AMSR2 HDF 出力ファイルオープンダイアログ画面』を閉じます。

4.1.1.4. AMSR2 動画作成

動画ファイルの作成メニューの AMSR2 動画作成サブメニューを選択すると、『動画作成ダイアログ(AMSR2)』が表示され、AMSR2 プロダクトの動画を作成することができます。

図 4.1.1.4-1 に画面レイアウトを示し、動画の作成方法について説明します。

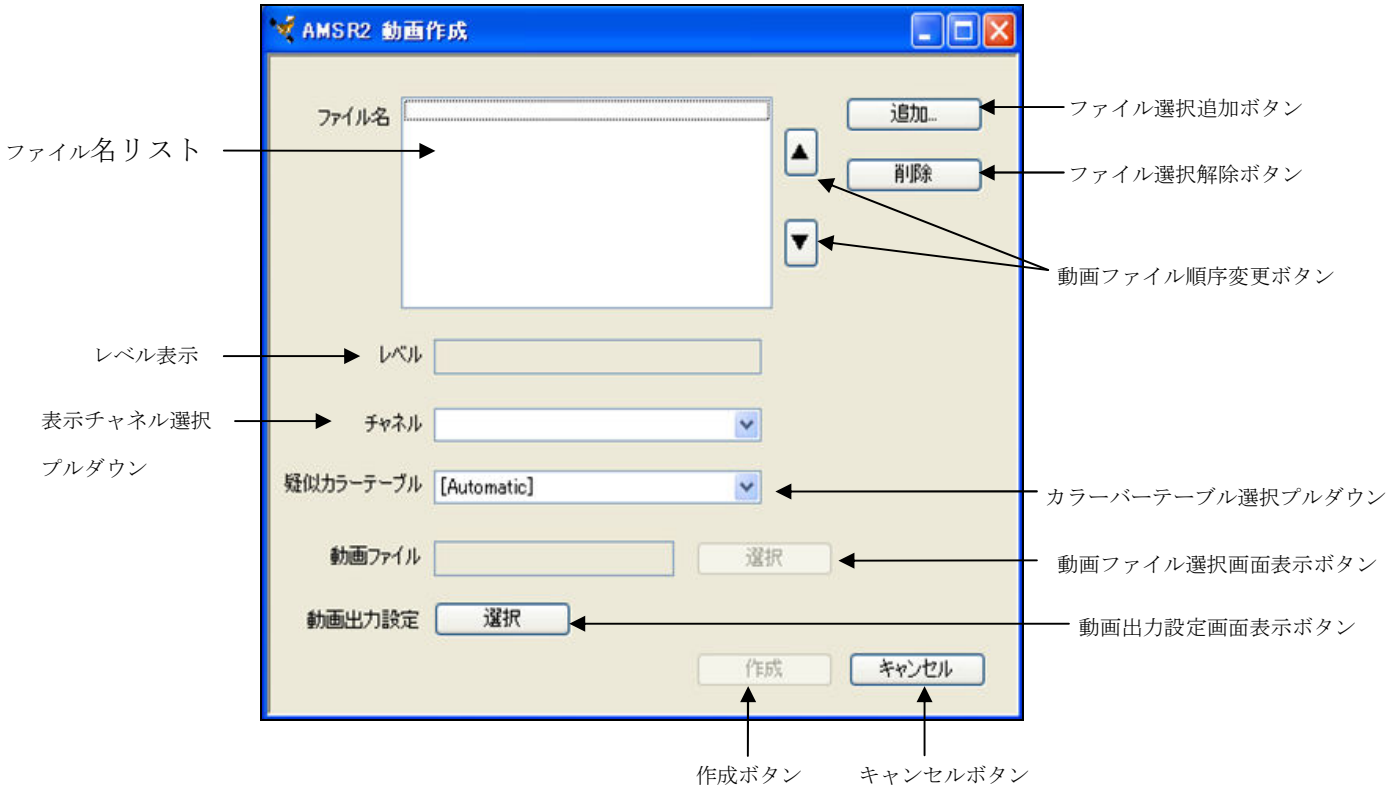


図 4.1.1.4-1 動画作成ダイアログ(AMSR2)

◆「ファイル名リスト」

①本リストに、読み込む AMSR2 プロダクトのファイル名を表示します。

②「ファイル選択追加」ボタン、もしくはドラッグ＆ドロップ操作(図 4.1.1.4-2)で読み込むファイルを指定することができます。

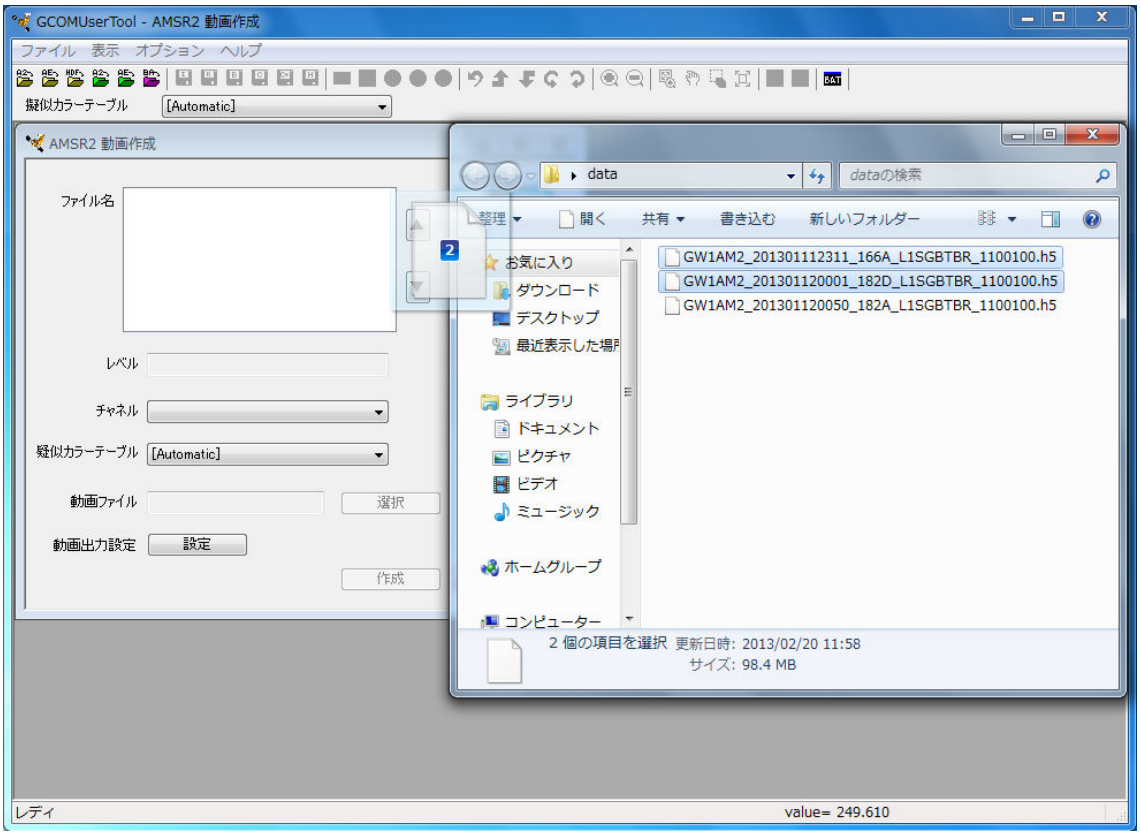


図 4.1.1.4-2 動画作成ダイアログでのドラッグ＆ドロップ操作(イメージ図)

本リストには、同一レベルのプロダクトのみ指定してください。選択したプロダクトのレベルがレベル表示フィールドに表示されます。

図 4.1.1.4-3 ファイル名リストへの追加結果

本リストに指定できるファイル数は、環境設定で設定した最大ファイル数で決定されます。

◆「ファイル選択追加」ボタン

①本ボタンをクリック

②Windows が提供する『ファイル選択画面』が表示

③「ファイル名リスト」に追加する AMSR2 プロダクトのファイルを選択することができます。

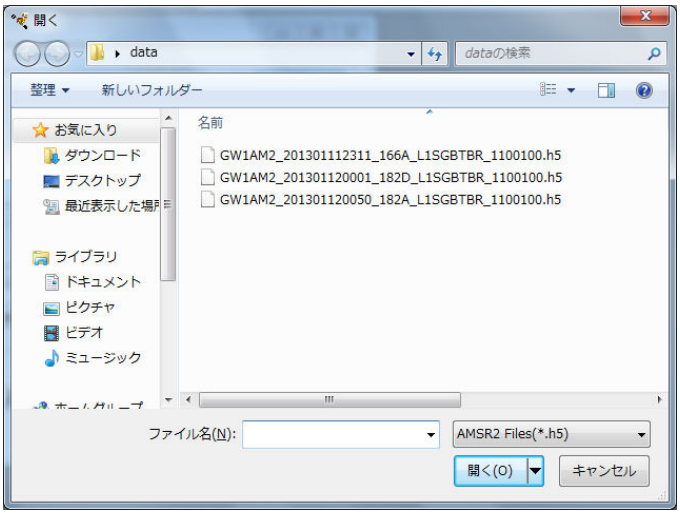


図 4.1.1.4-4 ファイル選択画面

◆「ファイル選択削除」ボタン

①「ファイル名リスト」から選択解除するファイルを選択

②「ファイル選択解削除」ボタンをクリック

③「ファイル名リスト」からファイルを削除することができます

◆「動画ファイル順序変更」ボタン

①「ファイル名リスト」から順序変更するファイルを選択

②「動画ファイル順序変更」ボタンをクリック

③「ファイル名リスト」のファイル順序を変更することができます

◆「データ表示選択プルダウン」

プロダクトがレベル 2 の場合には、物理量の 2 階層目まで選択することができます。ただし、1 階層しか存在しないプロダクトで 2 階層目を選択した場合には、エラーメッセージが表示されます。

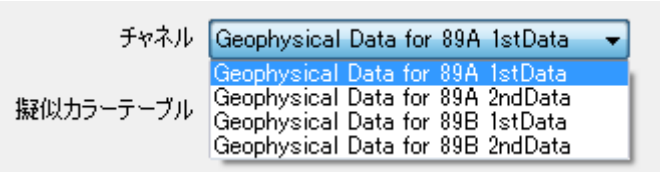


図 4.1.1.4-5 プロダクトレベル 2 のチャネル選択(高解像度)

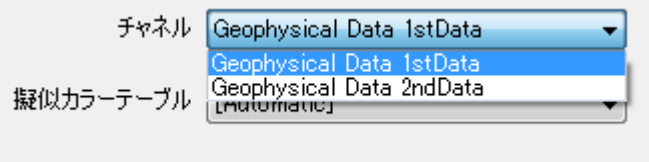


図 4.1.1.4-6 プロダクトレベル 2 のチャネル選択(低解像度)

◆「カラーバーテーブル選択」プルダウン

①本プルダウンから、表示させるカラーバーテーブルファイルを選択することができます。

◆「動画出力設定画面表示」ボタン

◆本ボタンをクリック

◆「動画出力設定画面」を表示します。

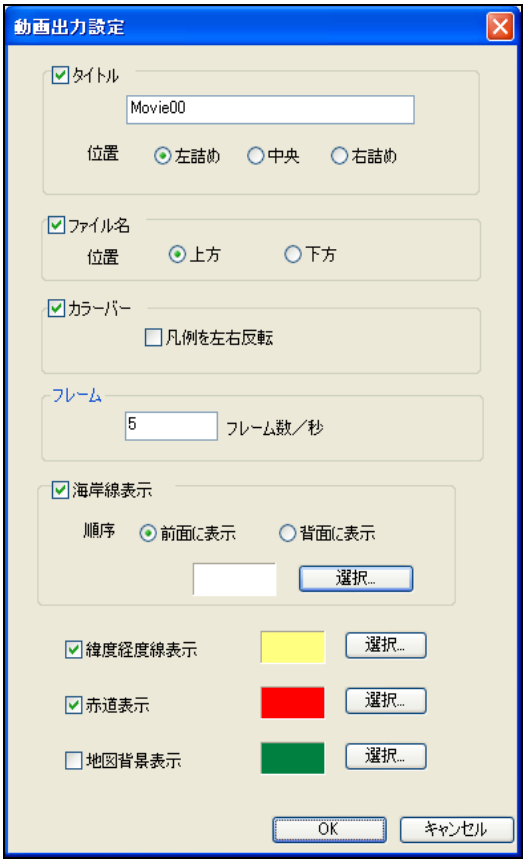


図 4.1.1.4-7 動画出力設定画面

動画出力設定画面では、出力する動画に「タイトル」／「ファイル名」／「カラーバー」などの各情報および「海岸線」／「緯度経度線」などの各線を表示させるか否かを選択できます。

また、各線の色、「タイトル」および「ファイル名」の表示位置、「海岸線」の表示順序も指定できます。「ファイル名」の表示位置は以下の 2 種類の中から指定します(図 4.1.1.4-6 および図 4.1.1.4-7)。その他各情報の詳細な表示方法は、4.3.3 章の「画像出力設定」および 4.3.4 章の「地図レイヤ設定」をご参照ください。

【上方】

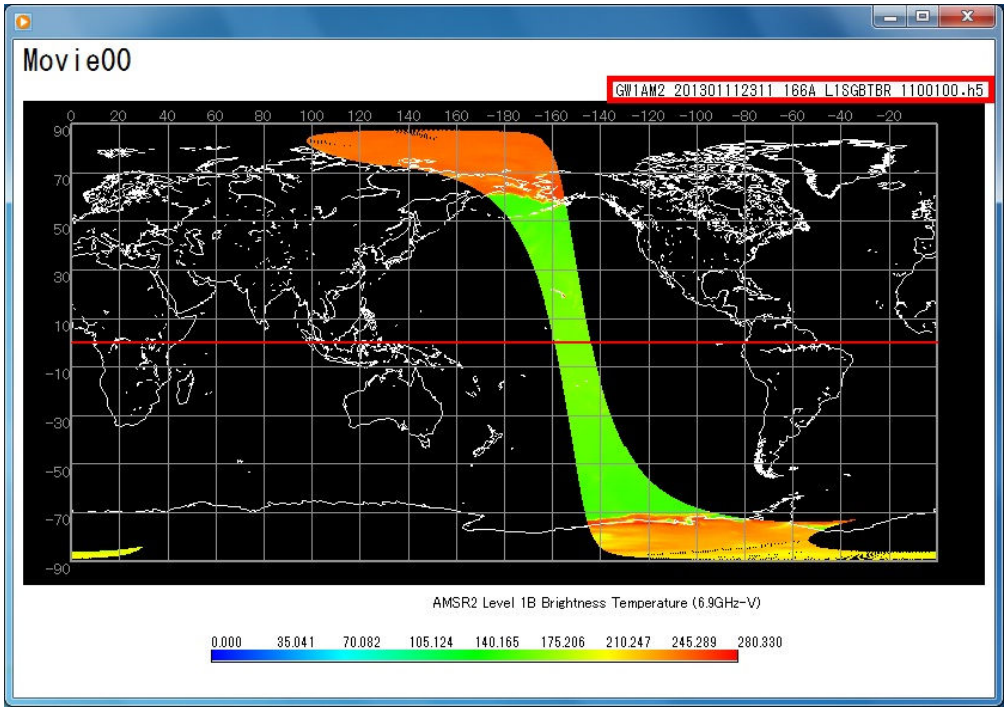


図 4.1.1.4-8 ファイル名表示位置の画像見本(右上)

【下方】

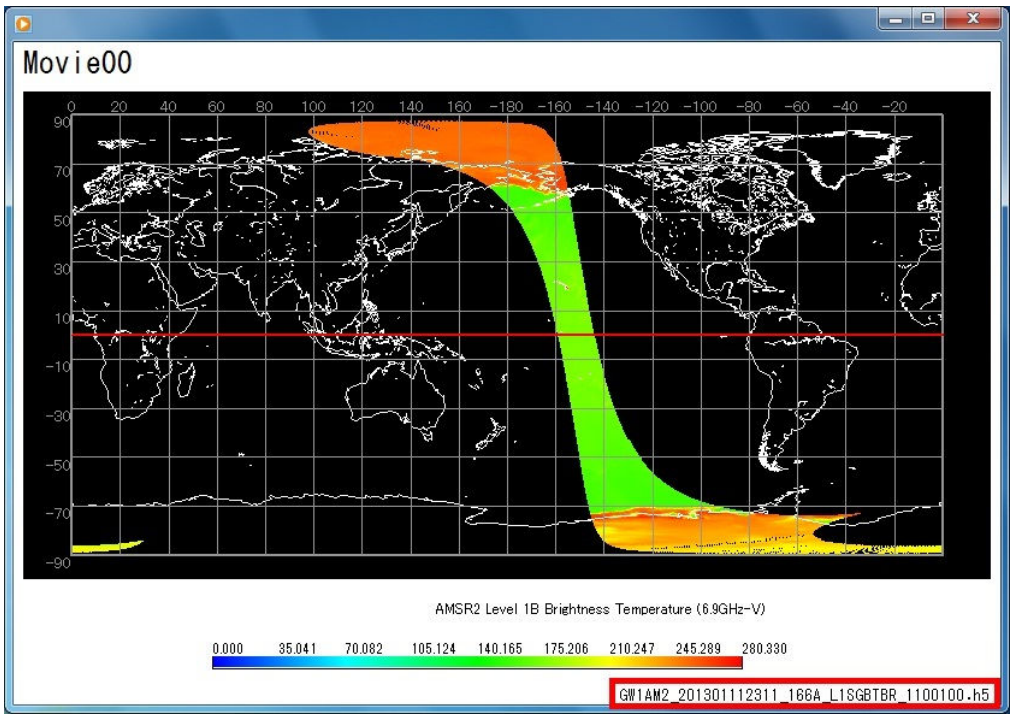


図 4.1.1.4-9 ファイル名表示位置の画像見本(右下)

◆ 「動画ファイル選択画面表示」ボタン

①本ボタンをクリック

②保存する動画ファイル名を選択できます。

ファイルの拡張子によって動画の形式を変更できます(図 4.1.1.4-8)(プロダクトにより選択できる動画の形式が異なります。詳しくは表 1.3-1 を参照ください)。

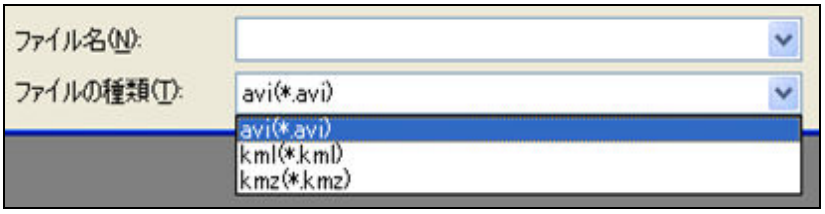


図 4.1.1.4-10 保存する動画ファイルの拡張子選択

AVI(Audio Video Interleave)形式は Windows 専用 の動画ファイル用の形式です。本ユーザツールでは、無圧縮の AVI ファイルを作成することができます。AVI ファイルの再生には Windows Media Player などのメディアプレイヤーをご使用ください。

KML(Keyhole Markup Language)形式は、Google Earth™に地理空間情報を表示するための形式です。本機能で作成される KML ファイルは、Google Earth™のタイムライン機能に対応しています。Google Earth™ については、ウェブページ(http://earth.google.com/intl/ja/)をご覧ください。

KMZ 形式は、KML 形式のファイル(および関連する画像ファイルなど)を圧縮・アーカイブした形式です。KMZ 形式のファイルは KML 形式同様に、Google Earth™などの対応アプリケーションで表示することができます。

◆「作成」ボタン

①本ボタンをクリック

②AMSR2 プロダクトの動画を作成します。

◆「キャンセル」ボタン

①本ボタンをクリック

②AMSR2 プロダクトの動画作成を中止して『動画作成ダイアログ(AMSR2)』を閉じます。

4.1.1.5. AMSR/AMSR-E 動画作成

動画ファイルの作成メニューの AMSR/AMSR-E 動画作成サブメニューを選択すると、『動画作成ダイアログ(AMSR/AMSR-E)』が表示され、AMSR プロダクトの動画を作成することができます。

図 4.1.1.5-1 に画面レイアウトを示し、動画の作成方法について説明します。

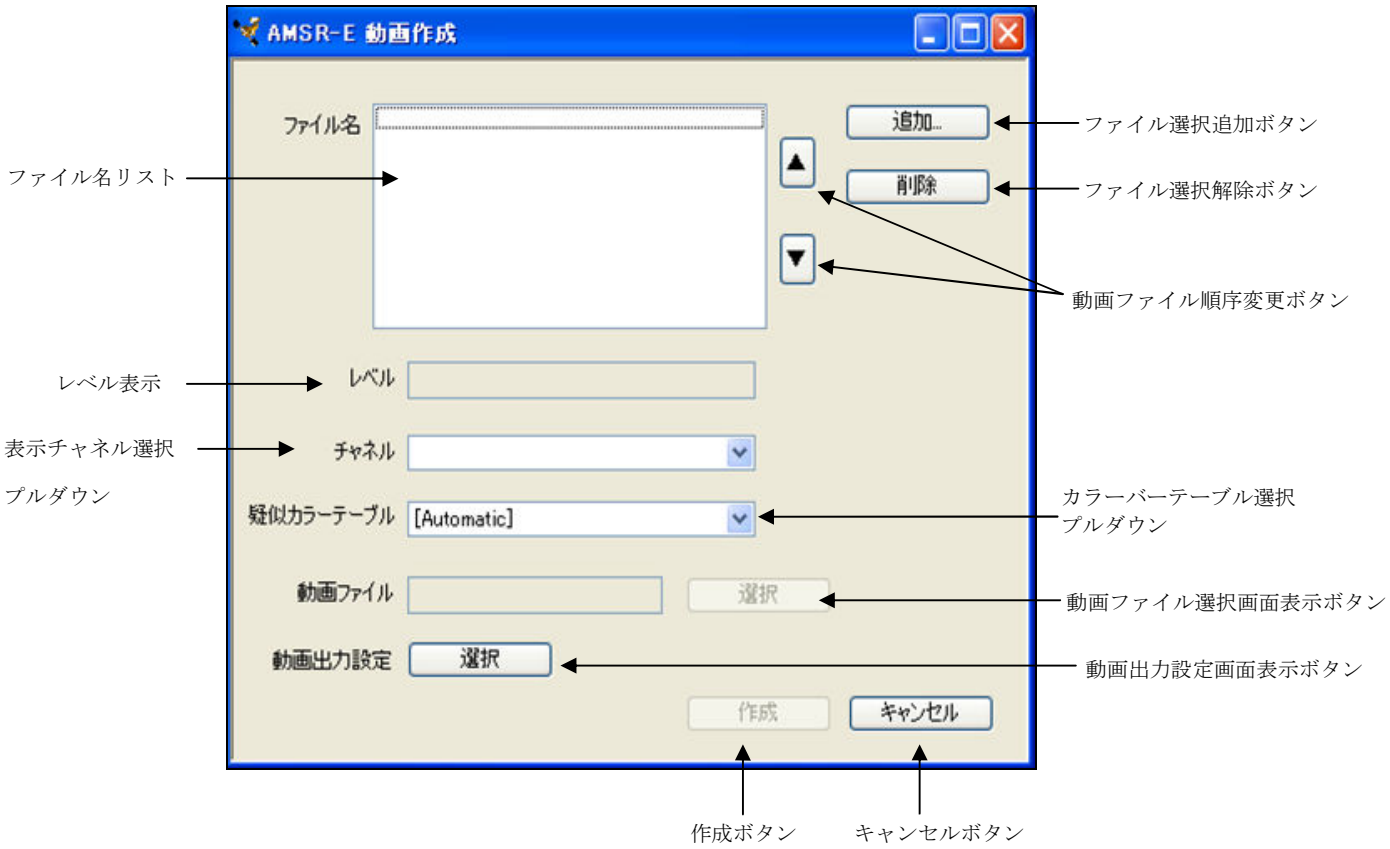


図 4.1.1.5-1 動画作成ダイアログ(AMSR/AMSR-E)

◆「ファイル名リスト」

①本リストに、読み込む AMSR/AMSR-E プロダクトのファイル名を表示

②「ファイル選択画面表示」ボタン、またはドラッグ＆ドロップ操作(図 4.1.1.5-2)で読み込むファイルを指定することができます。

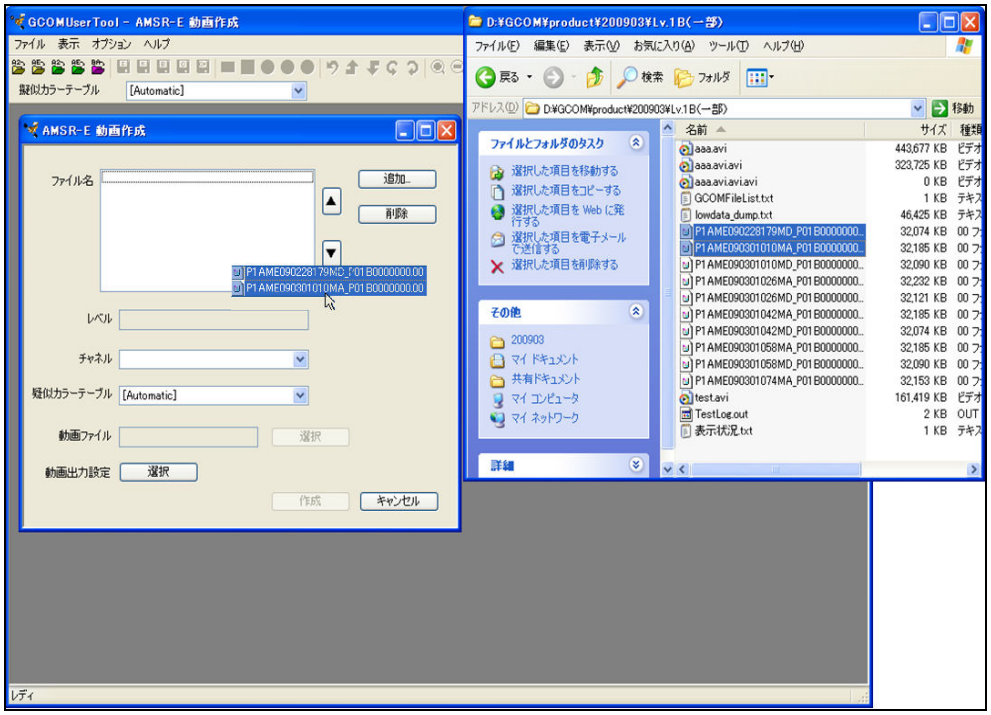


図 4.1.1.5-2 動画作成ダイアログでのドラッグ＆ドロップ操作(イメージ図)

本リストには、同一レベルのプロダクトのみ指定してください。選択したプロダクトのレベルがレベル表示フィールドに表示されます。

図 4.1.1.5-3 ファイル名リストへの追加結果

本リストに指定できるファイルの数は、環境設定で設定した最大ファイル数によって決定されます。

◆「ファイル選択追加」ボタン

①本ボタンをクリック

②『ファイル選択画面』が表示

③「ファイル名リスト」に追加する AMSR/AMSR-E プロダクトのファイルを選択することができます。

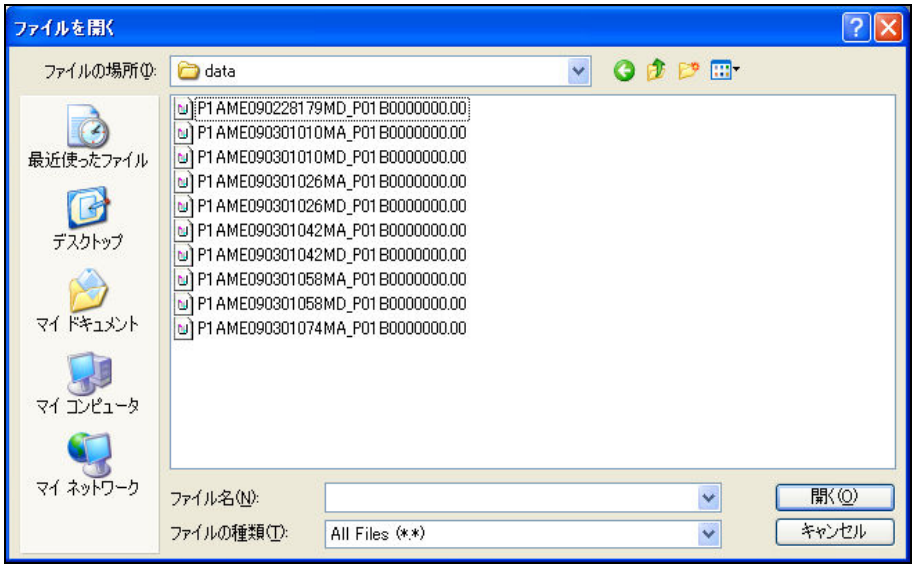


図 4.1.1.5-4 ファイル選択画面

◆「ファイル選択削除」ボタン

①「ファイル名リスト」から選択解除するファイルを選択

②「ファイル選択解削除」ボタンをクリック

③「ファイル名リスト」からファイルを削除することができます

◆「動画ファイル順序変更」ボタン

①「ファイル名リスト」から順序変更するファイルを選択

②「動画ファイル順序変更」ボタンをクリック

③「ファイル名リスト」のファイル順序を変更することができます

◆「データ表示選択プルダウン」

表示するチャネルを選択します。

◆「カラーバーテーブル選択」プルダウン

①本プルダウンから、表示させるカラーバーテーブルファイルを選択することができます。

◆「動画出力設定画面表示」ボタン

①本ボタンをクリック

②「動画出力設定画面」を表示します。

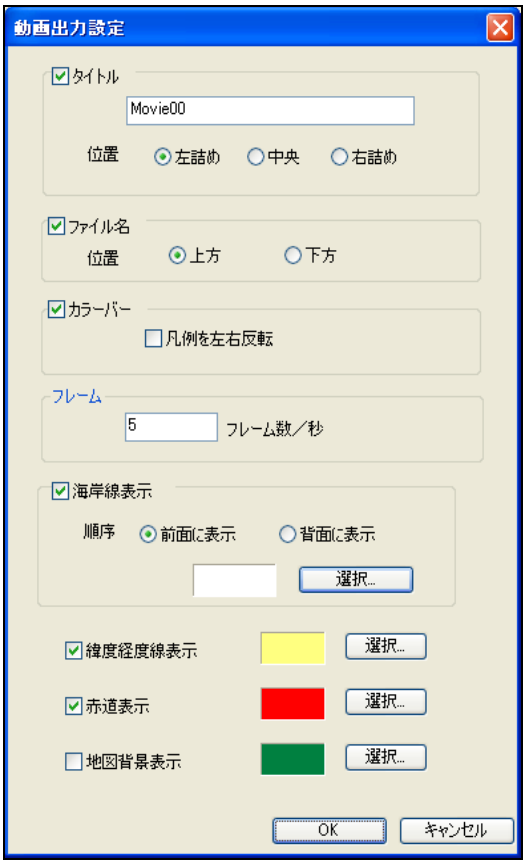


図 4.1.1.5-5 動画出力設定画面

動画出力設定画面では、出力する動画に「タイトル」／「ファイル名」／「カラーバー」などの各情報および「海岸線」／「緯度経度線」などの各線を表示させるか否かを選択できます。

また、各線の色、「タイトル」および「ファイル名」の表示位置、「海岸線」の表示順序も指定できます。「ファイル名」の表示位置は以下の 2 種類の中から指定します(図 4.1.1.5-6 および図 4.1.1.5-7)。その他各情報の詳細な表示方法は、4.3.3 章の「画像出力設定」および 4.3.4 章の「地図レイヤ設定」をご参照ください。

【上方】

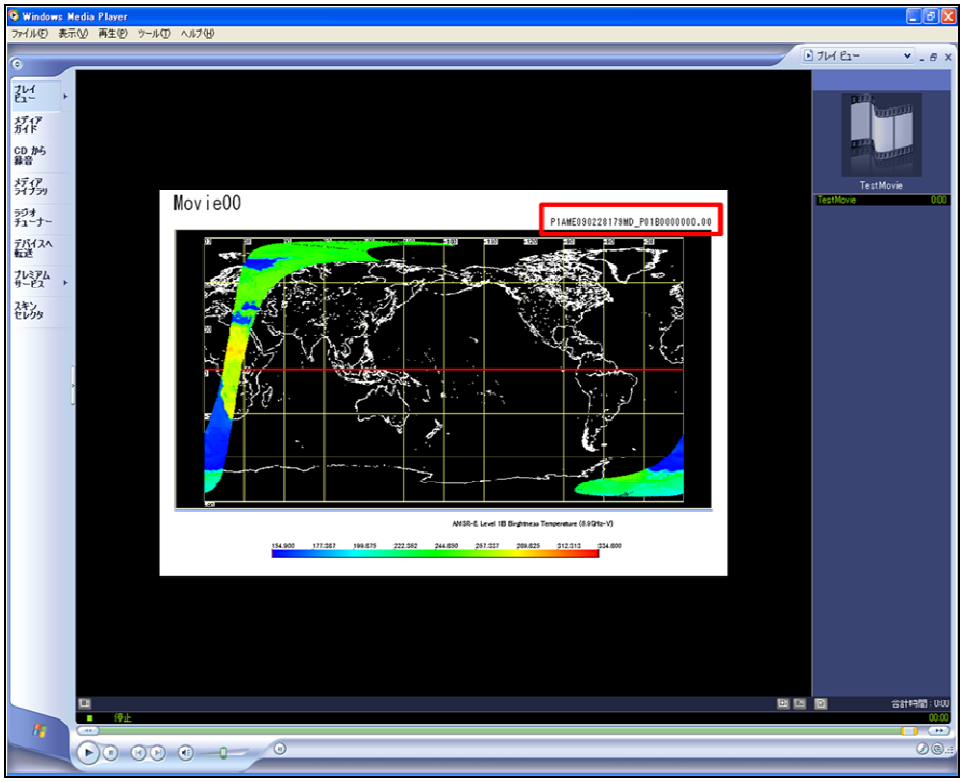


図 4.1.1.5-6 ファイル名表示位置の画像見本(右上)

【下方】

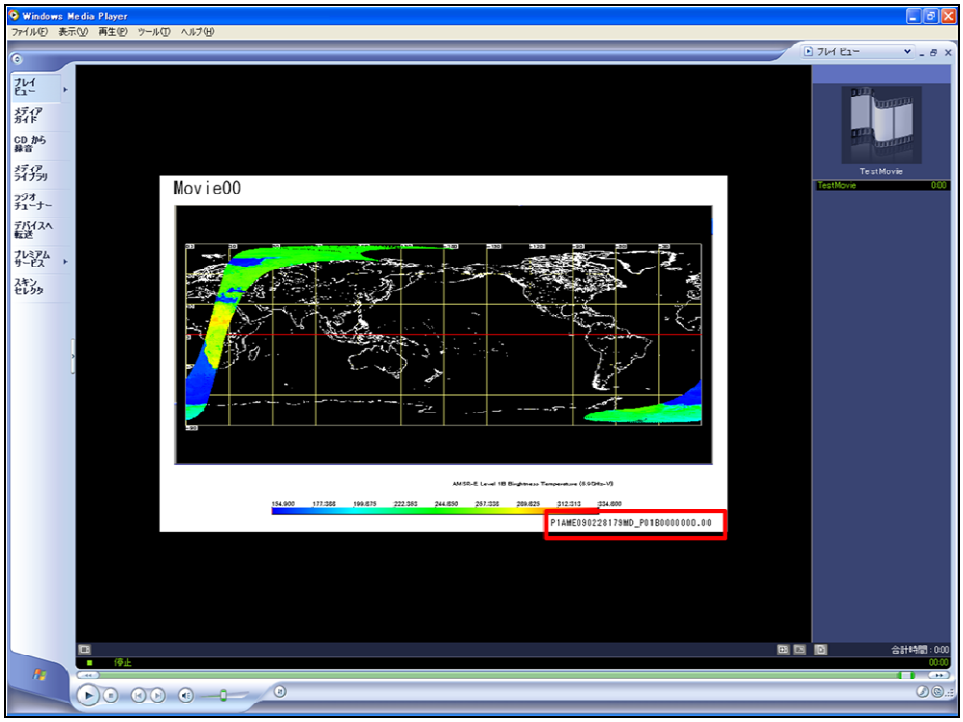


図 4.1.1.5-7 ファイル名表示位置の画像見本(右下)

◆「動画ファイル選択画面表示」ボタン

①本ボタンをクリック

②保存する動画ファイル名を選択

③ファイルの拡張子によって動画の形式を変更できます(図 4.1.1.5-8)(プロダクトにより選択できる動画の形式が異なります。詳しくは表 1.3-1 を参照ください)。

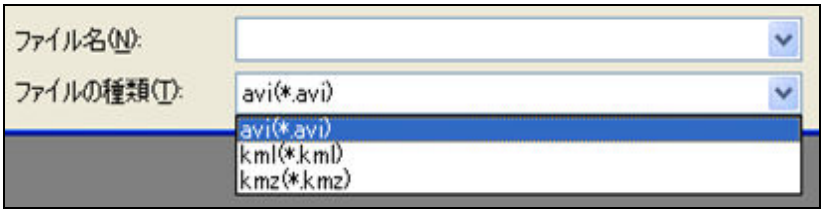


図 4.1.1.5-8 保存する動画ファイルの拡張子選択

AVI(Audio Video Interleave)形式は Windows 専用の動画ファイル用の形式です。本ユーザツールでは、無圧縮の AVI ファイルを作成することができます。AVI ファイルの再生には Windows Media Player などのメディアプレイヤーをご使用ください。

KML(Keyhole Markup Language)形式は、Google Earth™に地理空間情報を表示するための形式です。本機能で作成される KML ファイルは、Google Earth™のタイムライン機能に対応しています。Google Earth™ については、ウェブページ(http://earth.google.com/intl/ja/)をご覧ください。

KMZ 形式は、KML 形式のファイル(および関連する画像ファイル等)を圧縮・アーカイブした形式です。KMZ 形式のファイルは KML 形式同様に、Google Earth™などの対応アプリケーションで表示することができます。

◆「作成」ボタン

①本ボタンをクリック

②AMSR/AMSR-E プロダクトの動画を作成します。

◆「キャンセル」ボタン

①本ボタンをクリック

②AMSR/AMSR-E プロダクトの動画作成を中止して『動画作成ダイアログ(AMSR/AMSR-E)』を閉じます。

4.1.2. 画像形式で保存

本メニューを選択すると、表示されている画像を JPEG/TIFF/BMP/PNG 形式のファイルに保存することができます。

本メニューを選択すると、図 4.1.2-1 に示す『画像ファイル保存画面』を表示します。保存ファイル名および出力形式を指定して保存ボタンをクリックしてください。

デフォルトの出力形式は、「JPEG」です。また、保存ファイル名のデフォルトは、「グラニュール_ID.jpg」になります。

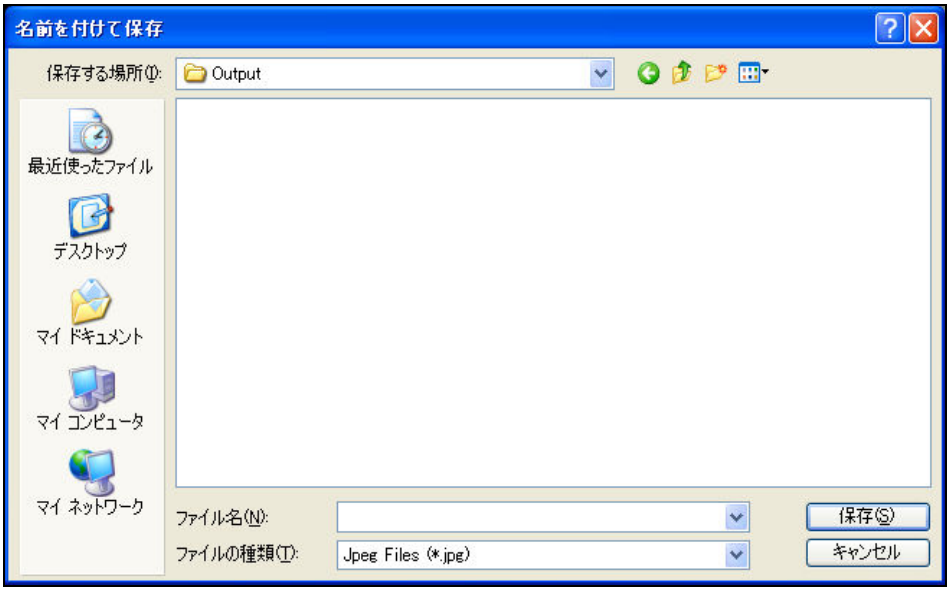


図 4.1.2-1 画像ファイル保存画面

保存画像例を、図 4.1.2-2 に示します。

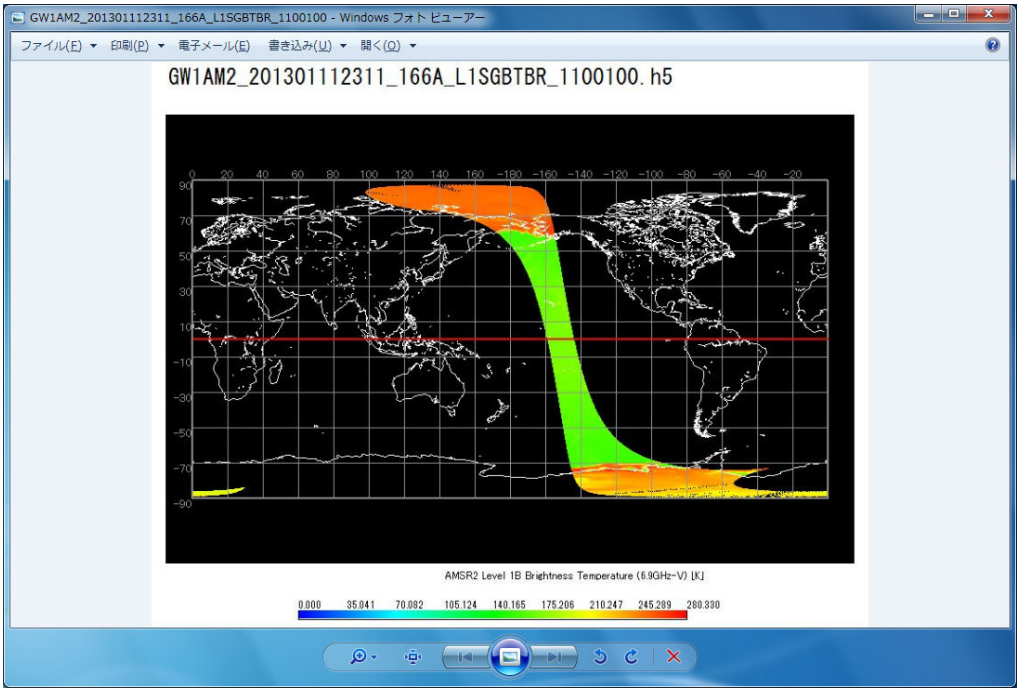


図 4.1.2-2 保存画像例

4.1.3. KML(KMZ)形式で保存

本メニューを選択すると、全球分の画像を KML(注 1)形式のファイルに保存することができます。また、範囲指定モードで範囲を指定した場合、選択した範囲の画像を KML 形式で保存することができます。範囲指定モードについては、『4.2.11 範囲指定モード』を参照のこと。

なお、KML 形式で保存できるプロダクトの種類については表 1.3-1 をご覧ください。

本メニューを選択すると、図 4.1.3-1 に示す『KML ファイル保存画面』を表示します。保存ファイル名と KML 形式/KMZ 形式(注 2)のどちらかを指定して保存ボタンをクリックしてください。

KML ファイルのフォーマットについは、『付録 A.3 KML ファイル』を参照のこと。

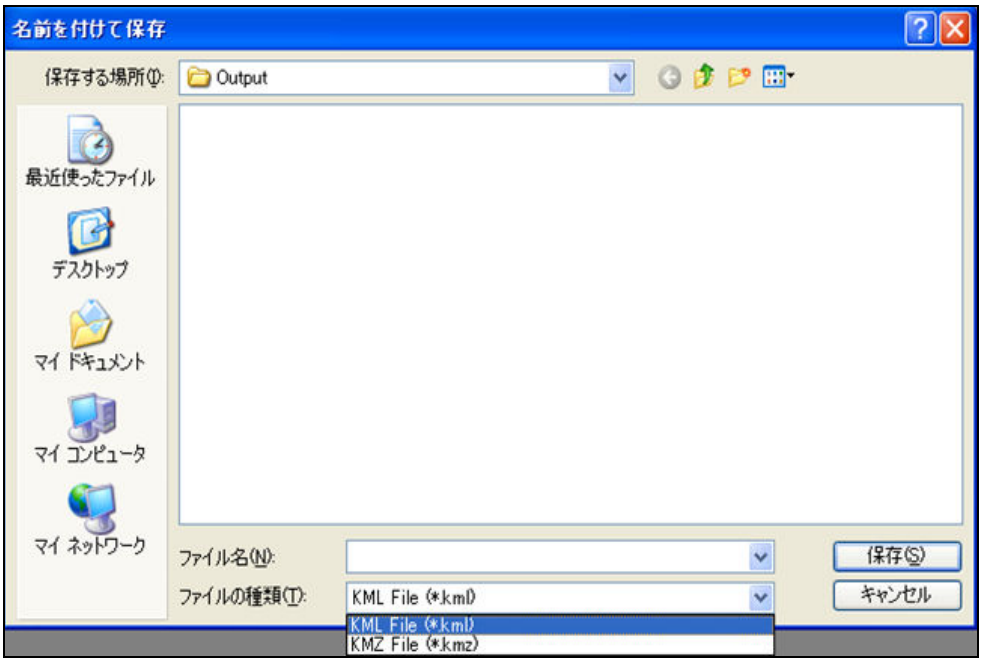


図 4.1.3-1 KML ファイル保存画面

注 1) KML（Keyhole Markup Language）：

AMSR、AMSR-E の各プロダクトの画像ファイルを GoogleEarth™で表示するために必要な KML タグを格納したファイルです。

注 2) KMZ 形式：

KML 形式のファイル(および関連する画像ファイル等)を圧縮・アーカイブした形式です。KMZ 形式のファイルは KML 形式同様に、GoogleEarth™などの対応アプリケーションで表示することができます。

4.1.4. バイナリ形式で保存

本メニューを選択すると、表示されている画像をバイナリ形式のファイルに保存することができます。データ保存時のバイトオーダは、ビックエンディアンとリトルエンディアンから指定できます。バイトオーダの指定方法は、『4.2.3 ユーザ設定』を参照のこと。

本メニューを選択すると、図 4.1.4-1 に示す『バイナリファイル保存画面』を表示します。保存ファイル名を指定して保存ボタンをクリックしてください。

デフォルトの保存ファイル名のデフォルトは、「グラニュール_ID.bin」になります。

バイナリファイルのフォーマットについは、『付録 A.1 バイナリファイル』を参照のこと。

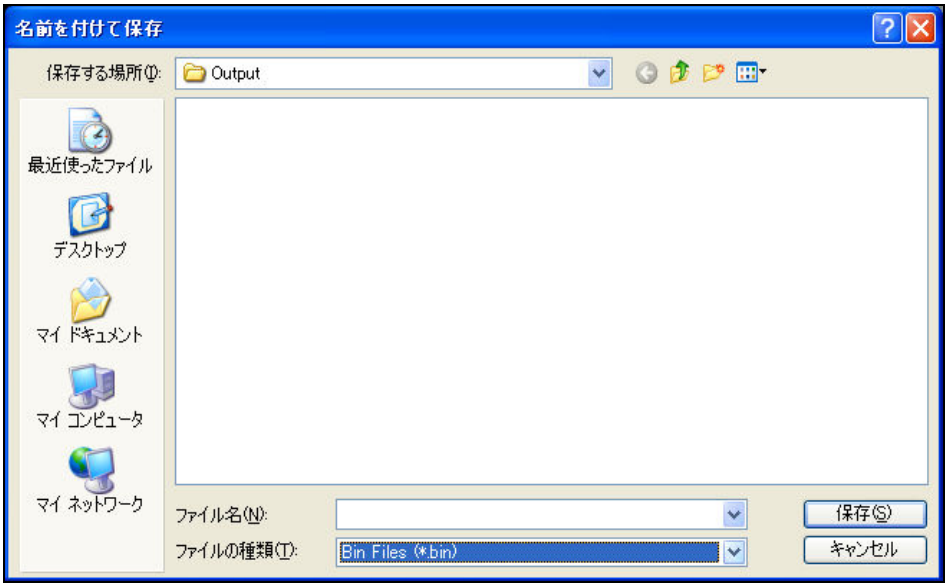


図 4.1.4-1 バイナリファイル保存画面

4.1.5. CSV 形式で保存

選択されている領域の観測データを CSV 形式のファイルに保存することができます。
本メニューには、次の 2 種類のサブメニューがあります。

① 緯経度無し形式 CSV ファイル
② 緯経度値付き形式 CSV ファイル

図 4.1.5-1 にサブメニューを示し、それぞれのサブメニューについて説明します。

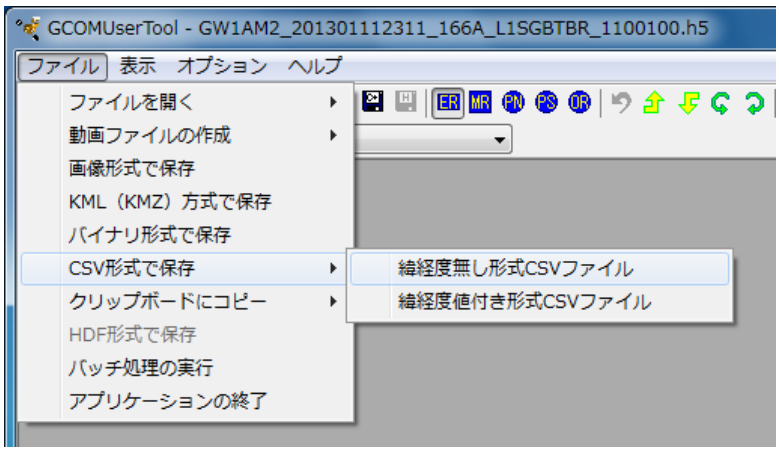


図 4.1.5-1『CSV 形式で保存』サブメニュー

4.1.5.1. 緯経度無し形式 CSV ファイル

本サブメニューを選択すると、図 4.1.5-2 に示す『CSV ファイル保存画面』が表示し、選択されている領域の観測データを緯度経度なしの CSV 形式ファイルを出力することができます。

ただし、地図投影、分解能などの表示方法によっては、緯経度無し形式 CSV ファイルに保存できない場合があります。その時は、本サブメニューの選択時に保存条件のエラーメッセージに従い表示方法を変更してください。

デフォルトの保存ファイル名のデフォルトは、「グラニュール_ID.csv」になります。

CSV ファイルのフォーマットについは、『付録 A.2 CSV ファイル』を参照のこと。。

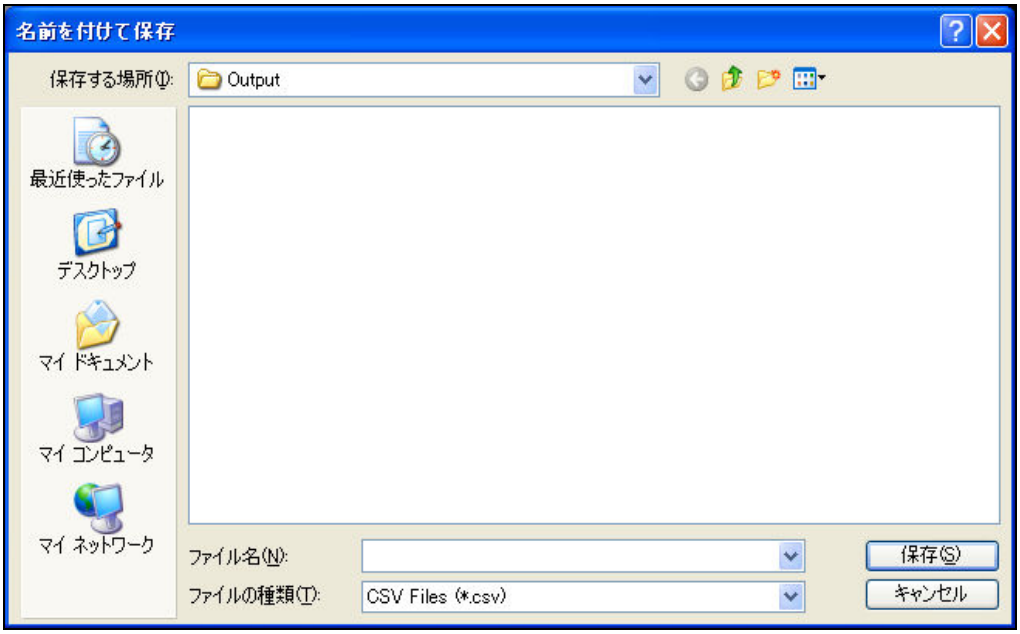


図 4.1.5-2 CSV ファイル保存画面

4.1.5.2. 緯経度値付き形式 CSV ファイル

本サブメニューを選択すると、図 4.1.5-2 に示す『CSV ファイル保存画面』が表示され、選択されている領域の観測データを緯度経度つきの CSV 形式ファイルに出力することができます。

ただし、地図投影、分解能などの表示方法によっては、緯経度値付き形式 CSV ファイルに保存できない場合があります。その時は、本サブメニューの選択時に保存条件のエラーメッセージに従い表示方法を変更してください。エラーメッセージの例を図 4.1.5-3 に示します。

CSV ファイルのフォーマットについは、『付録 A.2 CSV ファイル』を参照のこと。

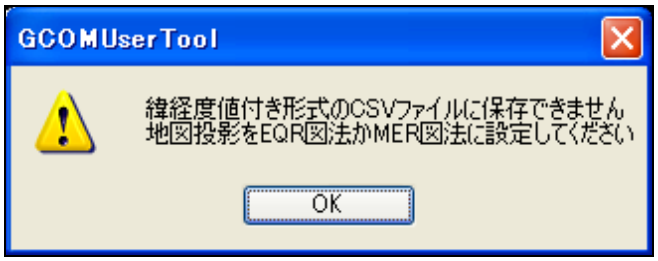


図 4.1.5-3 CSV ファイル保存条件画面

4.1.6. クリップボードにコピー

プロダクト／地図表示画面に表示されている画像をクリップボードにコピーすることができます。

この機能を用いると、表示されている画像を簡単にその他のアプリケーションで利用することができます。

本メニューには、次の２種類の機能があり、それぞれサブメニューから選ぶことができます。

① 表示画面全体をコピー

プロダクト／地図表示画面に表示されている画像全体をクリップボードにコピーします。

② 選択範囲をコピー

選択された範囲の画像をクリップボードにコピーします。範囲の選択方法は「4.2.11.範囲指定モード」を参照のこと。

4.1.7. HDF 形式で保存

本サブメニューを選択すると、図 4.1.5-4 に示す『HDF ファイル保存画面』を表示し、選択されている領域の観測データを HDF 形式ファイルに出力することができます。

画面上に表示した画像から、出力範囲を矩形選択し、選択範囲に一部でも含まれるデータをスキャン単位で切り出してファイル出力します。図 4.1.7-1 にデータの切り出しイメージを示します。

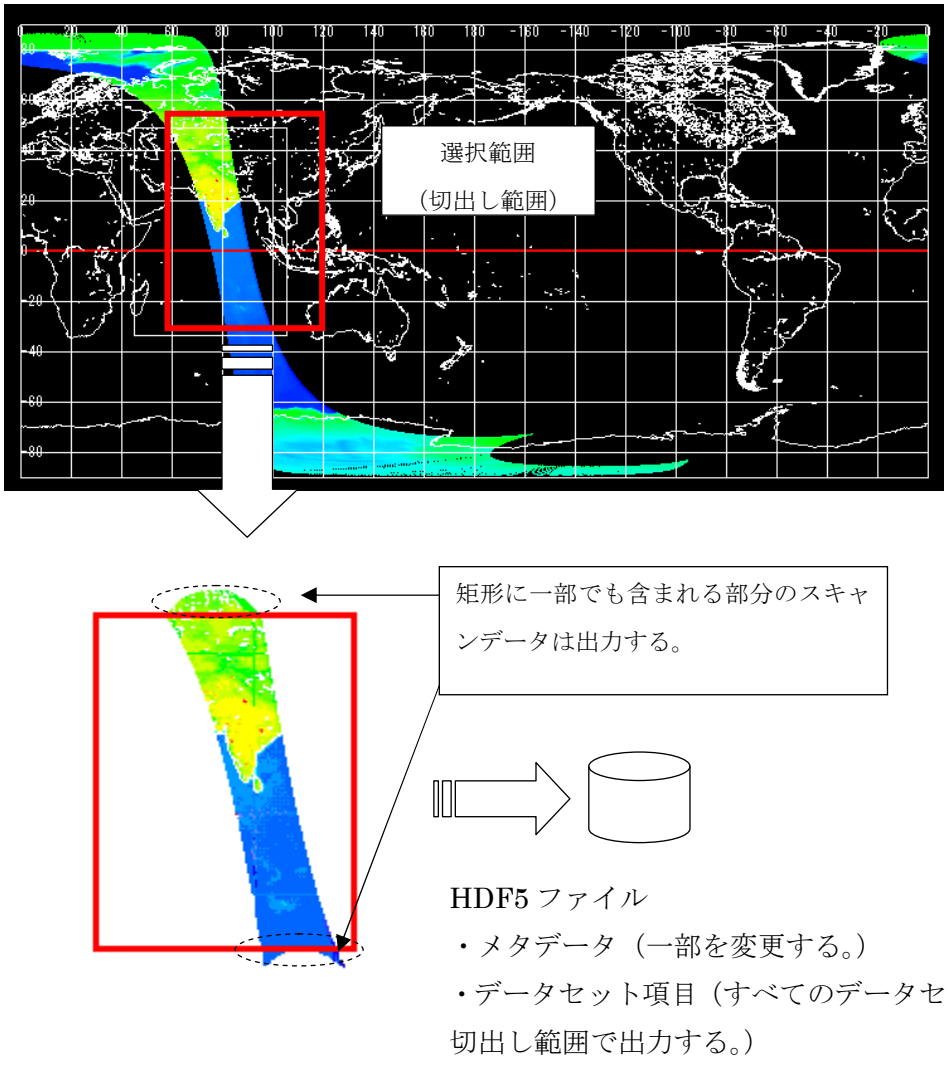


図 4.1.7-1　プロダクトデータの切り出し（イメージ）

デフォルトの保存ファイル名は、「グラニュール ID_左上緯度左上経度右下緯度右下経

度.h5」になります。

(例：GW1AM2_200306060523_218D_L2SGPRCHZ1223517_N36E138N34E140.h5)

緯度経度値は、頭文字に北緯(N)、南緯(S)、東経(E)、西経(W)いずれかのアルファベット 1 文字を付けます。緯度経度値の桁数は、経度は 3 桁、緯度は 2 桁に統一します。

HDF ファイルのフォーマットについは、『付録 A.5 HDF ファイル』を参照のこと。。

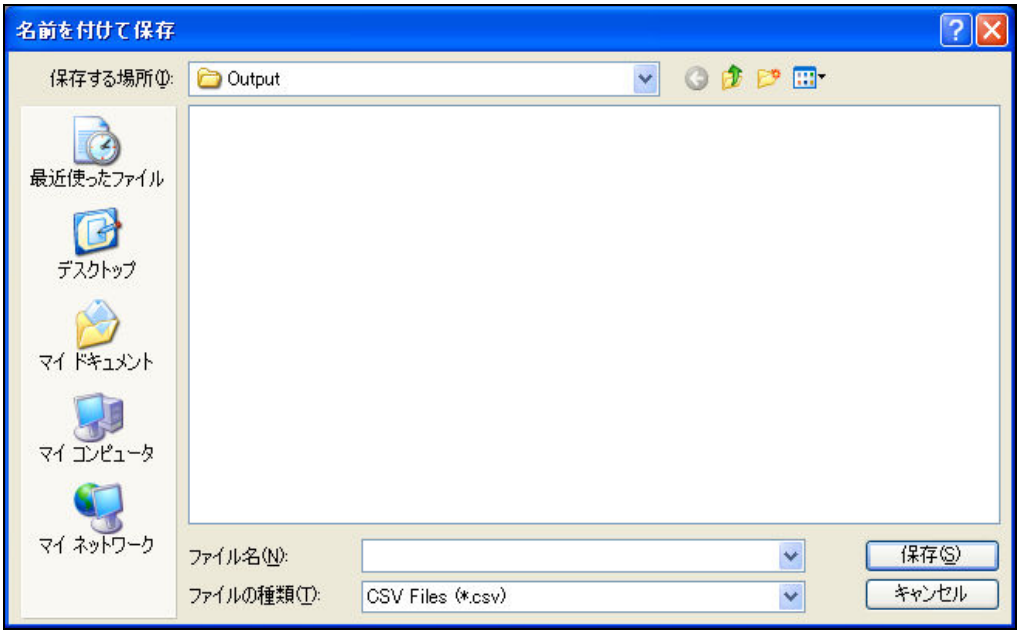


図 4.1.7-2 HDF ファイル保存画面

4.1.8. バッチ処理の実行

本サブメニューを選択すると、図 4.1.7-1 に示す『ファイルを開く画面』が表示され、画面で選択されたバッチファイルを読み込み、そのファイルに記述されているコマンド内容を解析し連続実行することができます。

この機能を用いると、簡単に同じ処理を繰り返すことができます。

バッチ ファイルのフォーマットについは、『付録 A.8 バッチ ファイル』を参照のこと。

4.1.9. アプリケーションの終了

本メニューを選択すると、GCOM ユーザツールを終了することができます。

4.2. 表示メニュー

表示メニューには、以下に示す 11 種類のメニューがあります。

① ツールバー
② ステータスバー
③ 拡大・縮小
④ 地図投影
⑤ メタデータ
⑥ カラーバー表示位置
⑦ 拡大モード
⑧ 移動モード
⑨ 範囲指定モード
⑩ 選択範囲数値指定
⑪ バッチコマンド履歴

図 4.2.1 に表示メニューを示し、以下それぞれのメニューについて説明します。

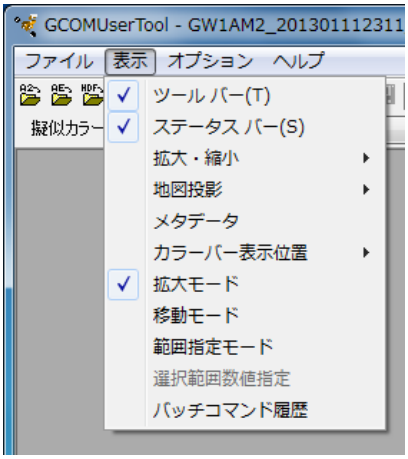


図 4.2-1 表示メニュープルダウン

4.2.1. ツールバー

本メニューを選択すると、ツールバーの表示／非表示を設定することができます。

ツールバーを表示している画面を図 4.2.1-1 に、ツールバーを表示していない画面を図 4.2.1-2 に示します。

【ツールバー表示】

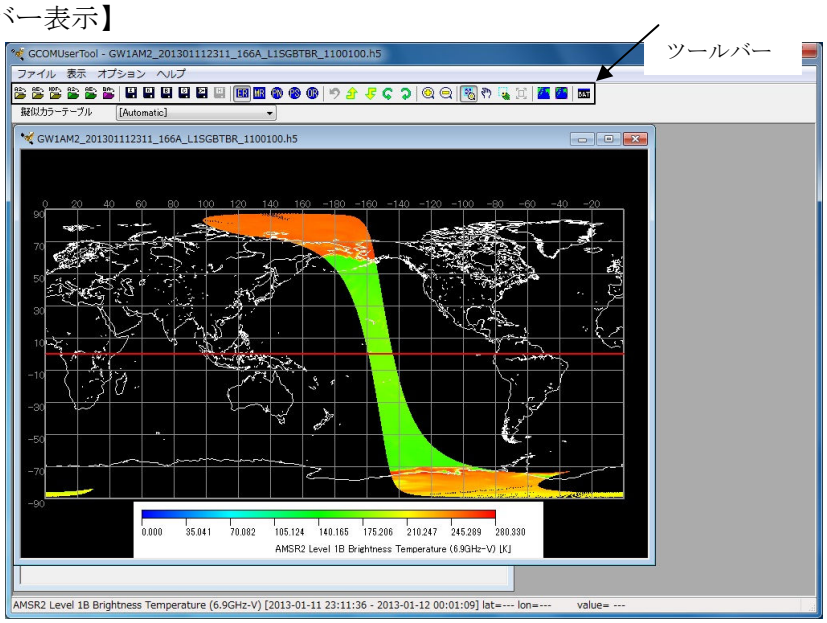


図 4.2.1-1 ツールバーを表示した画面

【ツールバー非表示】

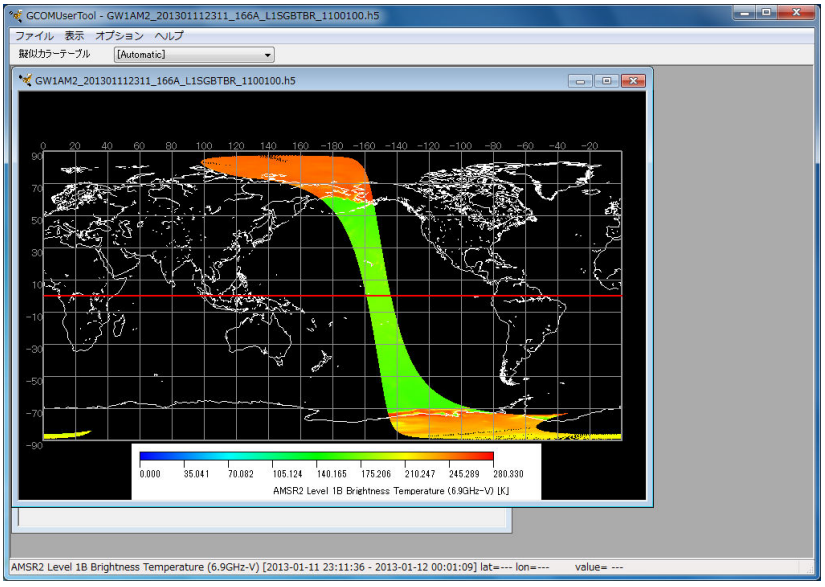


図 4.2.1-2 ツールバー非表示の画面

図 4.2.1-3 にツールバーを示します。

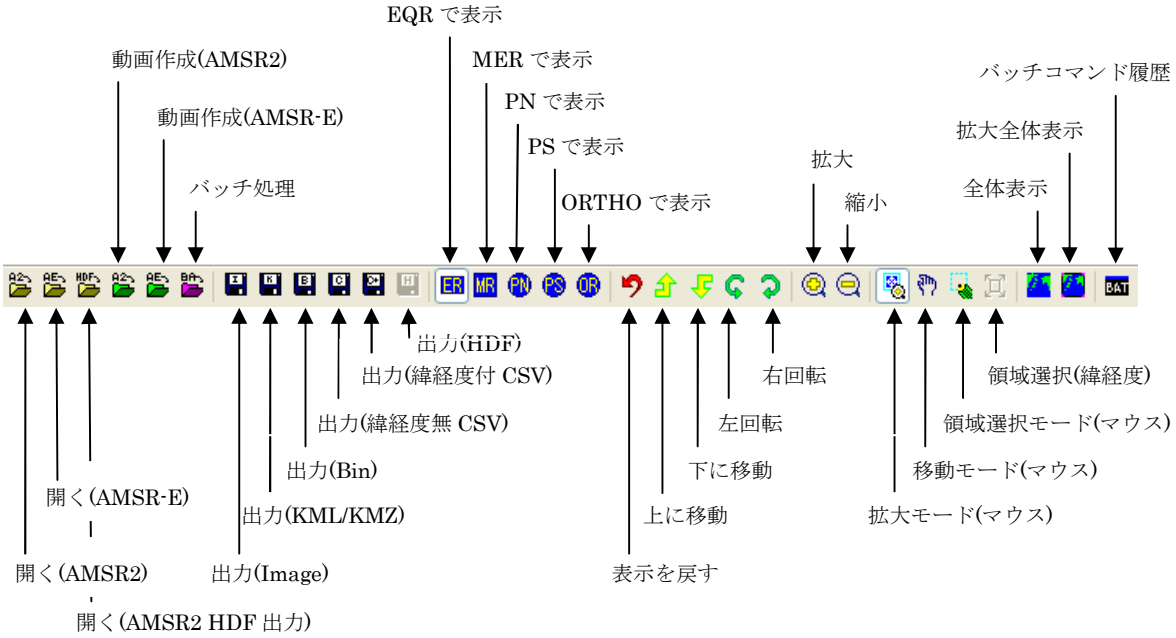


図 4.2.1-3 ツールバー

ツールバーは、画像表示の有無で次のように表示が異なります。

【画像を表示している時】

図 4.2.1-4 画像を表示している時のツールバー

【画像を表示していない時】

図 4.2.1-5 画像を表示していない時のツールバー

以下、ツールバーの各アイコンについて説明します。

1) 『開く(AMSR2)』アイコン

①本アイコンをクリック

②AMSR2 プロダクトを読み込むことができます。

AMSR/AMSR-E プロダクトの読み込みについての詳細は、『4.1.1.1 AMSR2 プロダクト読み込み』を参照のこと。

2) 『開く(AMSR/AMSR-E)』アイコン

①本アイコンをクリック

②AMSR/AMSR-E プロダクトを読み込むことができます。

AMSR/AMSR-E プロダクトの読み込みについての詳細は、『4.1.1.2 AMSR/AMSR-E プロダクト読み込み』を参照のこと。

3) 『開く(AMSR2 HDF 出力)』アイコン

①本アイコンをクリック

②AMSR2 プロダクトを読み込むことができます。

AMSR2 プロダクトの読み込みについての詳細は、『4.1.1.3 AMSR2 HDF 出力 プロダクト読み込み』を参照のこと。

4) 『動画作成(AMSR2)』アイコン

①本アイコンをクリック

②AMSR2 プロダクトから動画ファイルを作成することができます。

AMSR2 プロダクトの動画作成についての詳細は、『4.1.1.4 AMSR2 動画作成』を参照のこと。

5) 『動画作成(AMSR/AMSR-E)』アイコン

①本アイコンをクリック

②AMSR/AMSR-E プロダクトから動画ファイルを作成することが　できます。

AMSR/AMSR-E プロダクトの動画作成についての詳細は、『4.1.1.5 AMSR/AMSR-E 動画作成』を参照のこと。。

6) 『バッチ処理』アイコン

①本アイコンをクリック

②バッチ処理を実行することができます。

バッチ処理についての詳細は、『4.1.1.7 バッチ処理』を参照のこと。。

7) 『出力(Image)』アイコン

①本アイコンをクリック

②画像を JPEG/TIFF/BMP/PNG 形式のファイルに保存することができます。

画像出力(Image)についての詳細は、『4.1.2 画像形式で保存』を参照のこと。

8) 『出力(KML/KMZ)』アイコン

①本アイコンをクリック

②画像を KML(KMZ)形式のファイルに保存することができます。

画像出力(KML)についての詳細は、『4.1.3 KML(KMZ)形式で保存』を参照のこと。

9) 『出力(Bin)』アイコン

①本アイコンをクリック

②画像をバイナリ形式のファイルに保存することができます。

画像出力(Bin)についての詳細は、『4.1.4 バイナリ形式で保存』を参照のこと。

10) 『出力(緯経度無し CSV)』アイコン

①本アイコンをクリック

②画像を緯経度情報無しの CSV 形式のファイルに保存することができます。

画像出力(CSV)についての詳細は、『4.1.5 CSV 形式で保存』を参照のこと。

11) 『出力(緯経度有 CSV)』アイコン

①本アイコンをクリック

②画像を緯経度情報有りの CSV 形式のファイルに保存することができます。

画像出力(CSV)についての詳細は、『4.1.5 CSV 形式で保存』を参照のこと。

12) 『出力(HDF)』アイコン

①本アイコンをクリック

②プロダクトデータを HDF 形式のファイルに保存することができます。

HDF 出力についての詳細は、『4.1.7 HDF 形式で保存』を参照のこと。

13) 『全体表示』アイコン

①本アイコンをクリック

②拡大・縮小した地図表示をデフォルト表示に変更します。

但し、Window サイズは現在のサイズが優先されます。

全体表示についての詳細は、『4.2.4 拡大・縮小』を参照のこと。

14) 『拡大全体表示』アイコン

①本アイコンをクリック

②表示領域をウィンドウ全体に拡大します。

拡大全体表示についての詳細は、『4.2.4 拡大・縮小』を参照のこと。

15) 『拡大』アイコン

①本アイコンをクリック

②画像を拡大表示することができます。

拡大についての詳細は、『4.2.4 拡大・縮小』を参照のこと。

16) 『縮小』アイコン

①本アイコンをクリック

②画像を縮小表示することができます。

縮小についての詳細は、『4.2.4 拡大・縮小』を参照のこと。

17) 『右回転』アイコン

①本アイコンをクリック

②視点を右側に 40 度スクロールさせることができます。“右回転“の様子を図 4.2.1-6 に示します。

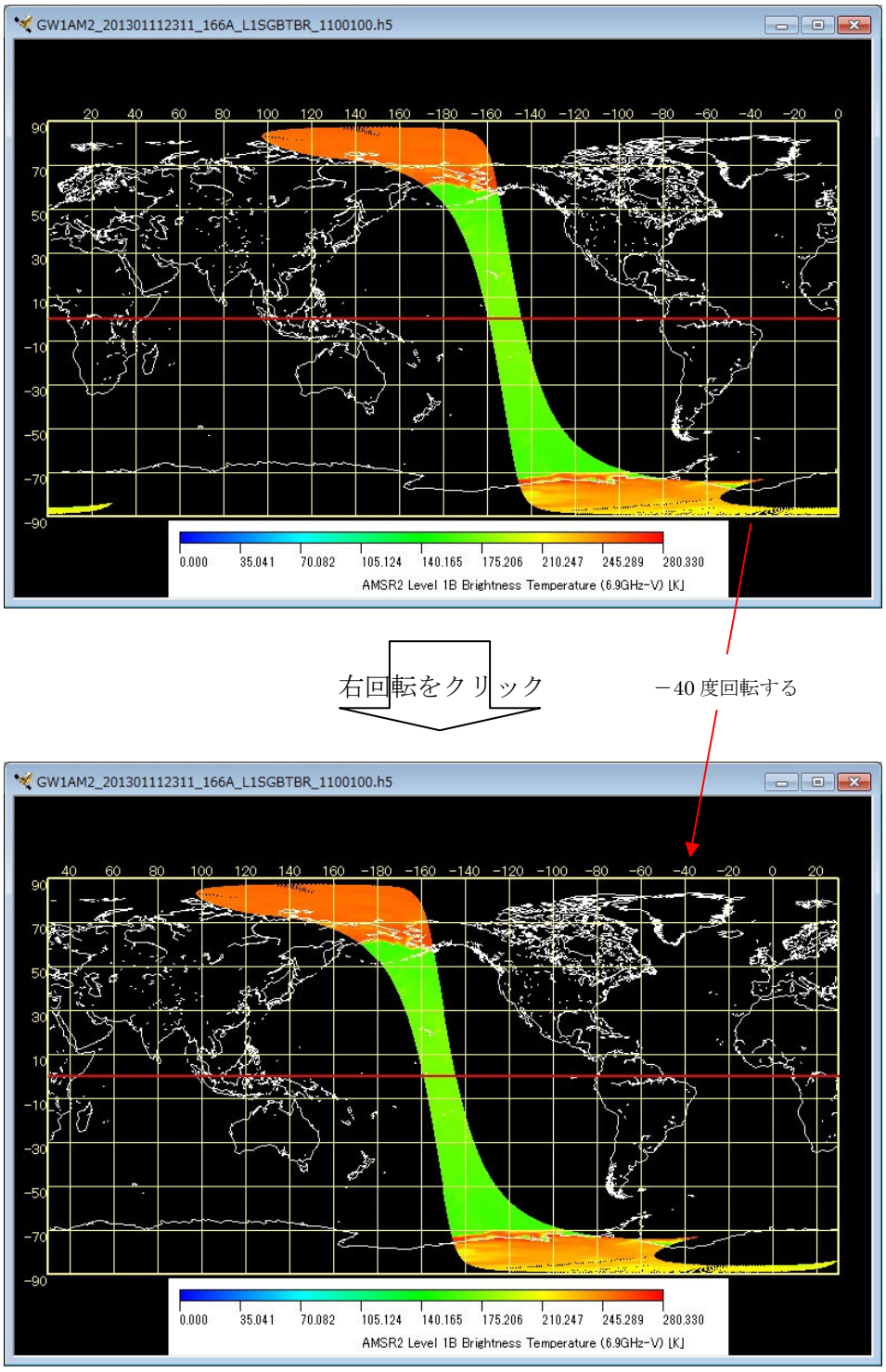


図 4.2.1-6 地図の右回転

18) 『左回転』アイコン

①本アイコンをクリック

②視点を左側に 40 度スクロールさせることができます。“左回転”の様子を図 4.2.1-7 に示します。

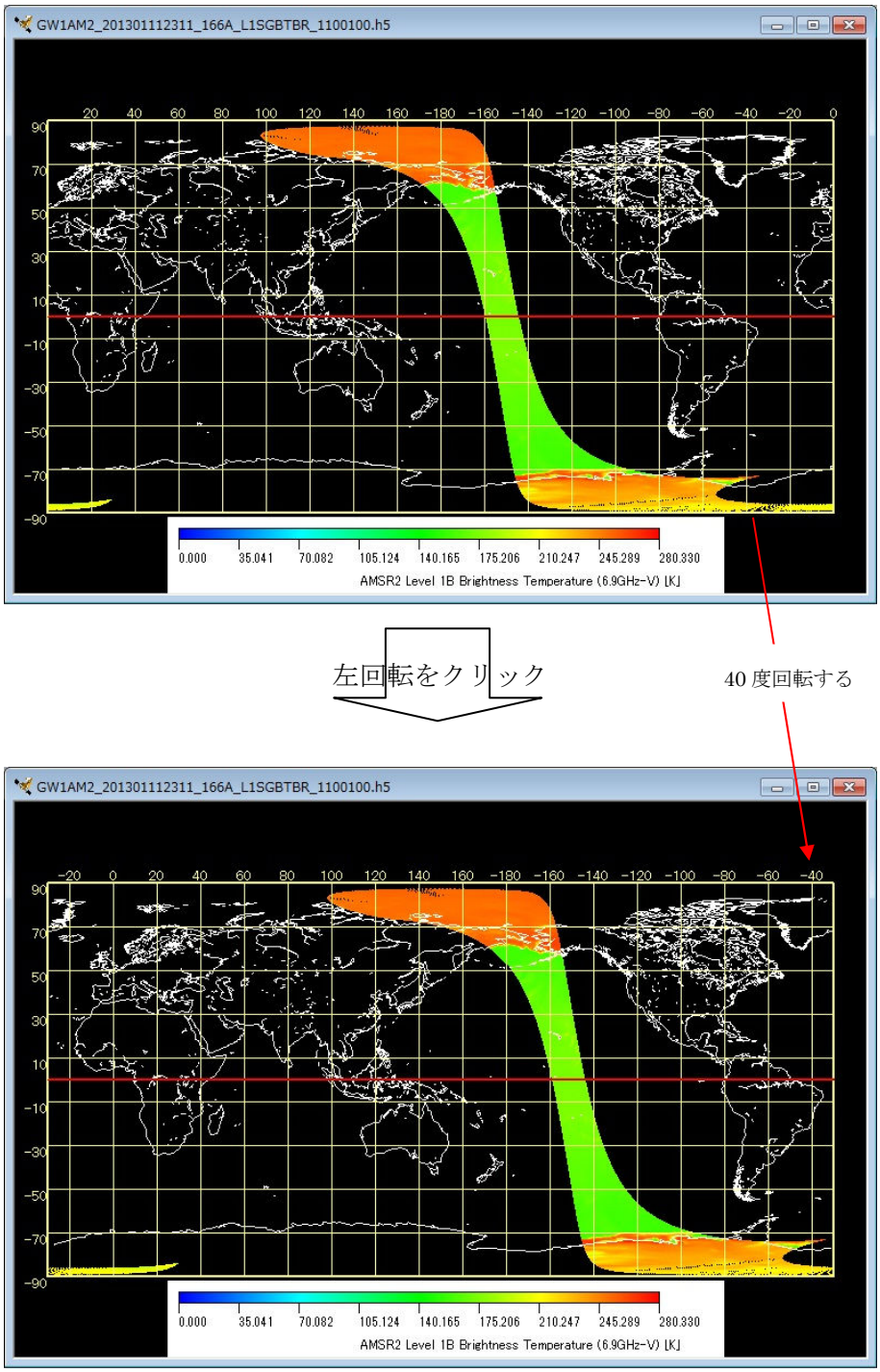


図 4.2.1-7 地図の左回転

19) 『上に移動』アイコン

①本アイコンをクリックすると、地図を上に移動することができます。

“上”に移動の様子を図 4.2.1-8 に示します。

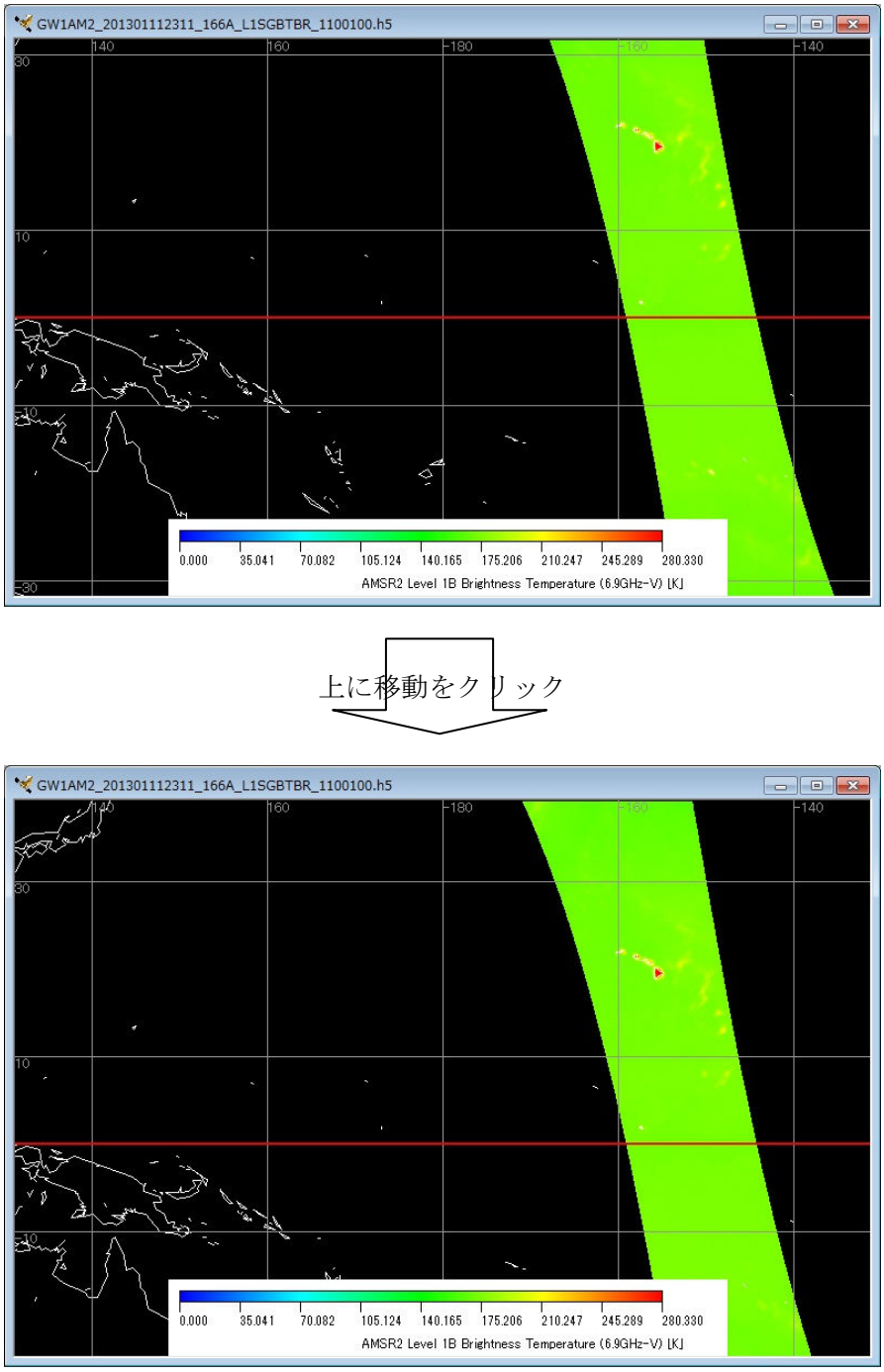


図 4.2.1-8 地図の上へ移動

20) 『下に移動』アイコン

①本アイコンをクリック

②地図を下に移動することができます。

“下”に移動の様子を図 4.2.1-9 に示します。

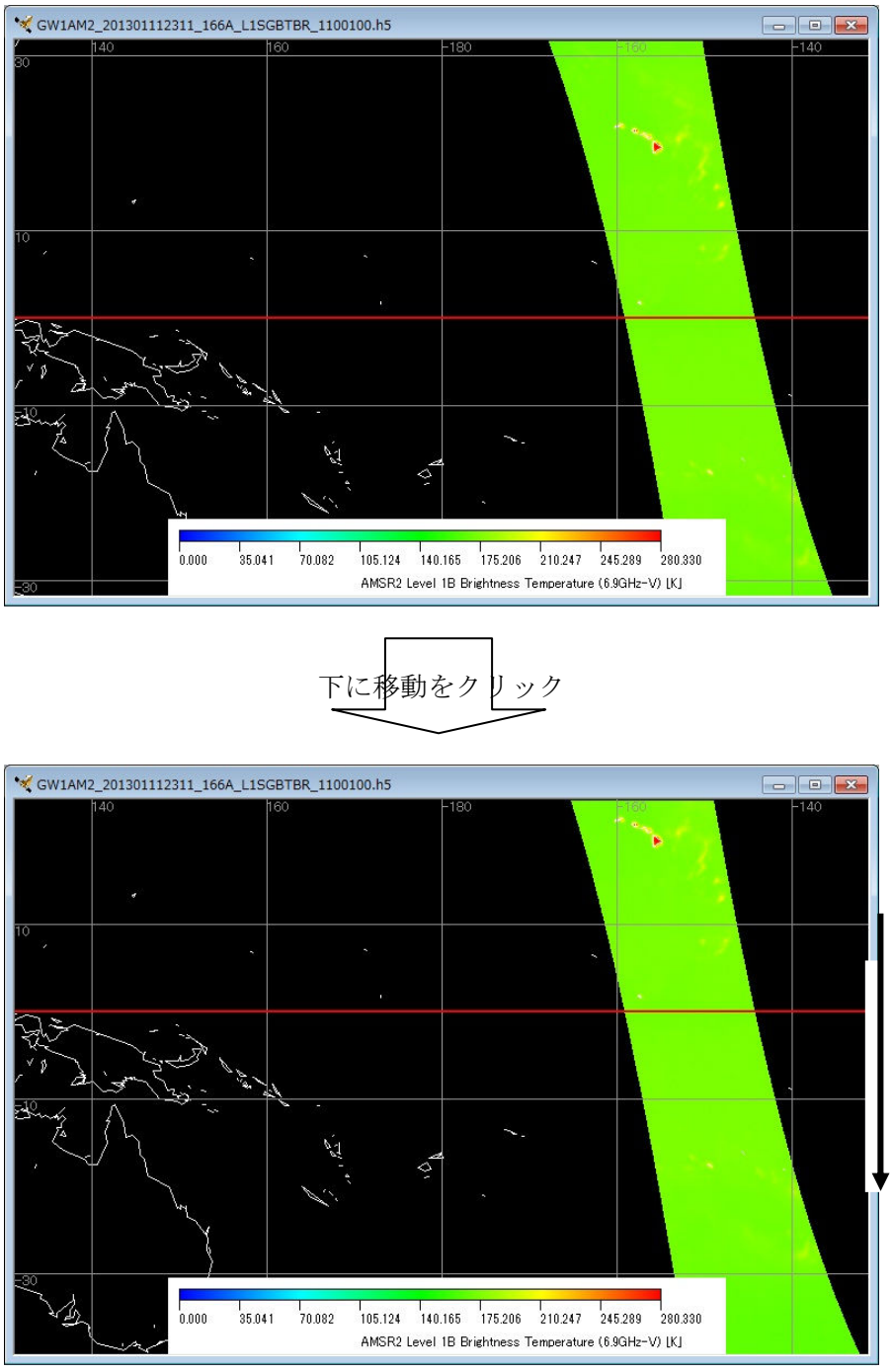


図 4.2.1-9 地図の下へ移動

21) 『表示を戻す』アイコン

①本アイコンをクリック

②地図表示を操作前の　　に戻すことができます。

但し、Window サイズは現在のサイズが優先されます。

22) 『PN で表示』アイコン

①本アイコンをクリック

②画像をポーラステレオ図法（北　球）で表示することができます。

地図投影についての詳細は、『4.2.5 地図投影』を参照のこと。

23) 『PS で表示』アイコン

①本アイコンをクリック

②画像をポーラステレオ図法（南　球）で表示することができます。

地図投影についての詳細は、『4.2.5 地図投影』を参照のこと。

24) 『EQR で表示』アイコン

①本アイコンをクリック

②画像を等緯経度図法で表示することができます。

地図投影についての詳細は、『4.2.5 地図投影』を参照のこと。

25) 『ORTHO で表示』アイコン

①本アイコンをクリック

②画像を正射図法で表示することができます。

地図投影についての詳細は、『4.2.5 地図投影』を参照のこと。

26) 『MER で表示』アイコン

①本アイコンをクリック

②画像をメルカトル図法で表示することができます。

地図投影についての詳細は、『4.2.5 地図投影』を参照のこと。

27) 『拡大モード(マウス)』アイコン

①本アイコンをクリック

②マウスで指定した領域を拡大表示することができます。

画像拡大についての詳細は、『4.2.9 拡大モード』を参照のこと。

28) 『移動モード(マウス)』アイコン

①本アイコンをクリック

②マウスで画像を移動することができます。

画像移動についての詳細は、『4.2.10 移動モード』を参照のこと。

29) 『領域選択モード(マウス)』アイコン

①本アイコンをクリック

②マウスで切り出す領域を選択することができます。

領域選択についての詳細は、『4.2.11 範囲指定モード』を参照のこと。

30) 『領域選択(緯経度)』アイコン

①本アイコンをクリック

②領域範囲を緯度経度で指定することができます。

領域範囲数値指定方法についての詳細は、『4.2.12 領域範囲数値指定』を参照のと。

4.2.2. ステータスバー

本メニューを選択すると、ステータスバーの表示／非表示を設定することができます。

ステータスバーを表示している画面を図 4.2.2-1 に、ステータスバーを表示していない画面を図 4.2.2-2 に示します。

【ステータスバー表示】

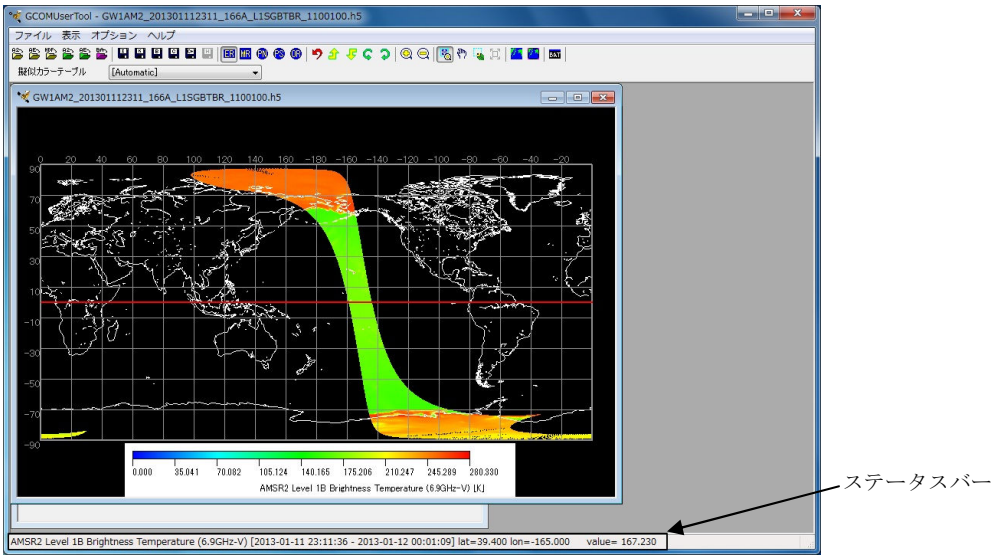


図 4.2.2-1 ステータスバー表示画面

【ステータスバー非表示】

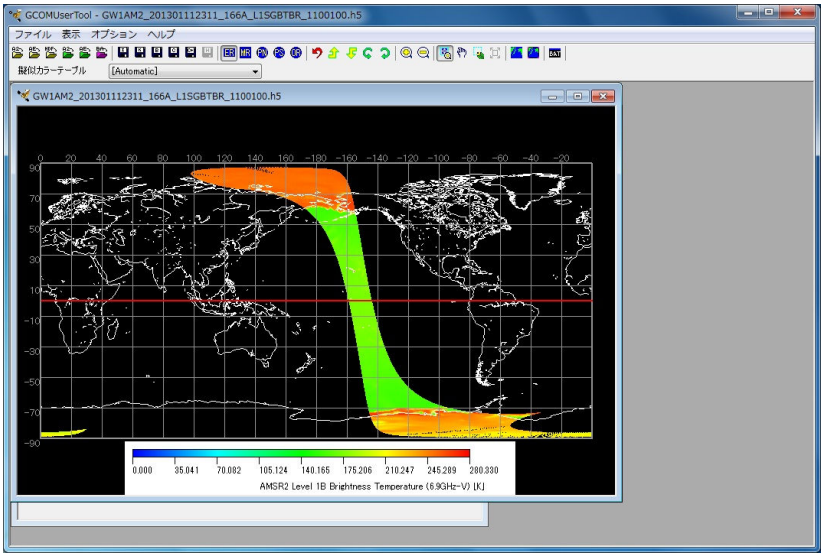


図 4.2.2-2 ステータスバー非表示画面

ステータスバーには、マウス操作で指された地図上の点の緯経度値と観測データ値（スケールファクタにより物理量に変換された値）を表示します。観測データ値は、分解能の設定をメッシュ表示した場合のみ表示します。但し、画像表示が　範囲の時は、観測データ値は表示されませんので、観測データ値を確認する地域を拡大してください。

単チャネル表示のときには、さらに表示プロダクトの情報(センサ情報／レベル・チャネル／観測時刻)を表示します。

【各種プロダクト情報と緯度経度のみの表示】

【各種プロダクト情報と緯度経度／観測データの表示】

表 4.2.2-1 表示方法とステータスバー表示項目の対応表

ステータスバー 表示項目	単チャネル表示		RGB 合成表示	
	-	メッシュ表示	-	メッシュ表示
センサ名	○	○		
レベル	○	○		
チャネル	○	○		
観測時刻	○	○		
観測緯度経度	○	○	○	○
観測値		○		○

4.2.3. 拡大・縮小

本メニューを選択すると、画像を拡大・縮小することができます。

本メニューには、次の 5 種類のサブメニューがあります。

①拡大全体表示
②拡大
③縮小
④表示リセット
⑤前画面に戻す

図 4.2.3-1 にサブメニューを示します。

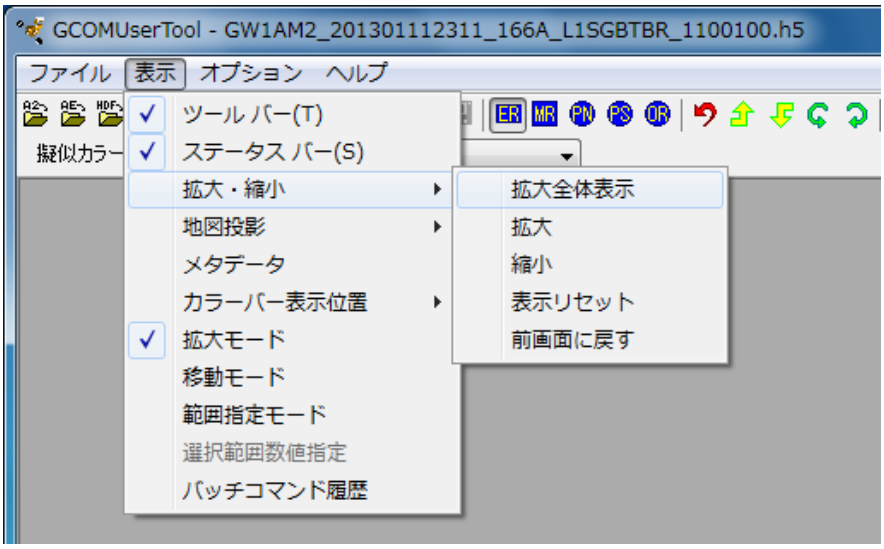


図 4.2.3-1 『拡大・縮小』サブメニュー

また、本メニューは、ツールバーの以下のアイコンに対応します。図 4.2.3-2 にサブメニューに対応するツールバーアイコンを示します。

図 4.2.3-2 『拡大・縮小』サブメニューとツールバー

以下、それぞれのサブメニューについて説明します。

4.2.3.1. 拡大全体表示

画像の表示領域がウィンドウ全域となるように画像の拡大率を変更します。

また、表示領域に　　部分が生じる場合は、　　がなくなるようにウィンドウの大きさを変更します。

図 4.2.3.1-1 に拡大全体表示前／後の地図表示と　中のイメージを示します。

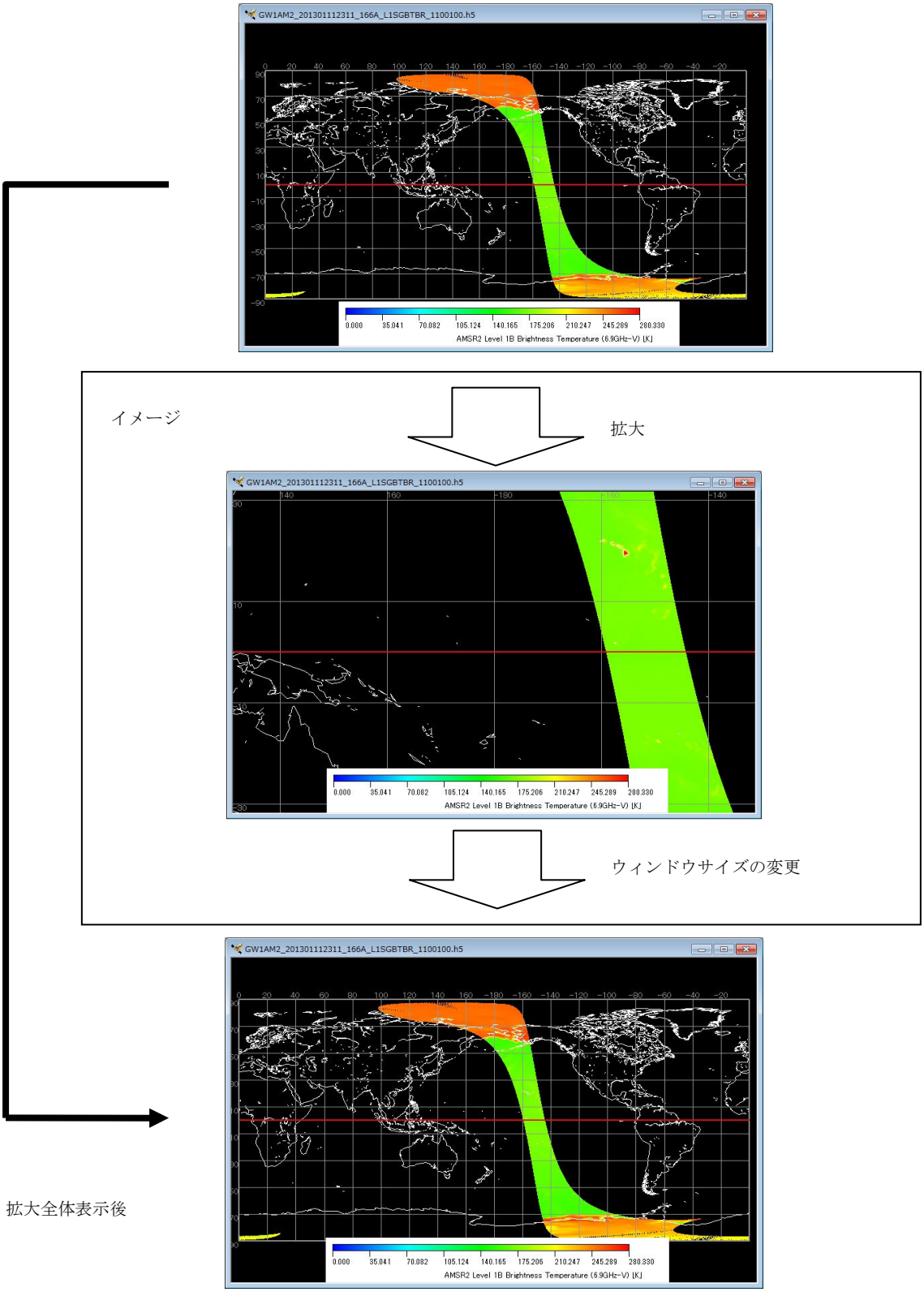


図 4.2.3.1-1 拡大全体表示

4.2.3.2. 拡大

表示されている画像の中　を変えずに、画像を拡大表示することができます。
図 4.2.3.2-1 に拡大前/拡大後の地図表示を示します。

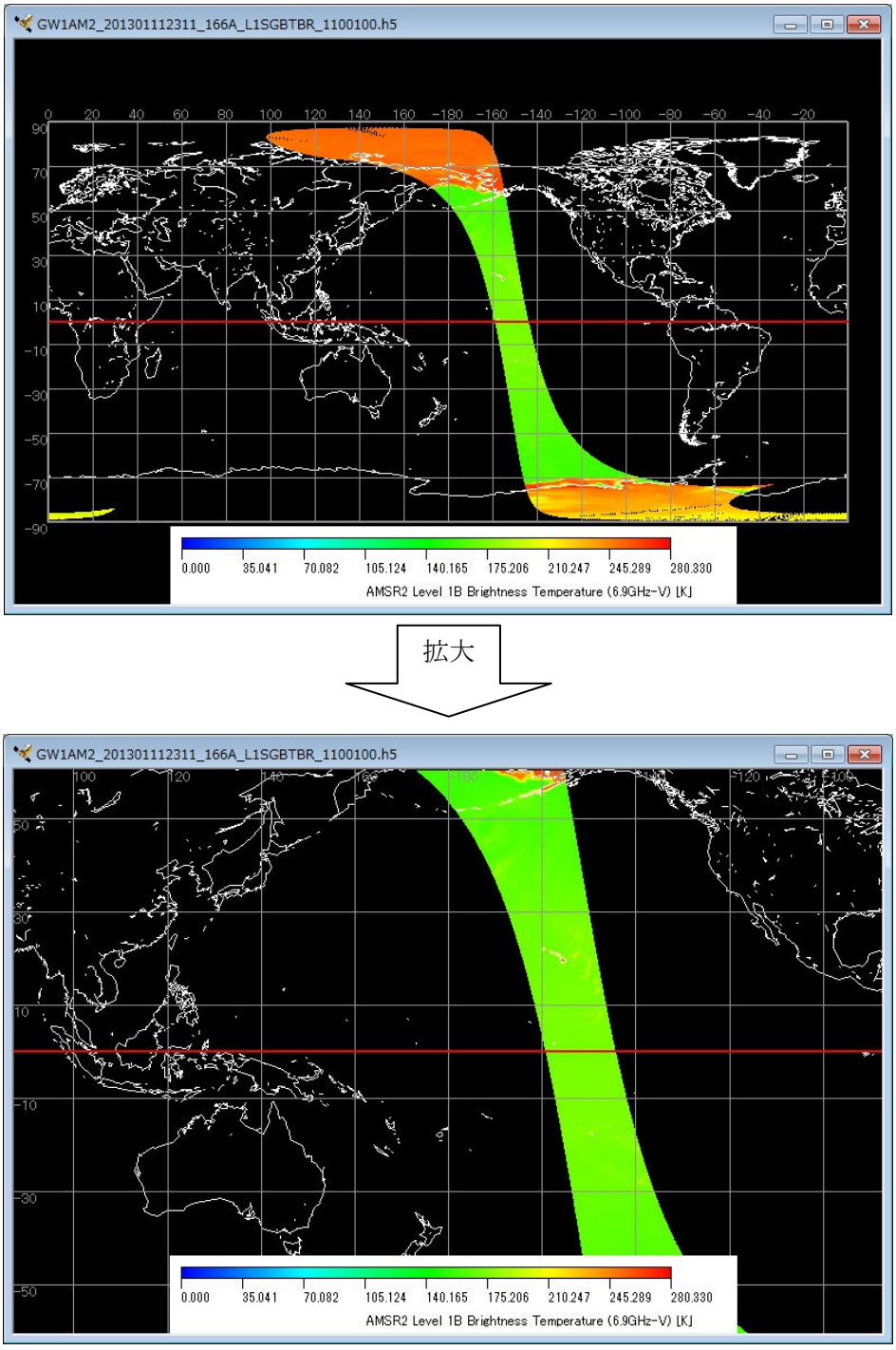


図 4.2.3.2-1 拡大表示

4.2.3.3. 縮小

表示されている画像の中　を変えずに、画像を縮小表示することができます。

図 4.2.3.3-1 に縮小前/縮小後の地図表示を示します。

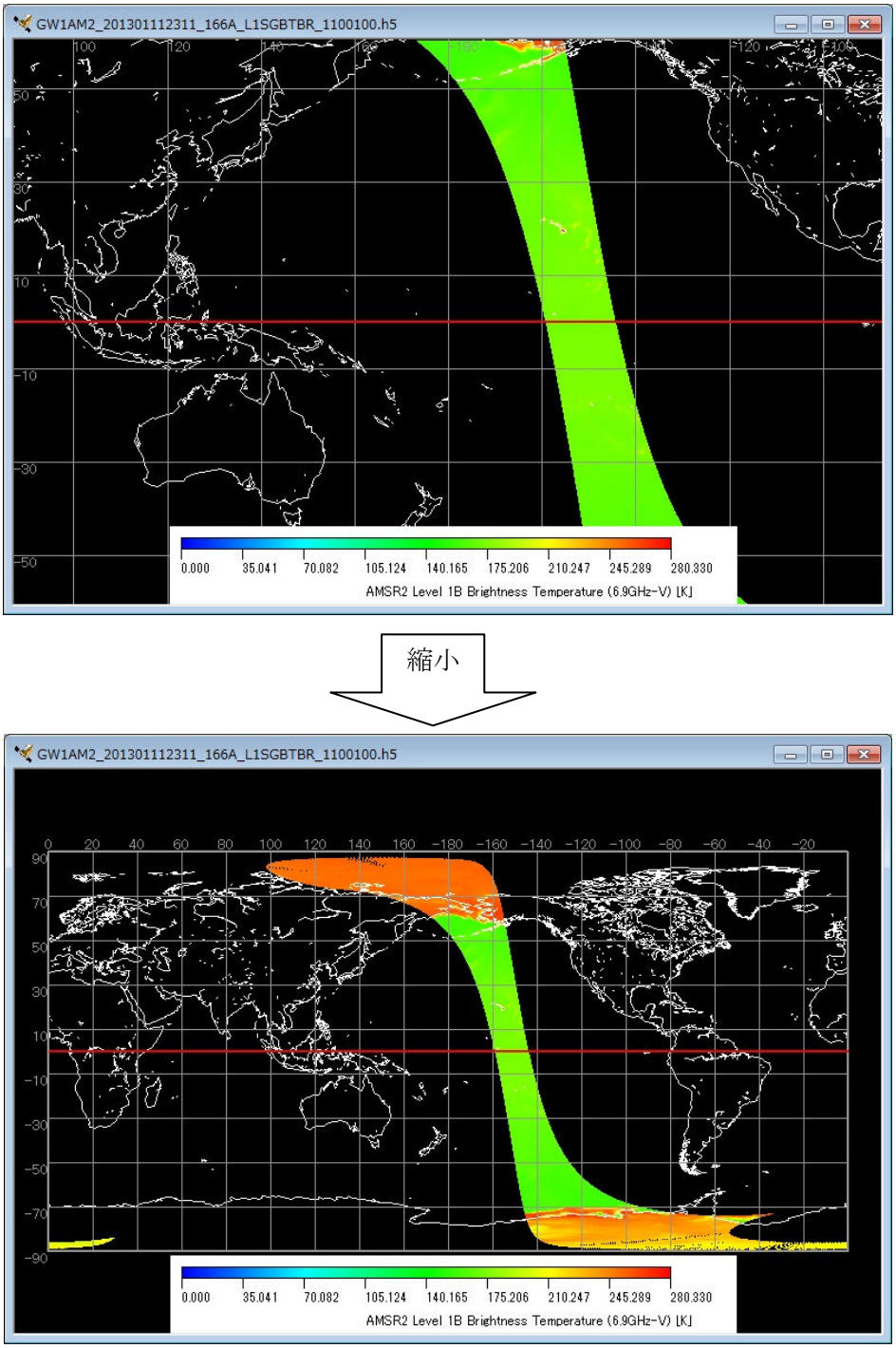


図 4.2.3.3-1 縮小表示

4.2.3.4. 全体表示(表示リセット)

指定されている地図投影法のデフォルト表示で地図を再　画することができます。

4.2.3.5. 前画面に戻す

地図画面に対して行った表示操作を取り　す（Undo）ことができます。
但し、画面サイズ変更については、戻すことができません。

4.2.4. 地図投影

プロダクト/地図表示画面に表示する地図の投影法を指定することができます。
本メニューには、次の 4 種類のサブメニューがあります。

①等緯経度
②地球正射
③ポーラステレオ
④メルカトル

図 4.2.4-1 にサブメニューを示します。以下、それぞれのサブメニューについて説明します。

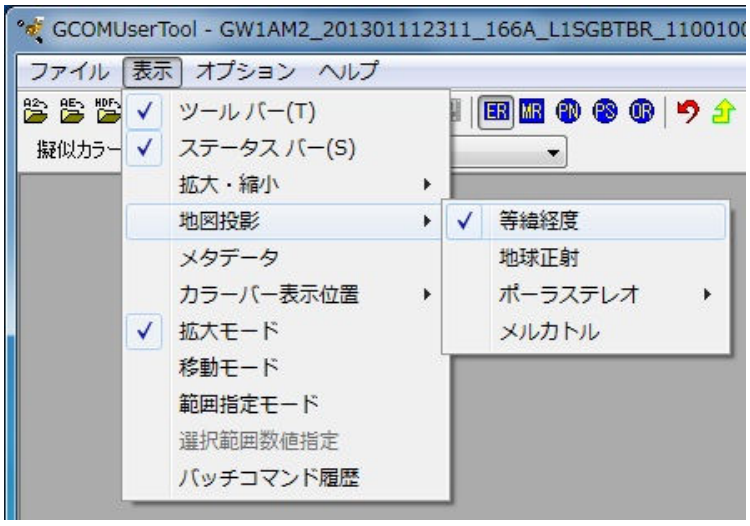


図 4.2.4-1 『地図投影』サブメニュー

また、本メニューは、ツールバーの以下のアイコンに対応します。図 4.2.4-2 にサブメニューに対応するツールバーアイコンを示します。

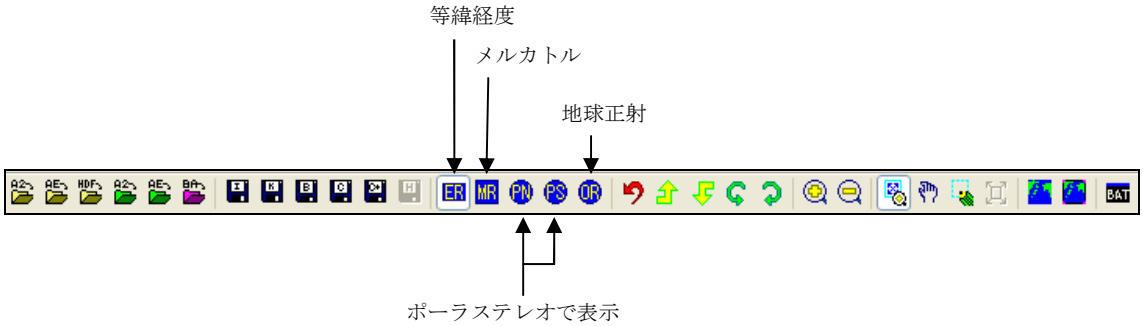


図 4.2.4-2 『地図投影』サブメニューとツールバー

AMSR2/AMSR/AMSR-E/プロダクトの地図投影法については、『1.3 対象データ』を参照のこと。

4.2.4.1. 等緯経度

等緯経度図法で地図を表示することができます。

図 4.2.4-3 に等緯経度図法で表示したプロダクト／地図表示画面を示します。

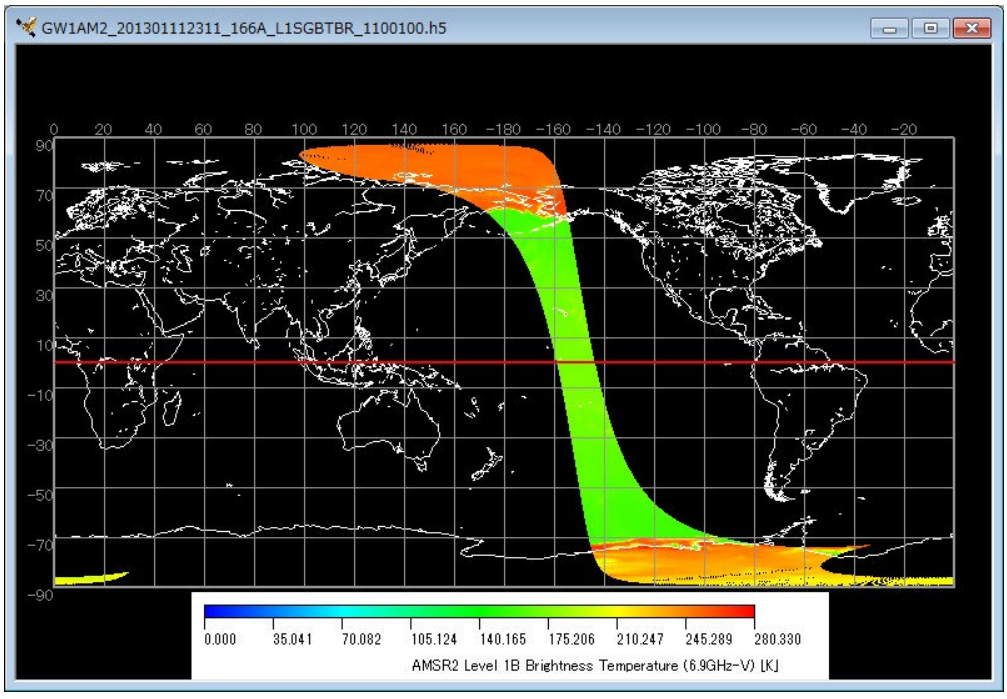


図 4.2.4-3 等緯経度図法で表示した地図表示画面

4.2.4.2. 地球正射

地球正射図法で地図を表示することができます。

図 4.2.4-4 に地球正射図法で表示したプロダクト/地図表示画面を示します。

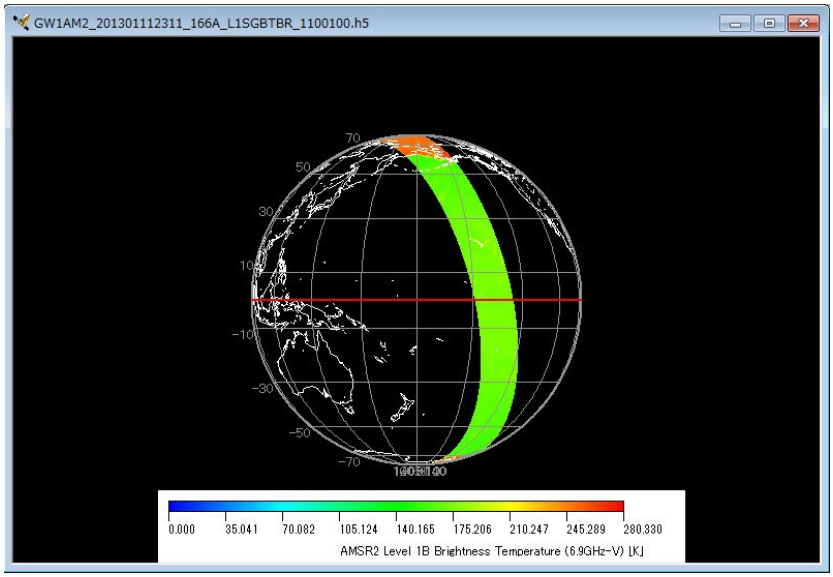


図 4.2.4-4 地球正射図法で表示した地図表示画面

4.2.4.3. ポーラステレオ

ポーラステレオで地図を表示することができます。

本サブメニューには、次の　種類のサブメニューがあります。

①北　球
②南　球
③　方
④　　経度

図 4.2.4-5 にサブメニューを示し、それぞれのサブメニューについて説明します。

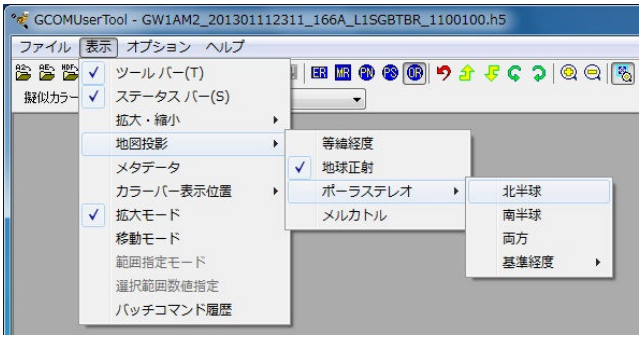


図 4.2.4-5 『ポーラステレオ』サブメニュー

1) 北　球

北　球をポーラステレオ図法で表示することができます。

図 4.2.4-6 に北　球をポーラステレオ図法で表示したプロダクト/地図表示画面を示します。

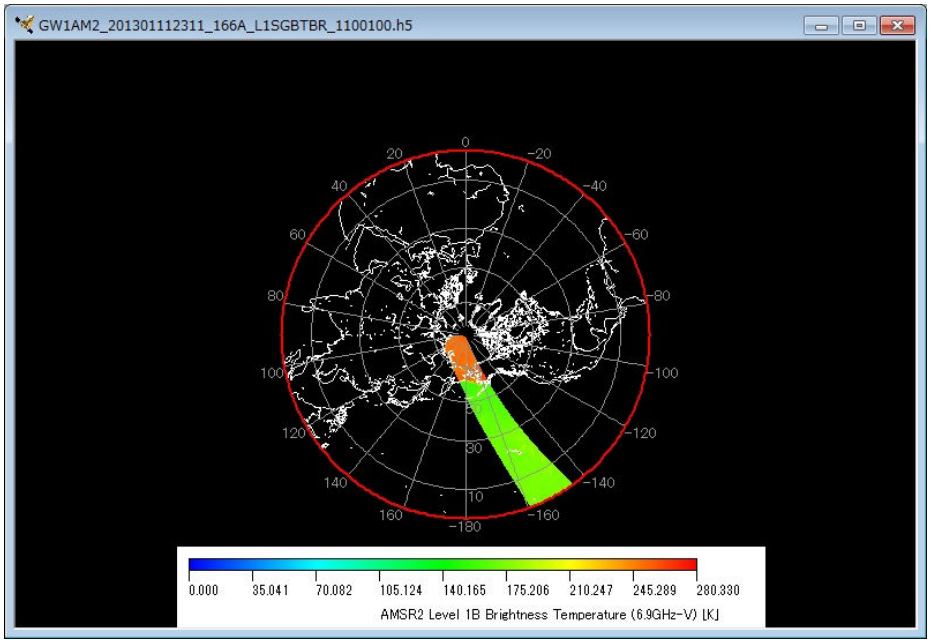


図 4.2.4-6 北半球をポーラステレオ図法で表示した地図表示画面

2) 南　球

南　球をポーラステレオ図法で表示することができます。

図 4.2.4-7 に南　球をポーラステレオ図法で表示したプロダクト/地図表示画面を示します。

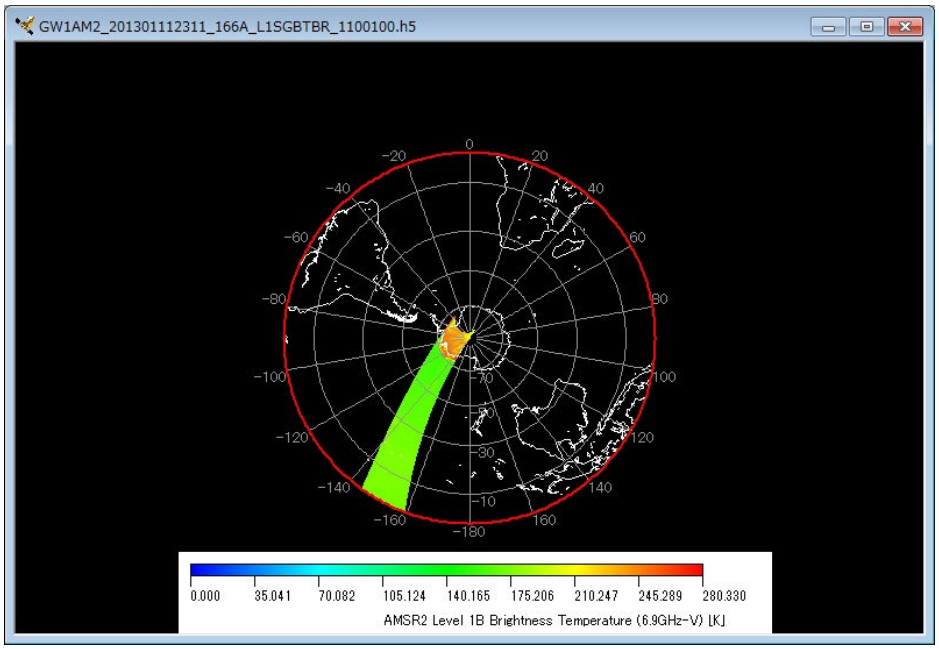


図 4.2.4-7 南半球をポーラステレオ図法で表示した地図表示画面

3)　方

とつのウィンドウ上で北　球と南　球をポーラステレオ図法で表示することができます。

図 4.2.4-8 に北　球南　球の　方をポーラステレオ図法で表示したプロダクト/地図表示画面を示します。

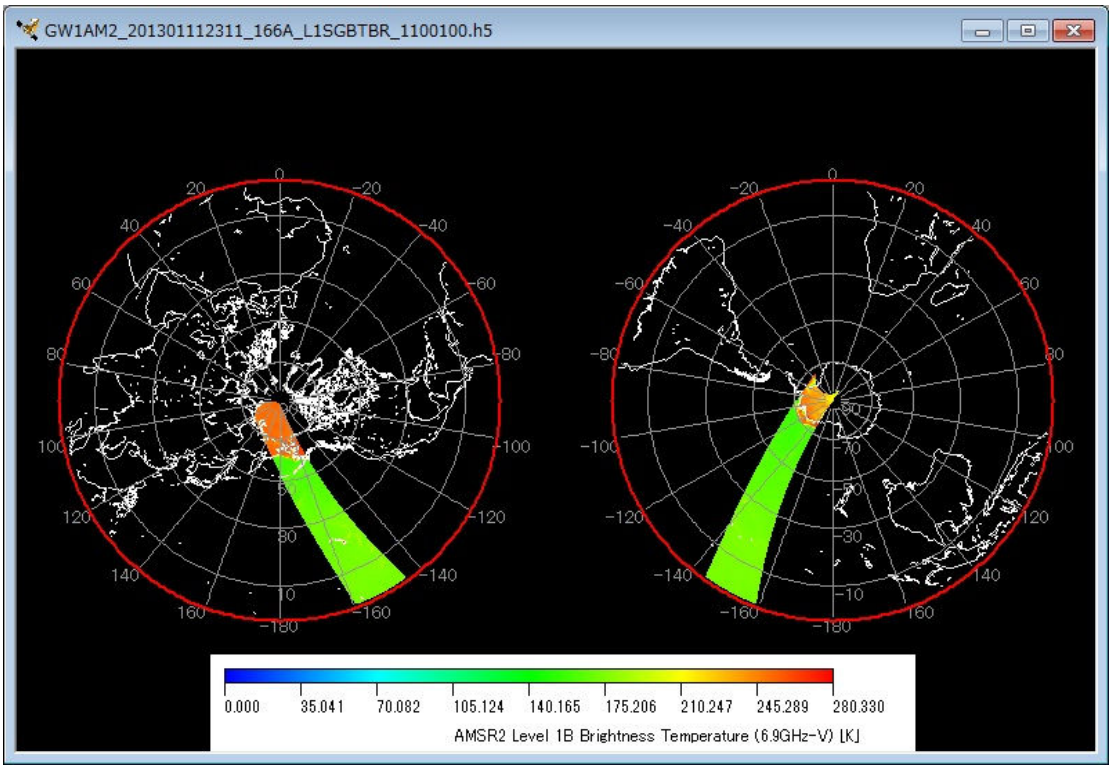


図 4.2.4-8 北半球南半球の両方をポーラステレオ図法で表示した地図表示画面

4)　　経度

ポーラステレオ図法で表示している地図の　　経度を指定して表示することができます。

選択できる　　経度は、次の 8 種類です。(デフォルトでは 0 度になっています。)

①0°
②45°
③90°
④135°
⑤180°
⑥-135°
⑦-90°
⑧-45°

図 4.2.4-9 に　　経度 0°にて北　球をポーラステレオ図法で表示表示したプロダクト/地図表示画面を示します。

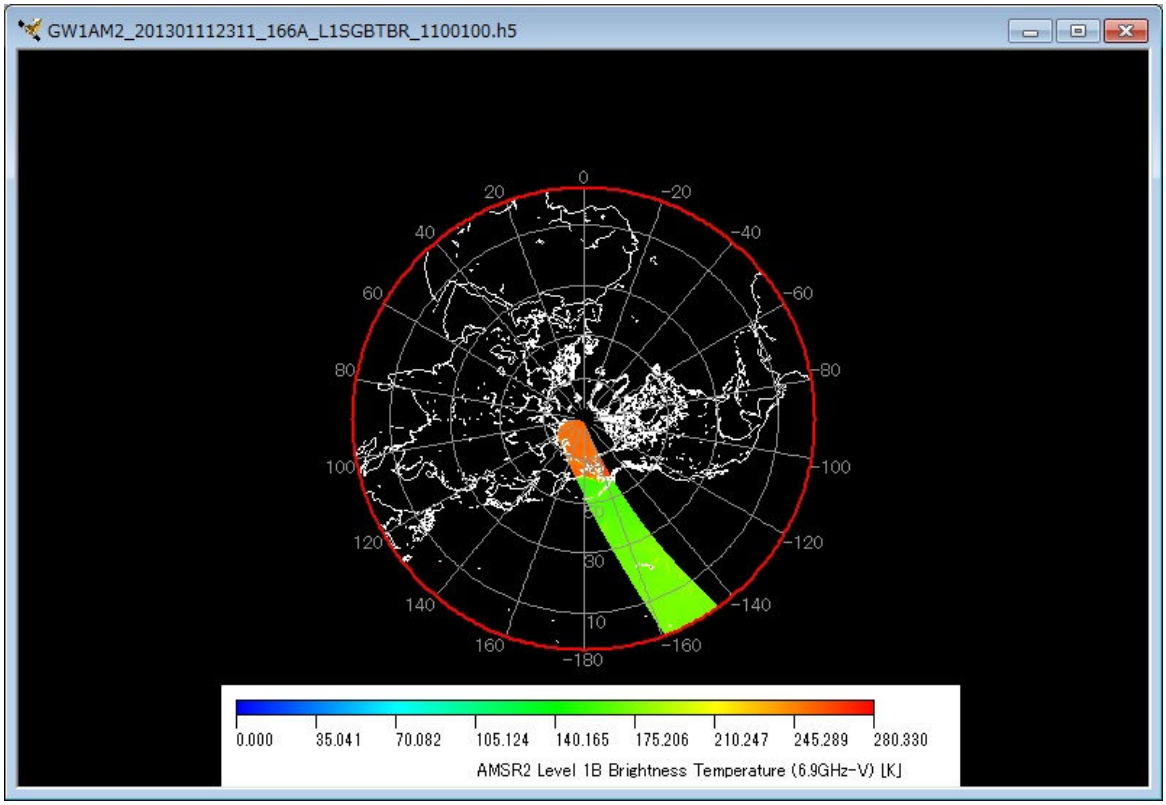


図 4.2.4-9 基準経度 0°で表示した地図表示画面

図 4.2.4-10 に　　経度 90°にて北　球をポーラステレオ図法で表示表示したプロダクト/地図表示画面を示します。

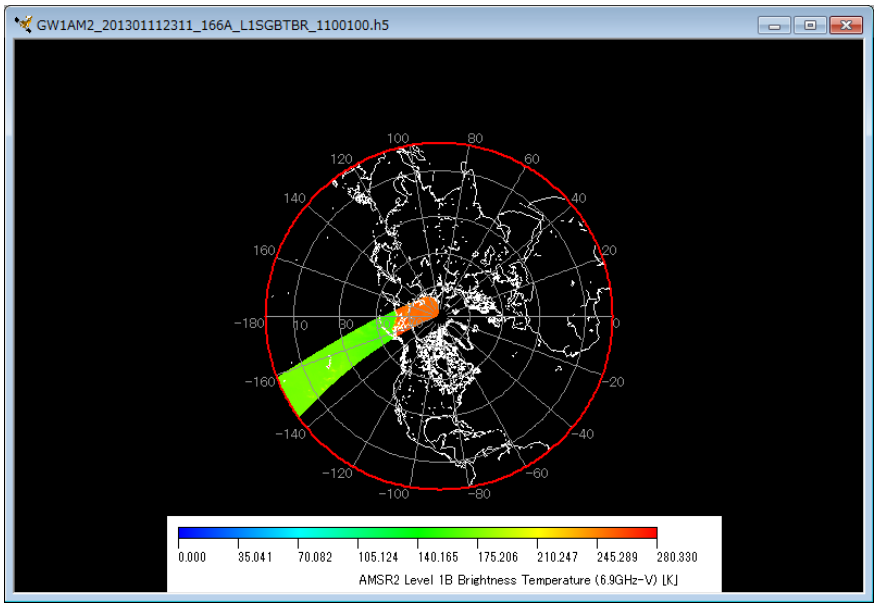


図 4.2.4-10 基準経度 90°で表示した地図表示画面

4.2.4.4.　メルカトル

メルカトル図法で地図を表示することができます。

図 4.2.4-11 にメルカトル図法で表示したプロダクト/地図表示画面を示します。

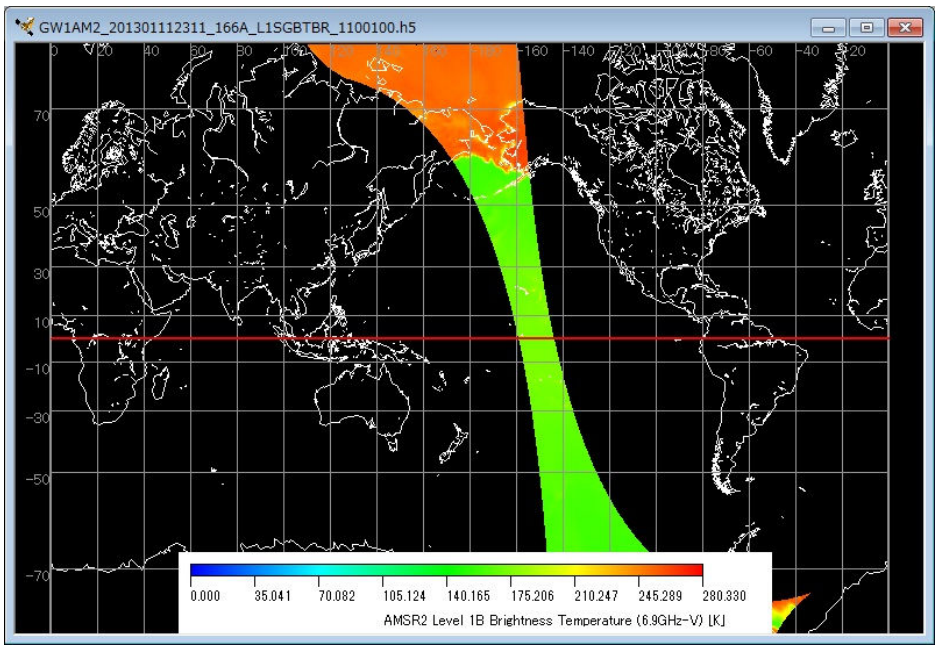


図 4.2.4-11 メルカトル図法で表示した地図表示画面

4.2.5. メタデータ

図 4.2.5-1 に示す『メタデータ表示画面』が表示され、プロダクトのメタデータを確認することができます。

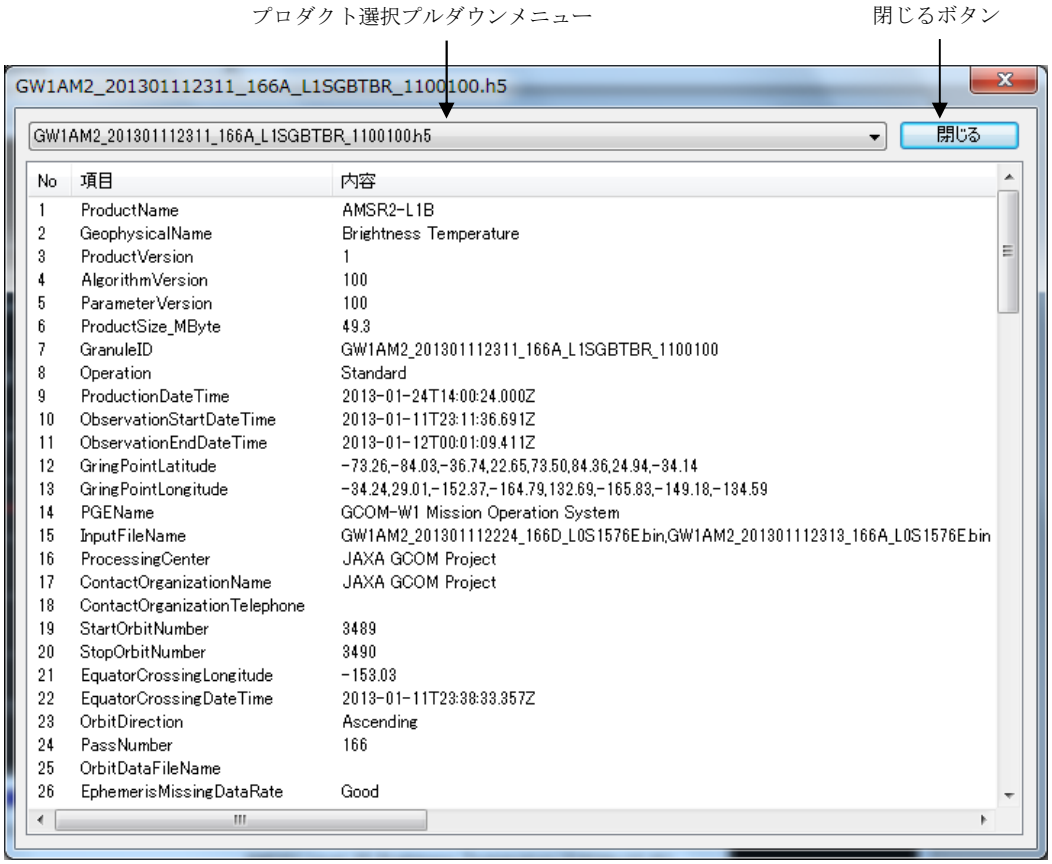


図 4.2.5-1 コアメタ表示画面

◆「プロダクト選択」プルダウンメニュー

①メタデータを表示するプロダクトファイルを指定します。

◆「閉じる」ボタン

①本ボタンをクリック

②メタデータ確認画面が閉じます。

4.2.6. カラーバー表示位置

カラーバーの表示方法を変更することができます。

本サブメニューには、次の 2 種類のサブメニューがあります。

①

②

1)

カラーバーを　　きに表示することができます。

図 4.2.6-1 にカラーバーを　　きで表示したプロダクト/地図表示画面を示します。

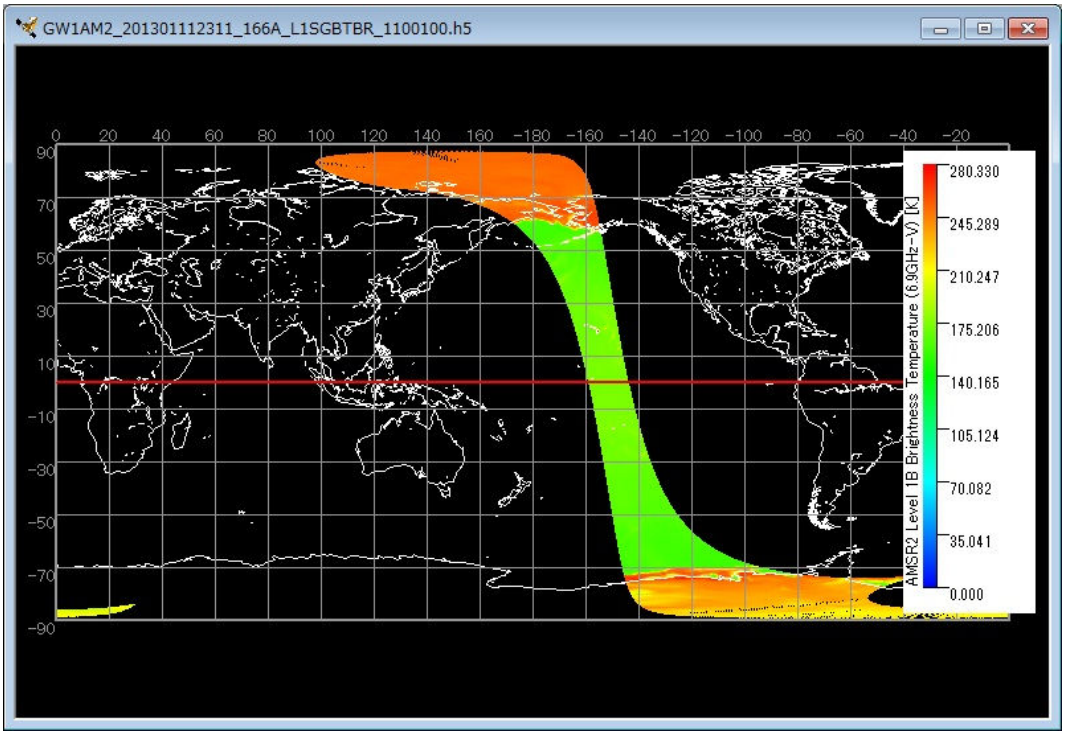


図 4.2.6-1 カラーバーを縦向きで表示した地図表示画面

2)

カラーバーを　　きに表示することができます。

図 4.2.6-2 にカラーバーを　　きで表示したプロダクト/地図表示画面を示します。

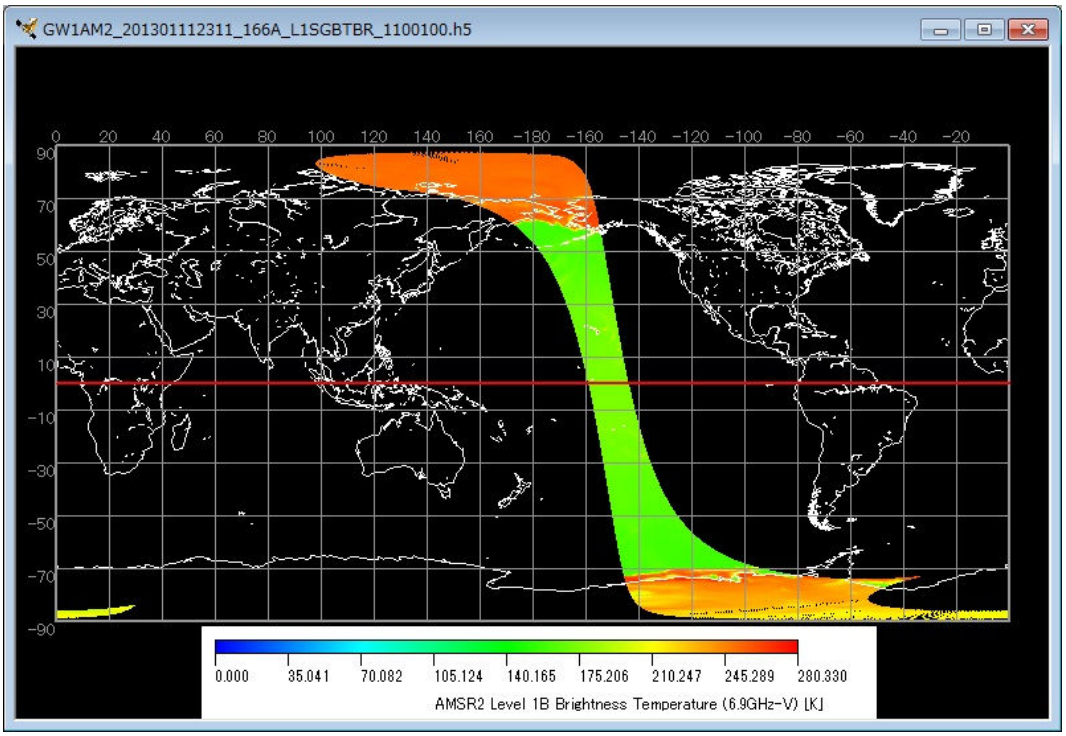


図 4.2.6-2 カラーバーを横向きで表示した地図表示画面

4.2.7. 拡大モード

マウスで領域を指定することにより領域の拡大表示することができます。

本モードが選択されている場合は、図 4.2.9-1 に示すツールバーのアイコンが選択された になります。

図 4.2.7-1 『拡大モード』メニューとツールバー

マウスを使用した拡大方法は、指定開　位置でマウスの左ボタンを　しながら指定終了位置までマウスをドラックし、指定終了位置でマウスの左ボタンを　します。

領域が指定されると、図 4.2.7-2 に示したような領域指定矩形が表示され、自動的に拡大します。

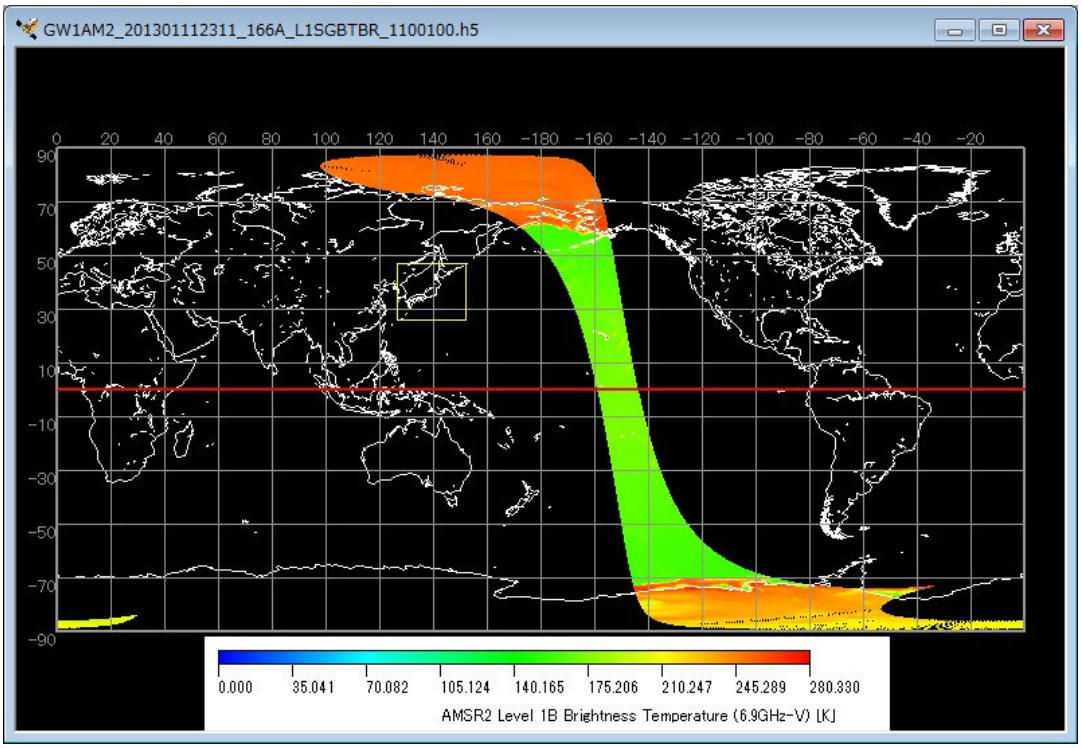


図 4.2.7-2 マウスを使用した領域指定

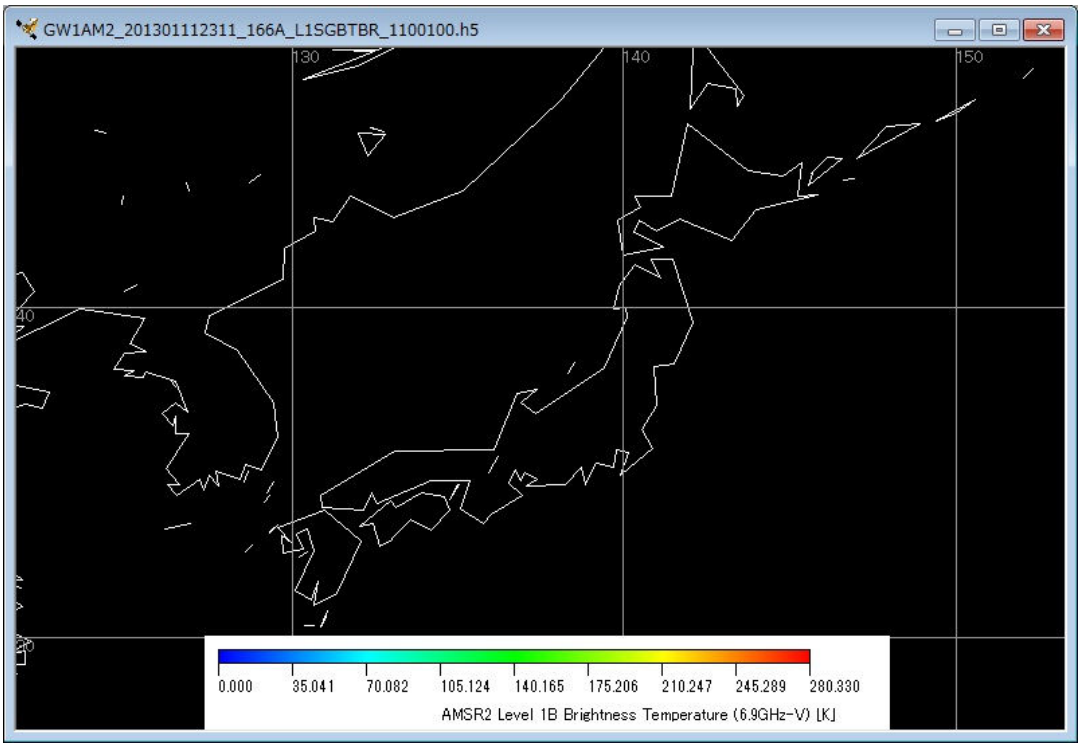


図 4.2.7-3 拡大された画像

4.2.8. 移動モード

マウスで地図を上下左右に移動することができます。

本モードが選択されている場合は、図 4.2.10-1 に示すツールバーのアイコンが選択された になります。

図 4.2.8-1 『移動モード』メニューとツールバー

マウスを使用した移動方法は、地図上でマウスの左ボタンを しながらマウスをドラックすると地図を上下左右に移動することができます。

本モードの場合は、マウスポインタが手形のマークになります。

4.2.9. 範囲指定モード

本モードは、マウスで切り出す領域を指定することができます。

本モードで指定した領域の観測データは、指定したフォーマット（画像／KML／バイナリ／CSV/HDF 形式）でファイルに出力することができます。

本モードが選択されている場合は、図 4.2.9-1 に示すツールバーのアイコンが選択された　になります。

図 4.2.9-1 『範囲指定モード』メニューとツールバー

マウスを使用した範囲指定方法は、指定開　位置でマウスの左ボタンを　しながら指定終了位置までマウスをドラックし、指定終了位置でマウスの左ボタンを　します。

領域が指定されると、図 4.2.9-2 に示したような領域指定矩形が表示されます。

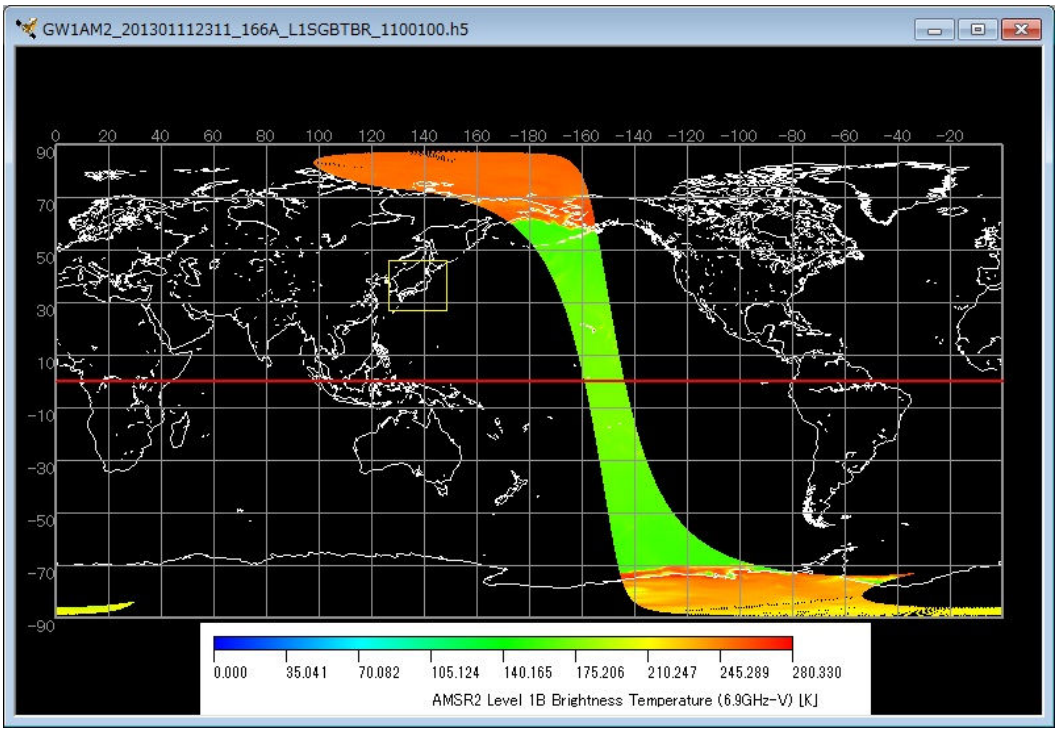


図 4.2.9-2 マウスを使用した範囲指定

4.2.10. 選択範囲数値指定

選択領域を緯度経度で指定することができます。

本メニューを指定すると、図 4.2.10-2 に示す『選択範囲数値指定』を表示します。

選択範囲数値指定は、図 4.2.10-1 に示すツールバーのアイコンからも行うことができます。

図 4.2.10-1 『選択範囲数値指定』のツールバーアイコン

本モードで指定した領域の観測データを、指定したフォーマット（画像／KML／バイナリ／CSV/HDF 形式）でファイルに出力することができます。

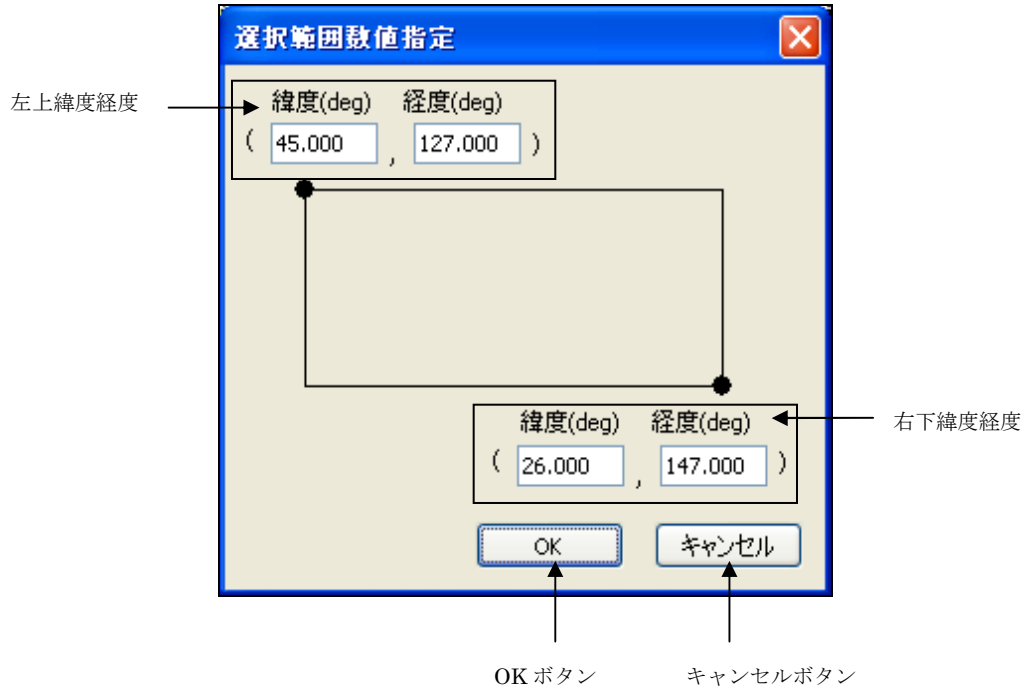


図 4.2.10-2 選択範囲数値指定画面

◆ 左上緯度経度

①指定範囲の左上の緯度経度を入力。入力単位は deg です。

◆ 右下緯度経度

①指定範囲の右下の緯度経度を入力。入力単位は deg です。

◆ OK ボタン

①本ボタンをクリック

②図 4.2.10-3 に示したような領域指定矩形が表示されます。

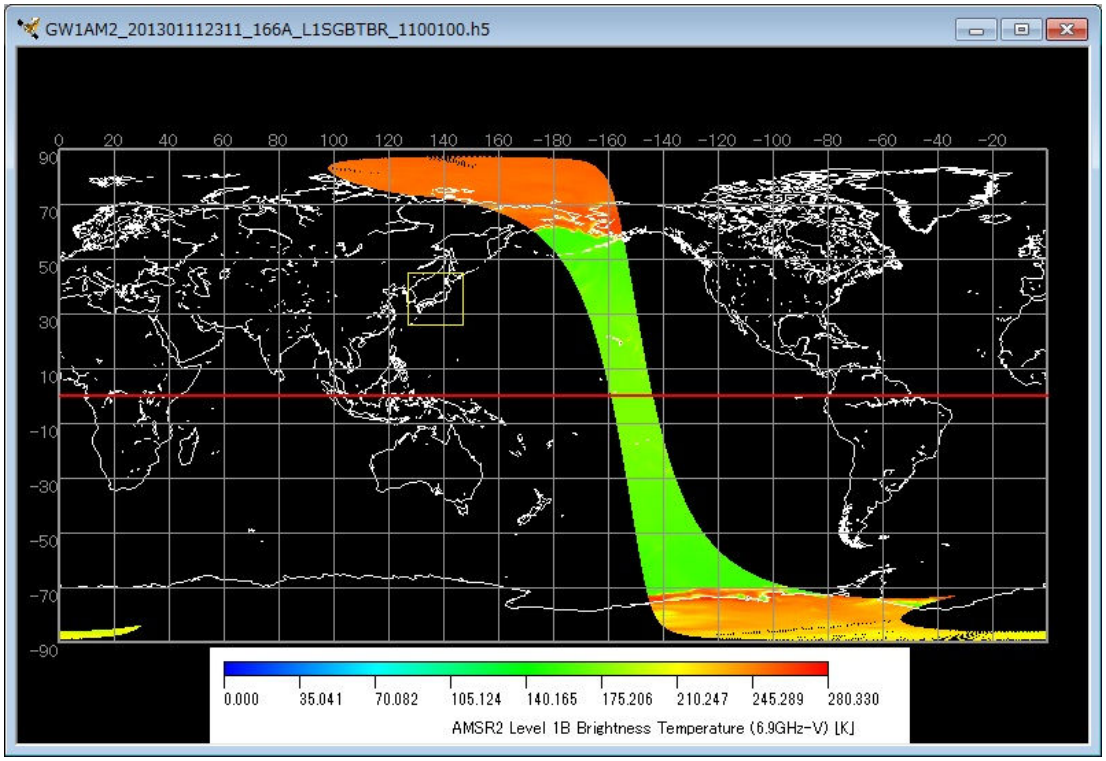


図 4.2.10-3 選択範囲数値指定による範囲指定

◆ キャンセル ボタン

①本ボタンをクリック

②選択範囲数値指定を中止して『緯度経度指定画面』を閉じます。

4.2.11. バッチコマンド履歴

バッチ処理用の操作履歴を表示できます。

図 4.2.11-2 に示す『バッチコマンド履歴表示画面』を表示します。

バッチコマンド履歴は、図 4.2.11-1 に示すツールバーのアイコンからも行うことができます。

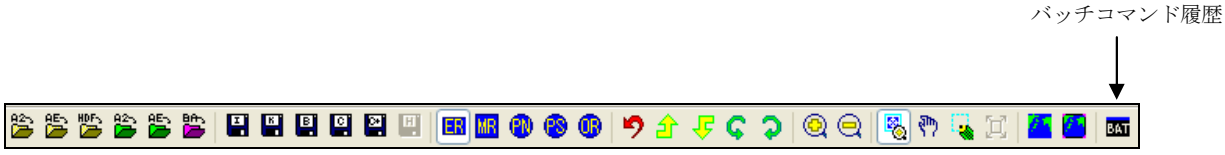


図 4.2.11-1 『バッチコマンド履歴』のツールバーアイコン

本メニューで表示されている操作履歴はバッチ処理の実行時に使用することができます。

図 4.2.11-2 バッチコマンド履歴表示画面

◆ 「コマンド履歴保存」ボタン

①バッチコマンド履歴に表示されている内容をバッチファイルに保存するダイアログが表示されます。

◆ 「クリア」ボタン

①バッチコマンド履歴に表示されている内容をクリアします。

4.3. オプションメニュー

オプションメニューには、次の 6 種類のメニューがあります。

①カラーバーテーブル設定
②ルックアップテーブル設定
③ユーザ設定
④画像出力設定
⑤地図レイヤ設定
⑥地図ファイル設定

図 4.3-1 にオプションメニューを示し、それぞれのメニューについて説明します。

図 4.3-1 オプションメニュープルダウン

4.3.1. カラーバーテーブル設定

カラーバーテーブルの設定変更および新規に作成することができます。

図 4.3.1-1 に示す『カラーバーテーブル設定画面』を表示します。

本メニューは、『単チャネル』画像の場合のみ選択できます。

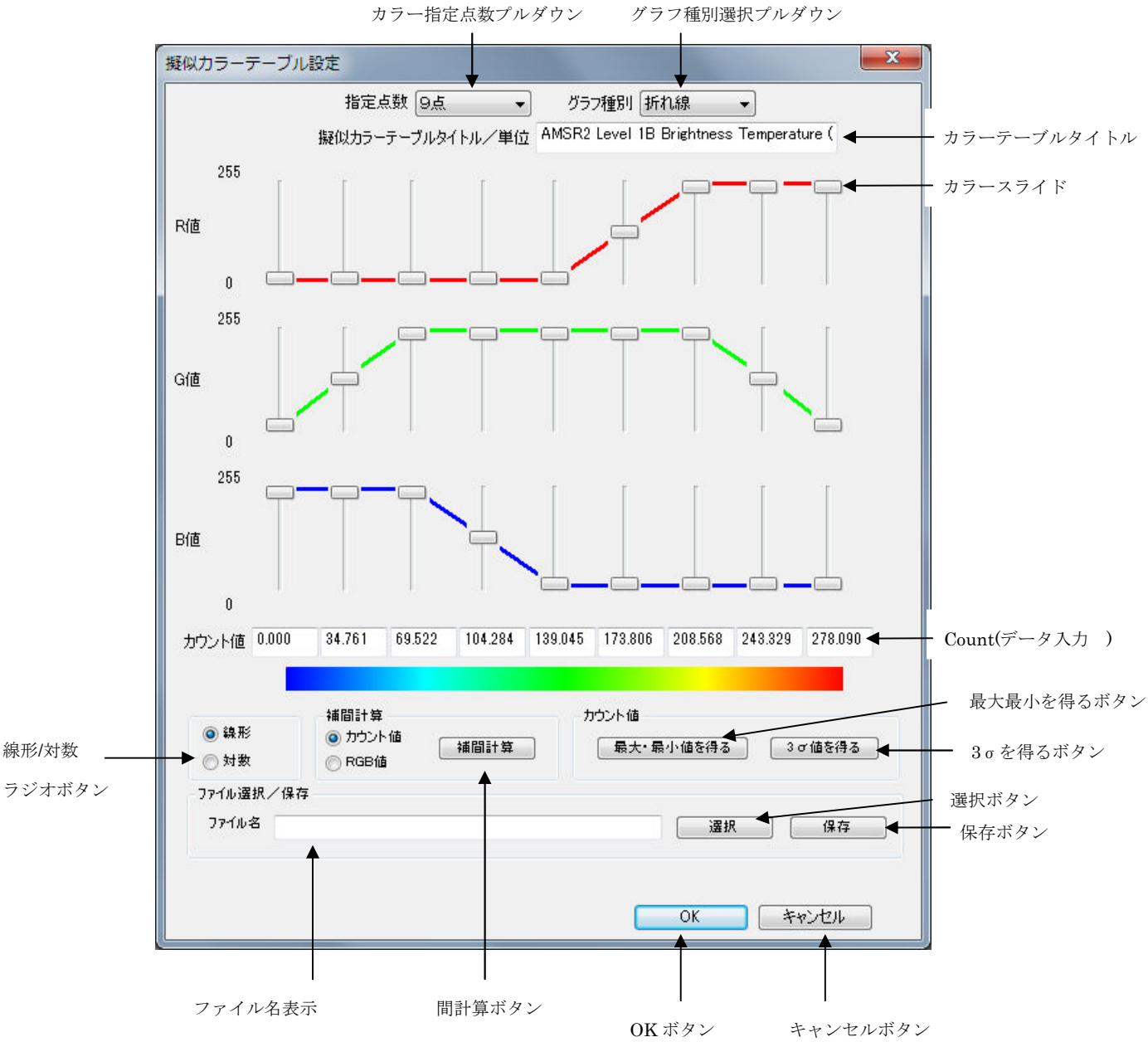


図 4.3.1-1 カラーバーテーブル設定画面

◆ カラー指定点数プルダウン

①本プルダウンメニューより、カラー指定点数を選択します。

本プルダウンメニューには、次の　種類の点数があります。

①2 点
②3 点
③5 点
④9 点

◆ グラフ種別

①本プルダウンメニューより、カラーテーブル設定のグラフ種別を選択します。

本プルダウンメニューには、次の２種類のグラフ種別があります。

① れ線
②

◆ カラーテーブルタイトル

①カラーテーブルのタイトルを指定します。

◆ カラースライド

①各点で指定されている色の成分(　、　、　)をグラフ表示します。
　スライドを変更することで各点の色を変更することができます。

◆ Count(データ値入力　)

①点に対応する画像データ値を入力します。
　入力する値は、画像データの範囲内の値にする必要があります。
　画像データの範囲は、『最大最小を得るボタン』または『3σ を得るボタン』をクリックして取得することができます。

◆ カラーテーブルイメージ表示

①現在設定されているカラーテーブルのイメージを表示します。

◆ 線形/対数ラジオボタン

①カラーテーブルの表示方法を線形/対数表示に設定します。

◆　間計算ボタン

①本ボタンをクリック
②　　の点以　の Count 値を線形または対数によって計算します。

◆ 最大最小を得るボタン

①本ボタンをクリック
②画像データの最大値および最小値を取得して　　の点に値を設定します。

◆ 3σ を得るボタン

①本ボタンをクリック
②画像データの 3σ 値を取得して　　の点に値を設定します。

◆ ファイル名表示

①編集するカラーバーテーブルファイル名を表示します。

◆ 選択ボタン

①本ボタンをクリック

②図 4.3.1-4 に示す『ファイルを開く画面』を表示します。

③編集するカラーバーテーブルファイル名を指定します。

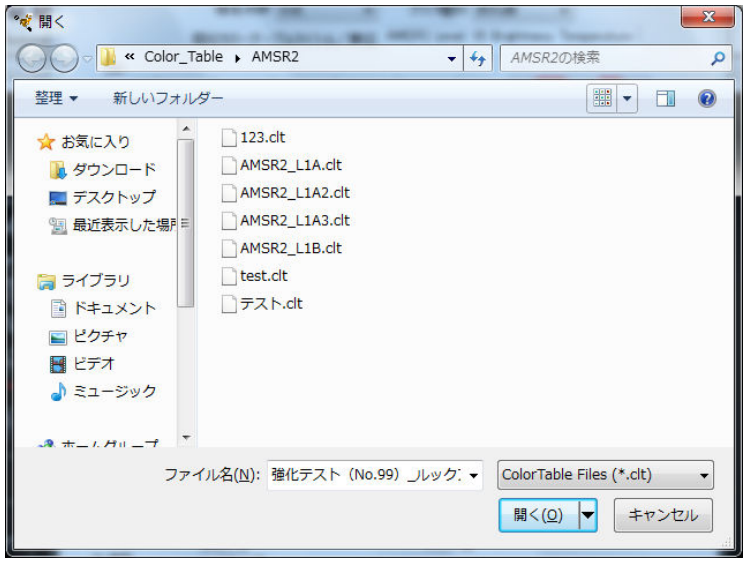


図 4.3.1-4 ファイルを開く画面

◆ 保存ボタン

①本ボタンをクリック

②図 4.3.1-5 に示す『名前を付けて保存画面』を表示します。

③編集　　保存するカラーテーブルファイル名を指定します。

④保存ファイルの拡張子は’clt’になります。

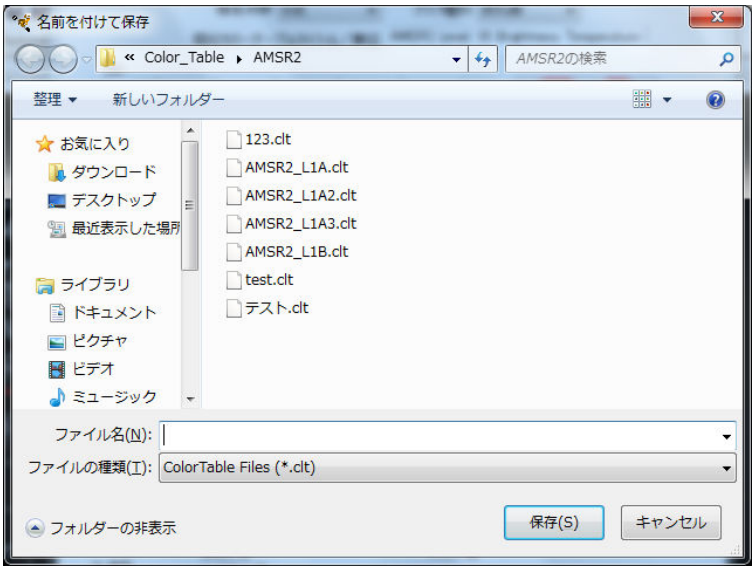


図 4.3.1-5 名前を付けて保存画面

◆ OK ボタン

①本ボタンをクリック

②現在表示されている画像のみに適用し、『カラーバーテーブル設定画面』を閉じます。

◆ キャンセルボタン

①本ボタンをクリック

②カラーバーテーブル設定を中止して『カラーバーテーブル設定画面』を閉じます。

4.3.2. ルックアップテーブル設定

ルックアップテーブルの設定変更および新規に作成することができます。

図 4.3.2-1 に示す『ルックアップテーブル設定画面』を表示します。

本メニューは、『RGB 合成』画像の場合のみ選択できます。

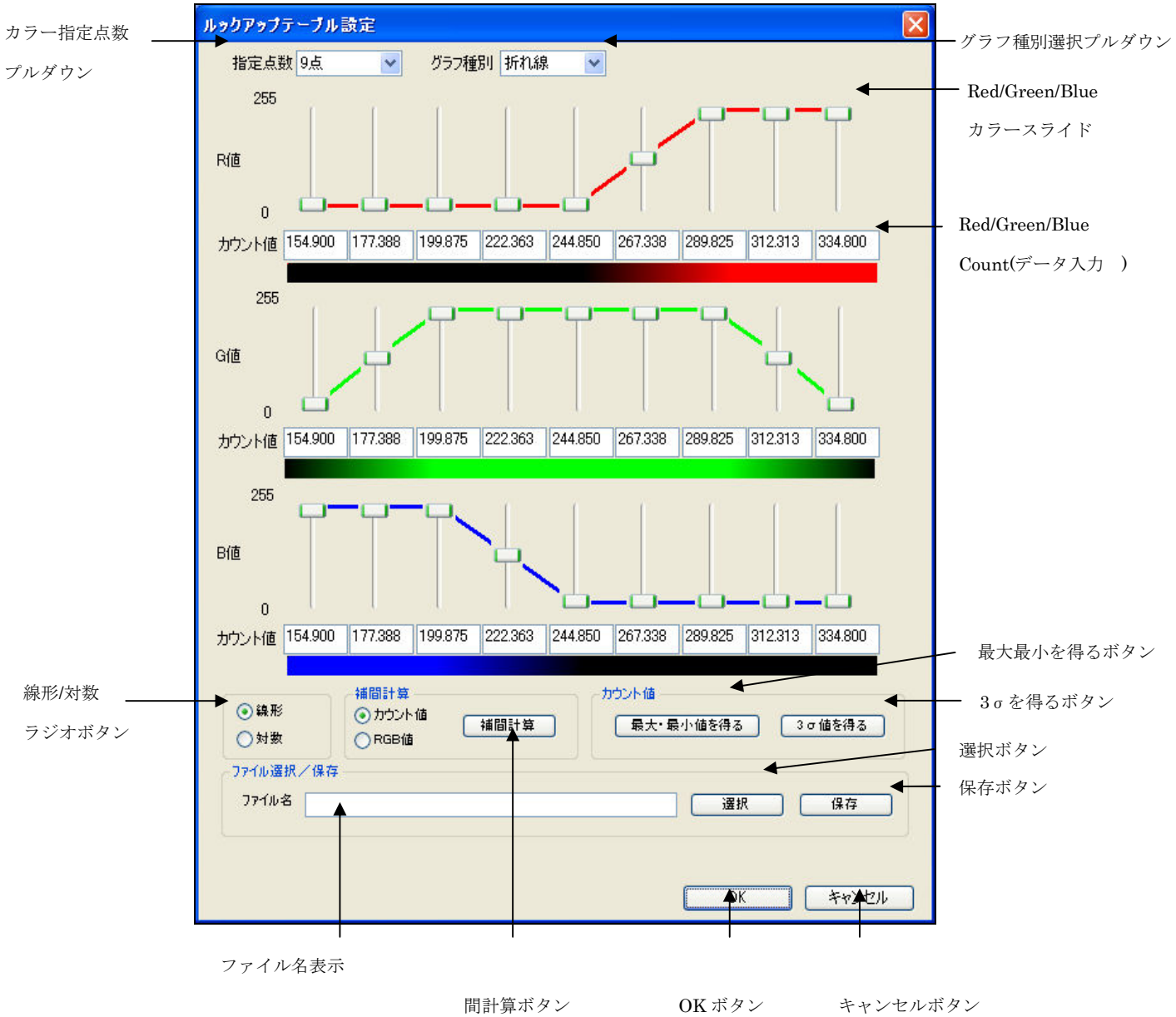


図 4.3.2-1 ルックアップテーブル設定画面

◆ カラー指定点数プルダウン

①本プルダウンメニューより、カラー指定点数を選択します。

本プルダウンメニューには、次の　種類の点数があります。

①2 点
②3 点
③5 点
④9 点

◆ グラフ種別

①本プルダウンメニューより、カラーテーブル設定のグラフ種別を選択します。

本プルダウンメニューには、以下に示す 2 種類のグラフ種別があります。

①　れ線
②

◆ Red/Green/Blue カラースライド

①点で指定されているデータ値に対応するグラフ表示します。

スライドを変更することで各点の色(0～255)を変更することができます。

◆ Red/Green/Blue Count(データ値入力　)

①点の RGB に対応する画像データ値を入力します。

入力する値は、画像データの範囲内の値にする必要があります。画像データの範囲は、『最大最小を得るボタン』または『3Σ を得るボタン』をクリックします。

◆ Red/Green/Blue 値

①Red/Green/Blue それぞれに、色（0～255）を指定します。

◆ 線形/対数ラジオボタン

①ルックアップテーブルの表示方法を線形/対数表示に設定します。

◆　間計算ボタン

①本ボタンをクリック

②　　の点以　の Count 値を線形または対数によって計算します。

◆ 最大最小を得るボタン

①本ボタンをクリック

②画像データの最大値および最小値を取得して　　の点に値を設定します。

◆ 3σを得るボタン

①本ボタンをクリック

②画像データの 3σ値を取得して　　の点に値を設定します。

◆ ファイル名表示

①編集するルックアップテーブルファイル名を表示します。

◆ 選択ボタン

①本ボタンをクリック

②図 4.3.2-2 に示す『ファイルを開く画面』を表示します。

③編集するルックアップテーブルファイル名を指定します。

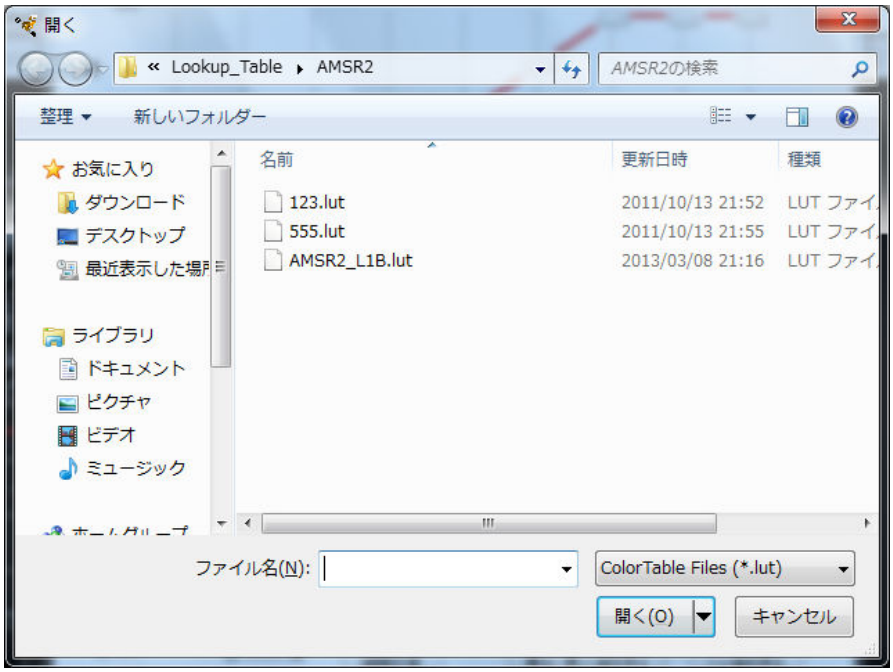


図 4.3.2-2 ファイルを開く画面

◆ 保存ボタン

①本ボタンをクリック

②図 4.3.2-3 に示す『名前を付けて保存画面』を表示します。

③編集の　　、保存するルックアップテーブルファイル名を指定します。

④保存ファイルの拡張子は'lut'になります。

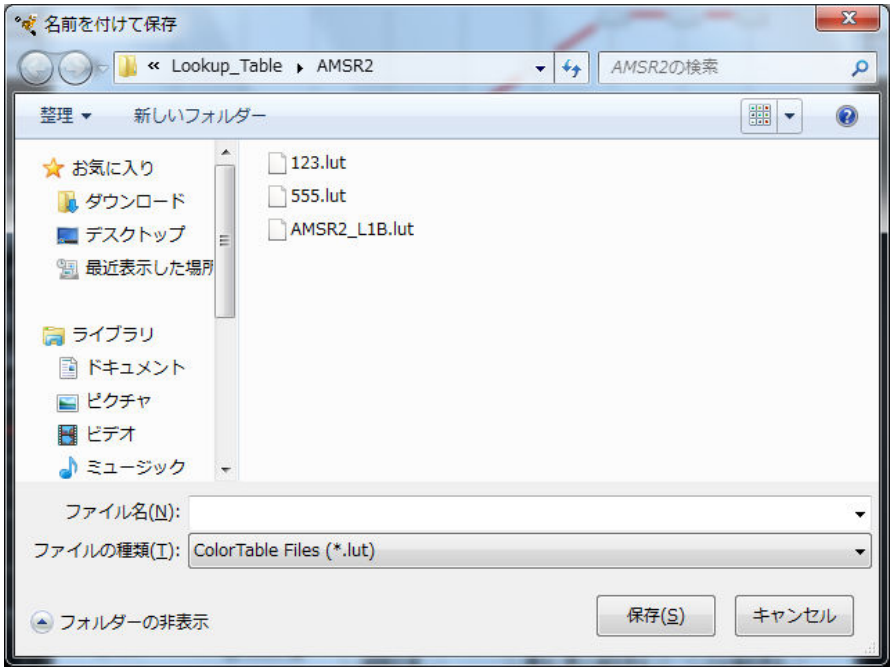


図 4.3.2-3 名前を付けて保存画面

◆ プレビューボタン

①本ボタンをクリック

②編集したルックアップテーブルで処理した画像を表示します。

◆ OK ボタン

①本ボタンをクリック

②現在表示されている画像のみに適用し、『ルックアップテーブル設定画面』を閉じます。

◆ キャンセルボタン

①本ボタンをクリック

②ルックアップテーブル設定を中止して『ルックアップテーブル設定画面』を閉じます。

4.3.3. ユーザ設定

本ユーザツールの表示設定を行うことができます。

本メニューを選択すると、図 4.3.3-1 に示す『ユーザ設定画面』を表示します。

図 4.3.3-1 ユーザ設定画面

◆ 最大ファイル数

①同時に読み込み可能なプロダクトの数を指定します。

◆ [バイトオーダ] ラジオボタン

①バイナリ形式で出力されるデータのバイトオーダを、「ビックエンディアン」または「リトルエンディアン」から選択します。

◆ 小数点以下の桁数

①CSV ファイルへ出力するデータの小数点以下の桁数を指定します。

◆ 改行するカラム数

①CSV ファイルの 1 レコードに格納する点数を指定します。

◆ 測データの値

①バイナリ形式および CSV 形式で保存する時に、未観測部分へ設定する値を指定します。

4.3.4. 画像出力設定

画像を画像形式（JPEG/TIFF/BMP/PNG 形式）で保存するときのレイアウトを設定することができます。

図 4.3.4-1 に示す『画像出力設定画面』を表示します。

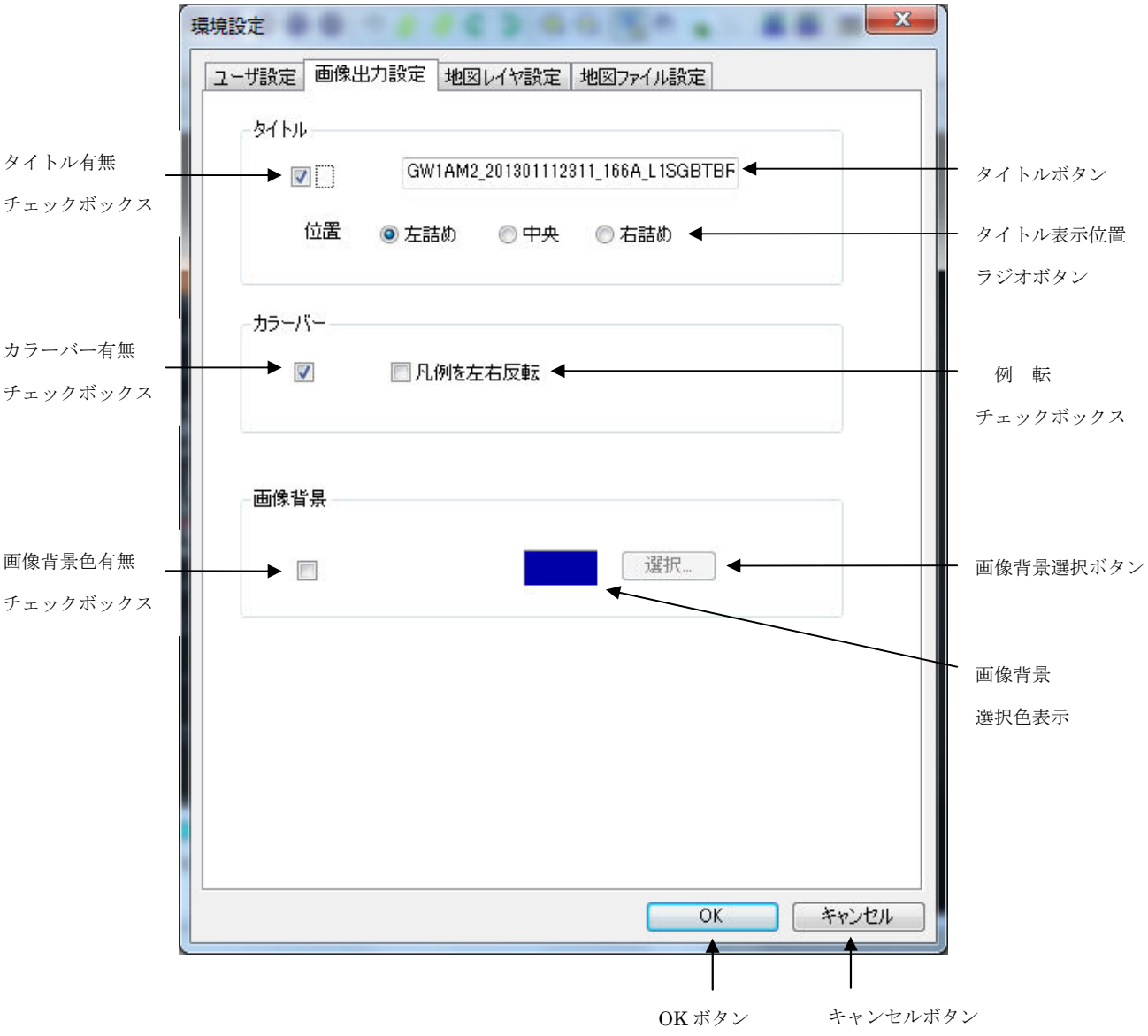


図 4.3.4-1 画像出力設定画面

画像出力設定画面は、単チャネルと RGB 合成で表示方法が異なります。
図 4.3.4-2 に画像出力設定画面の表示方法の　いについて示します。

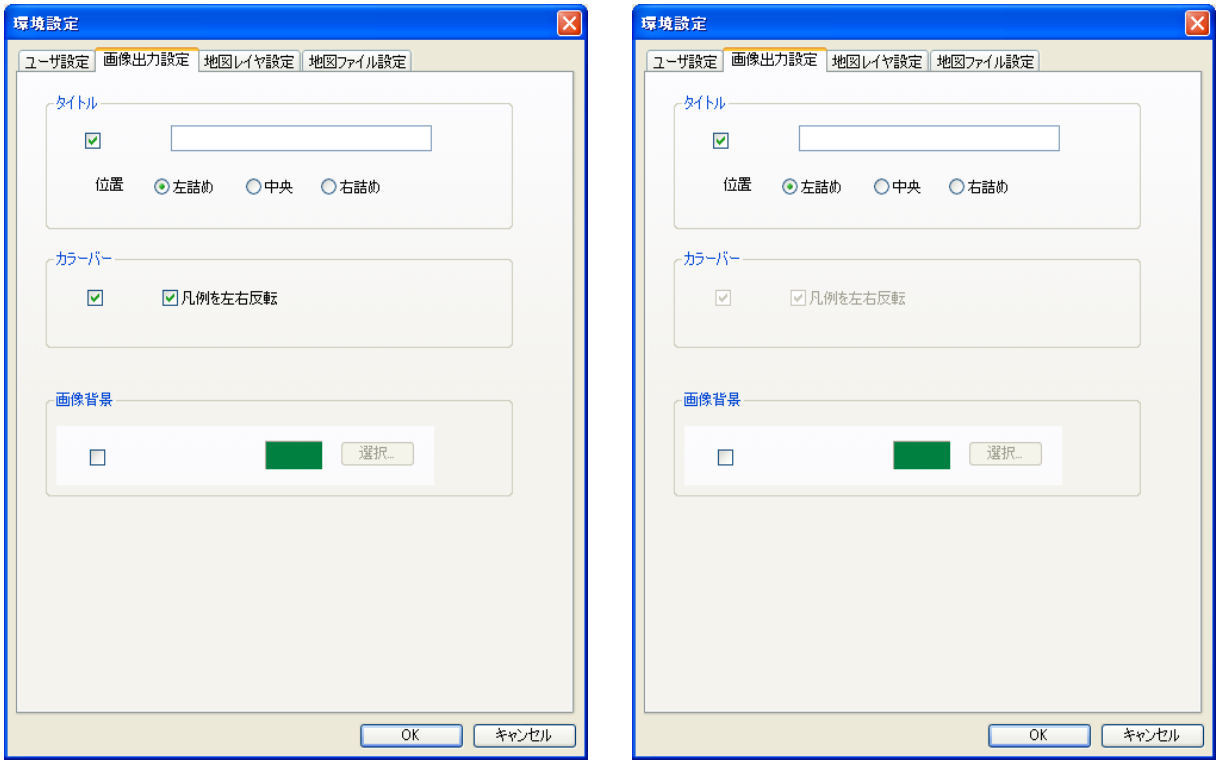


図 4.3.4-2 単チャネルと RGB 合成での画像出力設定画面の違い

◆ タイトル有無チェックボックス
①タイトルの有無を指定します。

◆ タイトル
①画像のタイトルを入力します。本項目を指定した場合、『地図表示』画面にもタイトルを表示します。
本項目は、タイトル有無ラジオボタンで『有』を指定した場合のみ設定可能です。

◆ タイトル表示位置ラジオボタン

①タイトルの表示位置を以下の 3 種類の中から指定します。

本項目は、タイトル有無チェックボックスで『有』を指定した場合のみ設定可能です。

【左　め】

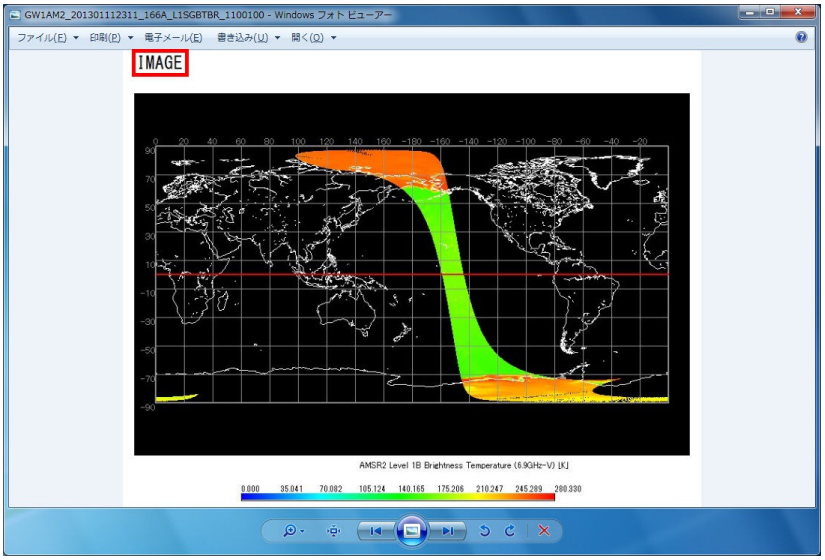


図 4.3.4-3 タイトル表示位置の画像見本(左詰め)

【中　】

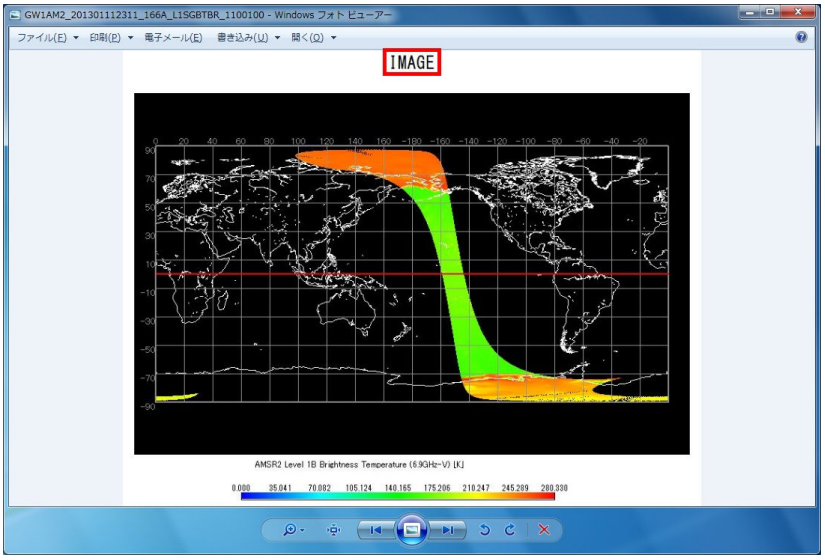


図 4.3.4-4 タイトル表示位置の画像見本(中央)

【右　め】

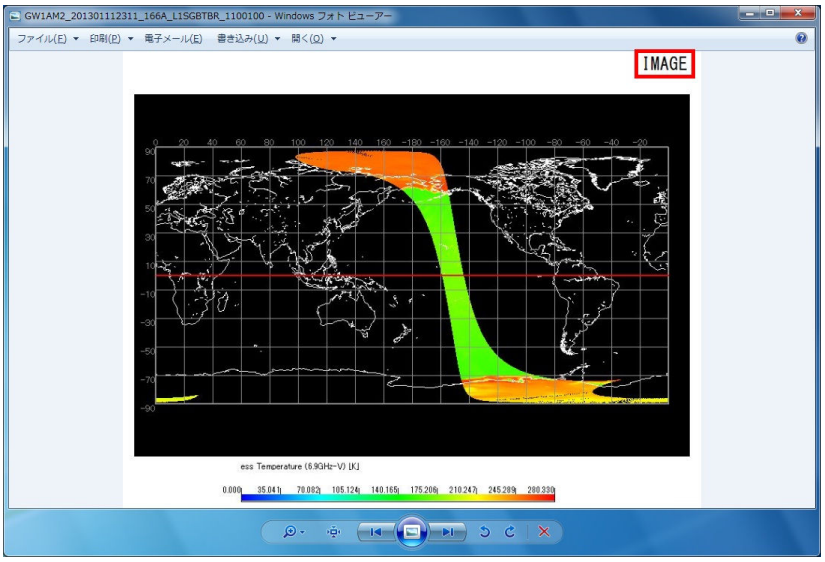


図 4.3.4-5 タイトル表示位置の画像見本(右詰め)

◆ カラーバー有無チェックボックス

①カラーバーの有無を指定します。

本項目は、『単チャネル』の場合のみ設定可能です。

また、本項目はプロダクト/地図表示画面上に表示されるカラーバーの有無にも　　されます。

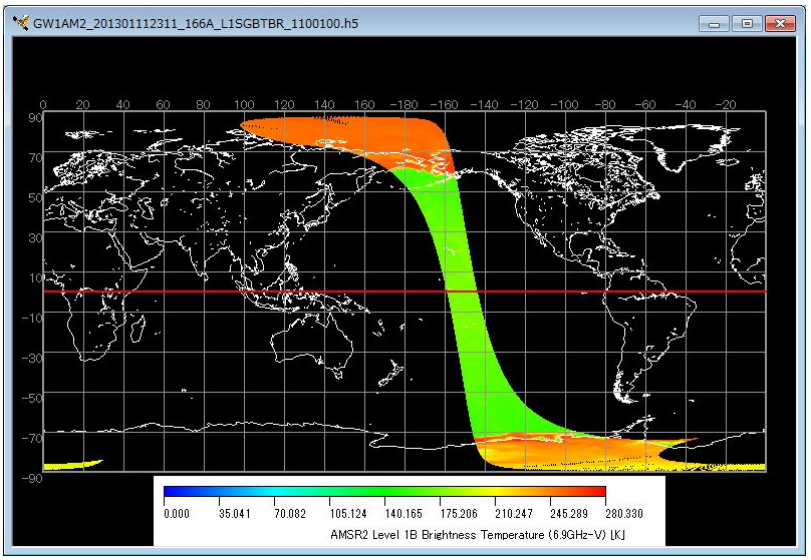


図 4.3.4-6 カラーバー表示時のプロダクト/地図表示画面

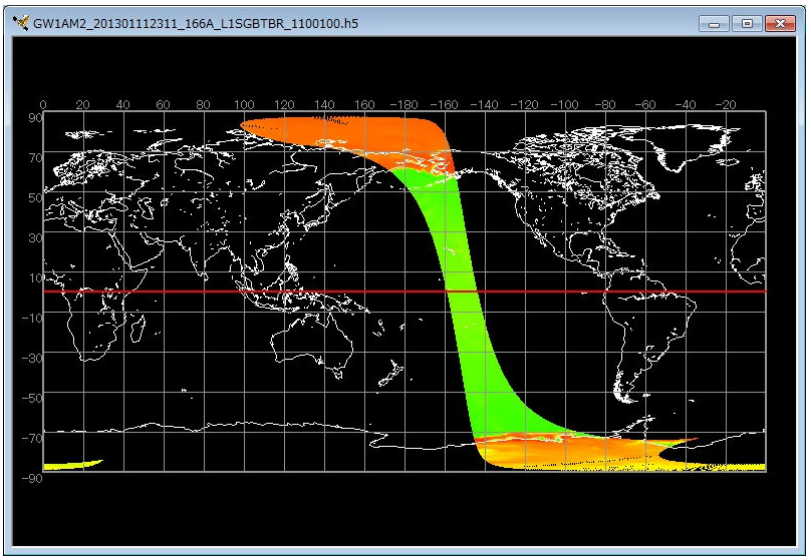


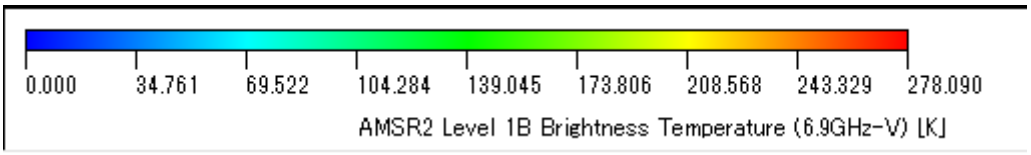
図 4.3.4-7 カラーバー非表示時のプロダクト/地図表示画面

◆　例　転チェックボックス

①　例を　転する場合を指定します。

本項目は、『単チャネル』の場合のみ設定可能です。

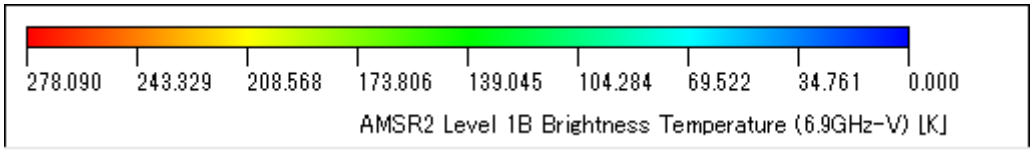
【　転非選択の場合】



小 → 大

図 4.3.4-8 凡例反転非選択時のカラーバー

【　転選択の場合】



大 → 小

図 4.3.4-9 凡例反転選択時のカラーバー

◆「画像背景色有無チェックボックス」

①画像背景色を表示する場合を指定します。

【背景色表示を選択の場合】

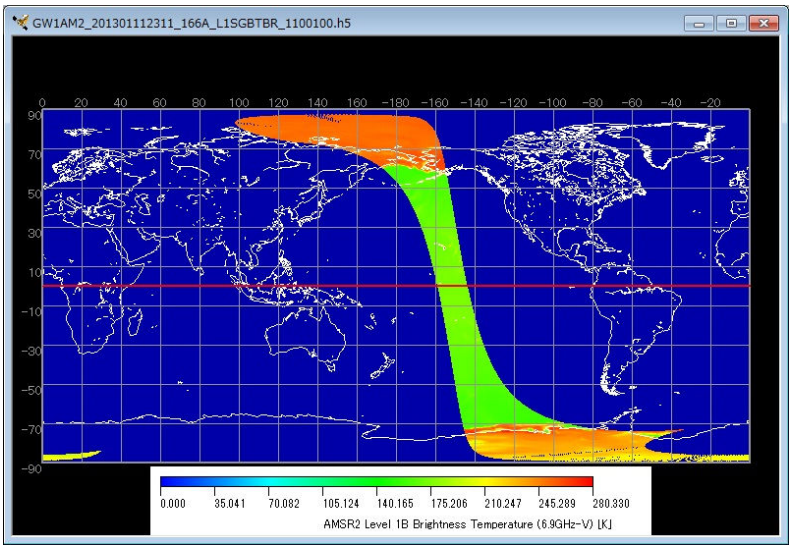


図 4.3.4-10 背景色表示選択時の画像見本

【背景色表示を非選択の場合】

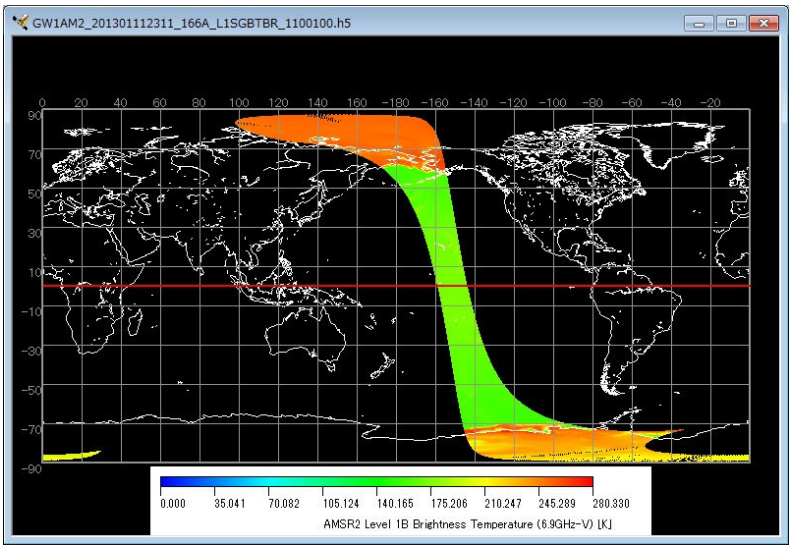


図 4.3.4-11 背景色表示非選択時の画像見本

◆ 「画像背景選択色表示　」

①画像背景色として選択されている色を表示します。

◆ 「画像背景色選択」ボタン

①本ボタンをクリック

②『色の設定画面』が表示され、画像背景色を選択することができます。

◆ OK ボタン

①本ボタンをクリック

②画像出力設定を保存して『画像出力設定画面』を閉じます。

◆ キャンセル ボタン

①本ボタンをクリック

②画像出力設定を中止して『画像出力設定画面』を閉じます。

4.3.5. 地図レイヤ設定

地図表示の色を変更することができます。

図 4.3.5-1 に示す『地図レイヤ設定画面』を表示します。

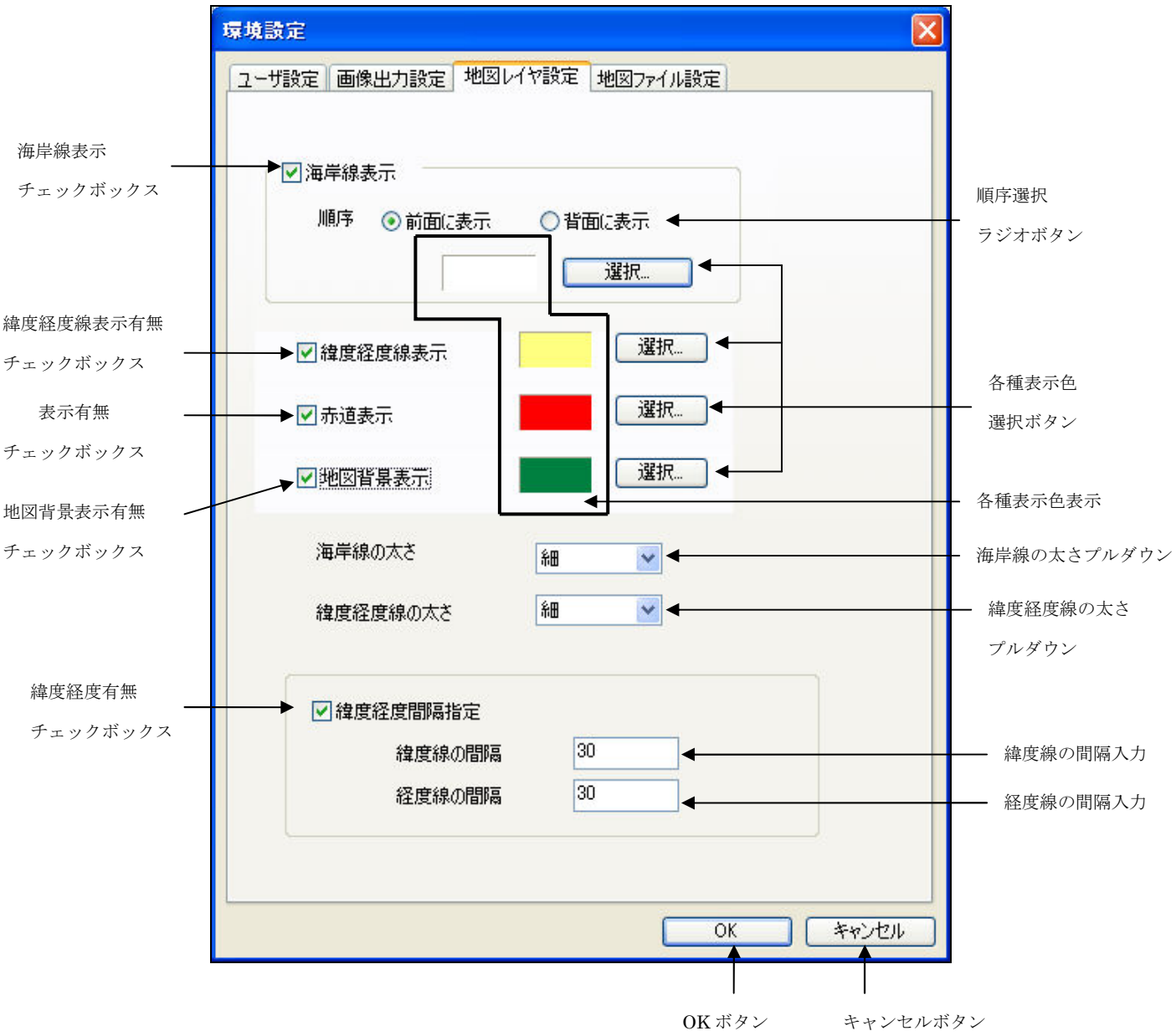


図 4.3.5-1 地図レイヤ設定画面

◆ 海岸線表示有無チェックボックス

①海岸線を表示する場合を指定します。

◆ 順序選択ラジオボタン

①海岸線をデータの前面/背面のどちらに表示するか指定してください。

【前面を選択した場合】

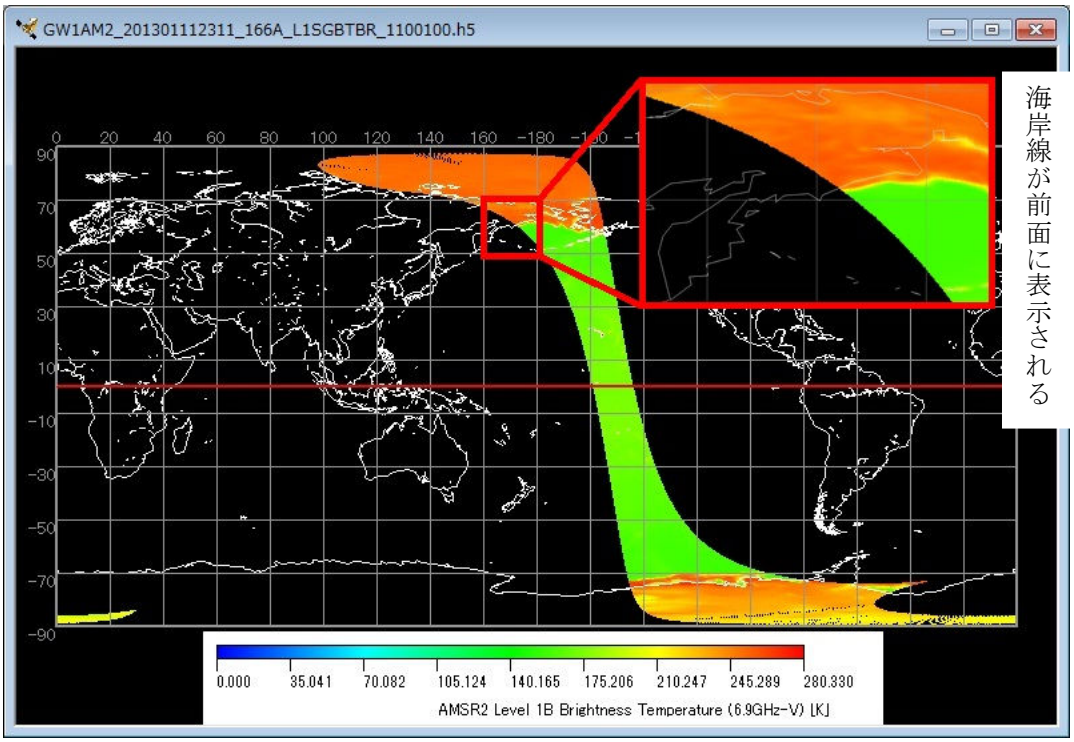


図 4.3.5-2 海岸線表示順序の前面選択時の画像の例

【背面を選択した場合】

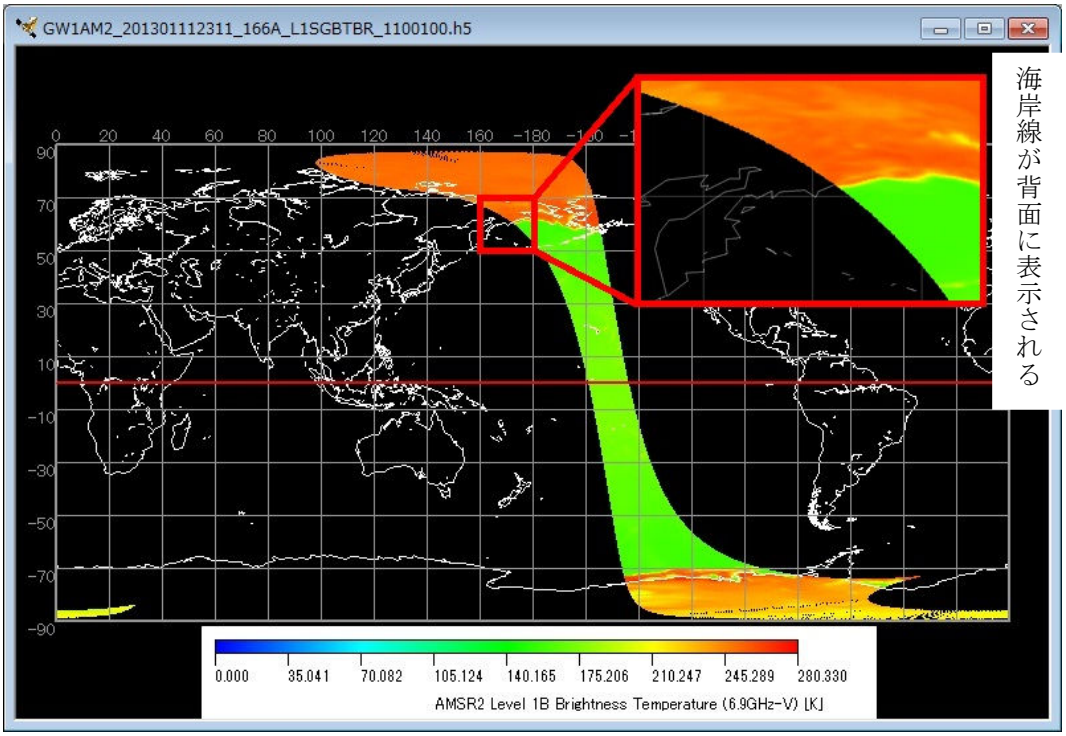


図 4.3.5-3 海岸線表示順序の背面選択時の画像の例

◆ 緯度経度線表示チェックボックス

①緯度経度線を表示する場合を指定します。

◆　　表示有無チェックボックス

①　　を表示する場合を指定します。

◆ 地図背景表示チェックボックス

①地図背景を表示する場合を指定します。

◆ 各種表示色選択ボタン

①本ボタンをクリック

②『色の設定画面』が表示され、各種表示色を選択することができます。

◆ 各種表示色表示

①選択されている各種表示色を表示します。

◆ 海岸線の太さプルダウン

①本プルダウンメニューより、海岸線の太さを選択します。

本プルダウンメニューには、以下に示す 3 種類の点数があります。

①細

②中

③太

◆ 緯度経度線の太さプルダウン

①本プルダウンメニューより、緯度経度線の太さを選択します。

本プルダウンメニューには、以下に示す 3 種類の点数があります。

①細

②中

③太

◆ 緯度経度線間隔指定チェックボックス

①緯度経度線の間隔を　定値にするかを指定します。

◆ 緯度線の間隔

①緯度線の間隔を指定します。

◆ 経度線の間隔

①経度線の間隔を指定します。

4.3.6.　地図ファイル設定

表示する地図のファイル設定を変更することができます。

図 4.3.6-1 に示す『地図ファイル設定画面』を表示します。

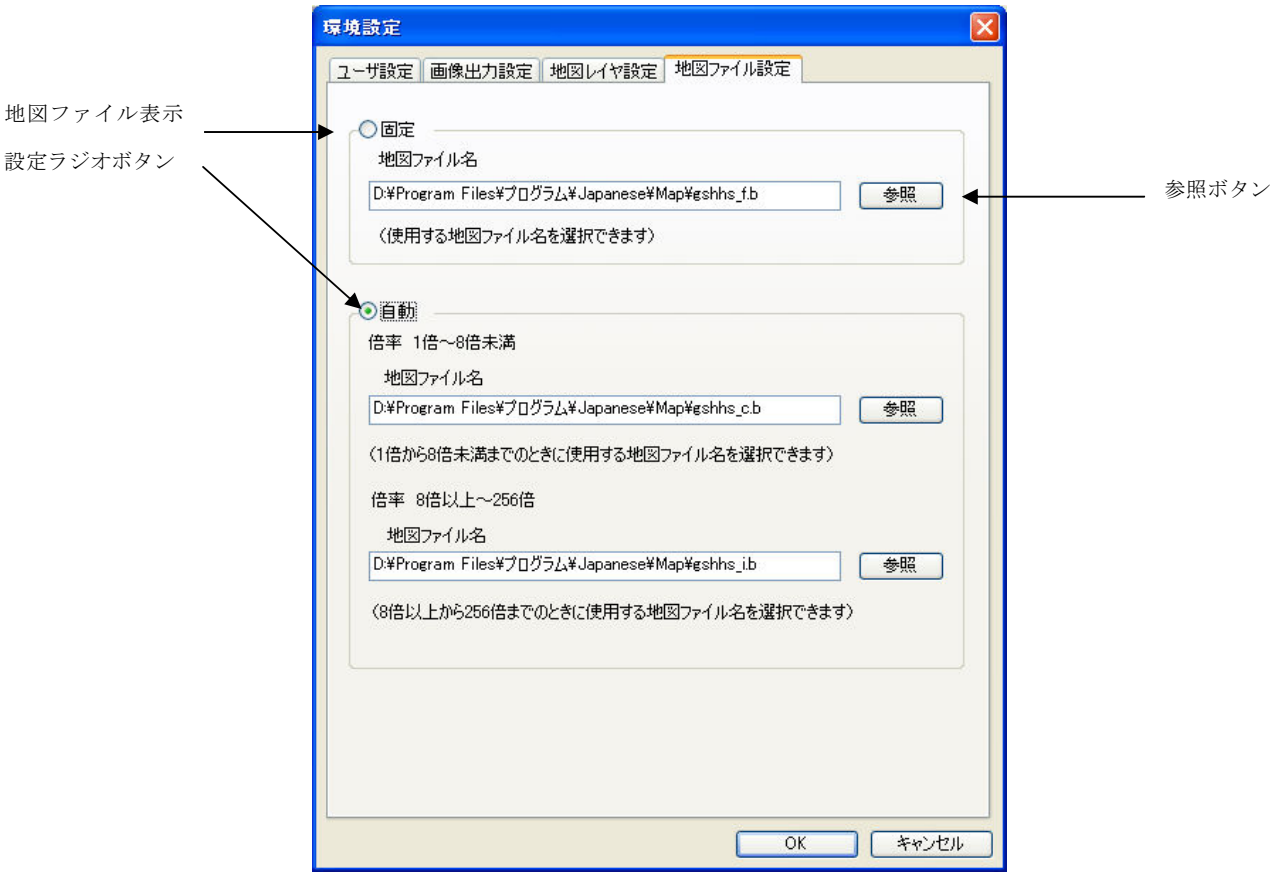


図 4.3.6-1　地図ファイル設定画面

◆ 地図ファイル表示設定ラジオボタン

①地図ファイルを　定／自動のどちらの表示方法にするか指定してください。

【　定を選択した場合】

倍率に関係なく全て同じ 1 つの地図ファイルを使って海岸線の表示をします。

【自動を選択した場合】

倍率が 1 倍～8 倍未　と倍率が 8 倍以上～256 倍とで 2 つの地図ファイルを切り替えて海岸線を表示します。

◆ 参照ボタン

①本ボタンをクリック

②『ファイル選択画面』が表示し、地図ファイルを指定します。

4.4. ヘルプメニュー

ヘルプメニューには、次の３種類のメニューがあります。

①ヘルプ

②関連リンク

③バージョン情報

図 4.4-1 にヘルプメニューを示し、以下それぞれのメニューについて説明します。

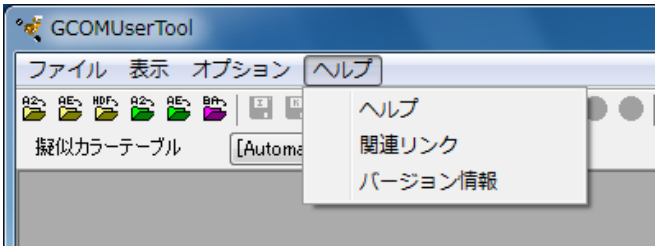


図 4.4-1 ヘルプメニュープルダウン

4.4.1. ヘルプ

本ユーザツールのヘルプをブラウザ上に表示します。

図 4.4-2 に『ヘルプ画面』を示します。

図 4.4-2 ヘルプ画面

4.4.2. 関連リンク

本メニューを選択すると、関連するリンクをブラウザ上に表示します。

図 4.4-3 に『関連情報表示画面』を示します。

図 4.4-3 関連情報表示画面

4.4.3. バージョン情報

本メニューを選択すると、本ユーザツールのバージョン情報を表示します。

図 4.4-4 バージョン情報

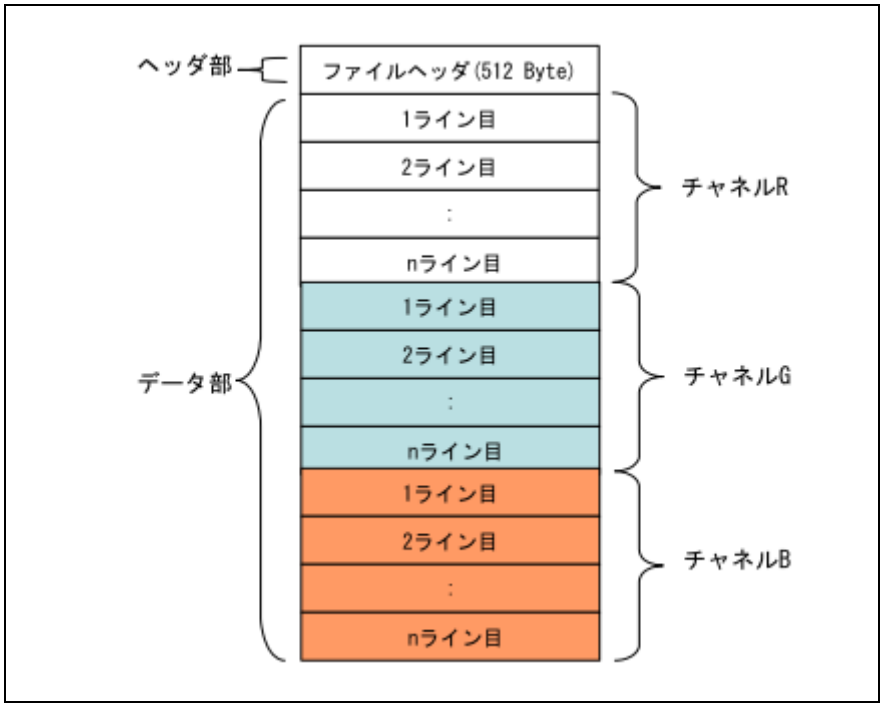
5. 付録 A ファイルフォーマット

GCOM ユーザツールで出力している次の 6 種類のファイルフォーマットについて説明します。

①バイナリファイル
②CSV ファイル
③KML ファイル
④HDF ファイル
⑤カラーバーテーブル ファイル
⑥ルックアップテーブル ファイル
⑦バッチ ファイル

5.1. 付録 A.1 バイナリファイル

GCOM ユーザツールが出力するバイナリファイルのフォーマットを付図 A.1-1 に示します。



付図 A.1-1 バイナリファイルのファイルフォーマット

バイナリファイルは、ヘッダ部とデータ部から構成します。

ヘッダ部：観測データのアノテーション情報（センサ名、ピクセル数、ライン数、
の緯度経度情報等）を格納します。

データ部：指定されたチャネル分の観測データを BSQ 形式で格納します。

以下、ヘッダ部、データ部について説明する。

1) ヘッダ部詳細

バイナリファイルのヘッダ部のフォーマットを付表 A.1-1 に示します。

付表 A.1-1 ヘッダ部データ項目内容（1/2）

No	項目	内容	考
1	/センサ名	名およびセンサ名を格納する。 AMSR2 の場合：GCOM-W1/AMSR2 AMSR の場合：ADEOS-II/AMSR AMSR-E の場合：Aqua/AMSR-E	
2	ピクセル	ピクセル数（観測点数）を格納する。	桁数は　定としない。
3	ライン	ライン数を格納する。	
4	左上緯度(※1)	切り出し領域の左上　の緯度を格納する。	
5	左上経度(※2)	切り出し領域の左上　の経度を格納する。	
6	右上緯度(※1)	切り出し領域の右上　の緯度を格納する。	
7	右上経度(※2)	切り出し領域の右上　の経度を格納する。	
8	左下緯度(※1)	切り出し領域の左下　の緯度を格納する。	
9	左下経度(※2)	切り出し領域の左下経度を格納する。	
10	右下緯度(※1)	切り出し領域の右下緯度を格納する。	
11	右下経度(※2)	切り出し領域の右下経度を格納する。	
12	単位	データ部に格納された観測データの単位を格納する。	観測データに単位が無い場合は本値を設定しない。
13	スケール	データ部に格納された観測データのスケールファクタを格納する。	観測データにスケールファクタが無い場合は本値を１とする。
14	オフセット	データ部に格納された観測データのオフセットを格納する。	観測データにオフセットが無い場合は本値をロとする。
15	著作権	データの著作権者を格納する。	

付表 A.1-1 ヘッダ部データ項目内容（2/2）

No	項目	内容	考
16	入力ファイル名	データのファイル名を格納する。	ファイル名がヘッダ部のサイズを超　する場合は、超　部分は切り　てる。
17	空　(※3)	空　文字（20[hex]）を格納する。	
18		ヘッダ部の終　に改行 LF(0A[hex])を格納する。	

※1 単位は[degree]で、データ範囲は-90[deg]から 90[deg]とする。

※2 単位は[degree]で、データ範囲は-180[deg]から 180[deg]とする。

※3 ヘッダ部のレコードサイズが 512 バイトに　たない場合は、データ終　まで空　文字(20[hex])を　たします。

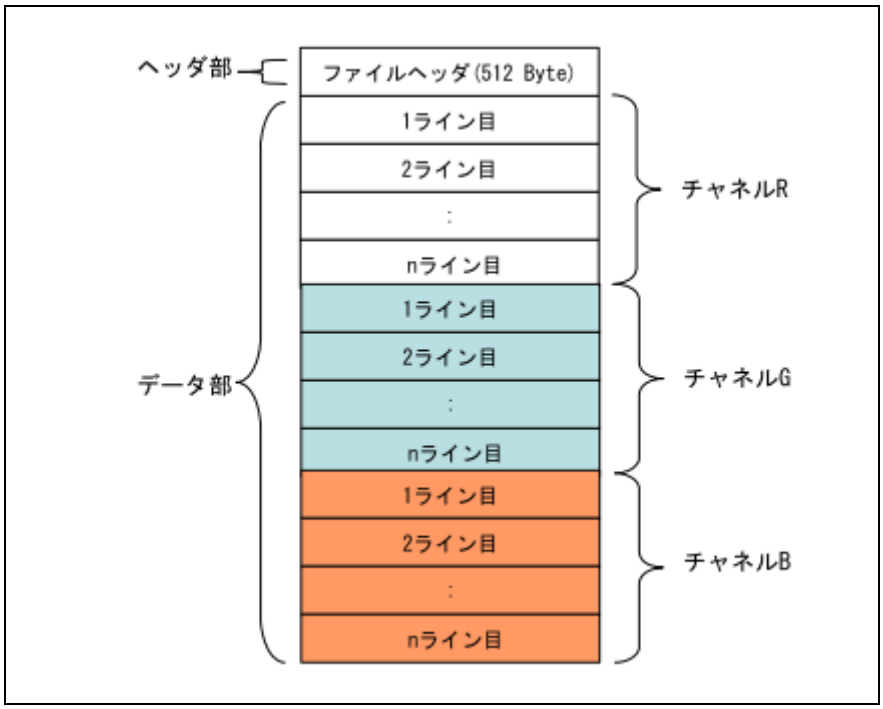
2) データ部

バイナリファイルのデータ部は、指定された切り出し範囲の RGB（またはシュードカラー）に　り　てられたチャネルのデータを BSQ 形式で格納します。

1 ピクセルのサイズは、入力データにより 1 バイトまたは 2 バイトとします。2 バイトデータの場合、バイトオーダにリトルエンディアン（デフォルト）またはビッグエンディアンが存在しますが、ユーザが指定したバイトオーダで格納します。

5.2. 付録 A.2 CSV ファイル

GCOM ユーザツールが出力する CSV ファイルのフォーマットを付図 A.2-1 に示します。



付図 A.2-1 CSV ファイルフォーマット

CSV ファイルは、ヘッダ部とデータ部から構成します。

ヘッダ部：観測データのアノテーション情報（センサ名、ピクセル数、ライン数、の緯度経度情報等）を格納します。

データ部：指定されたチャネル分の観測データを格納します。表 A.2-1 に出力する情報一覧を示します。

1) ヘッダ部詳細

CSV ファイルのヘッダ部のフォーマットを付表 A.2-1 に示します。

付表 A.2-1 ヘッダ部データ項目内容（1/2)

No	項目	内容	考
1	/センサ名	名およびセンサ名を格納する。 AMSR2 の場合：GCOM-W1/AMSR2 AMSR の場合：ADEOS-II/AMSR AMSR-E の場合：Aqua/AMSR-E	
2	ピクセル	ピクセル数（観測点数）を格納する。	桁数は　定としない。
3	ライン	ライン数を格納する。	
4	左上緯度(※1)	切り出し領域の左上　の緯度を格納する。	
5	左上経度(※2)	切り出し領域の左上　の経度を格納する。	
6	右上緯度(※1)	切り出し領域の右上　の緯度を格納する。	
7	右上経度(※2)	切り出し領域の右上　の経度を格納する。	
8	左下緯度(※1)	切り出し領域の左下　の緯度を格納する。	
9	左下経度(※2)	切り出し領域の左下経度を格納する。	
10	右下緯度(※1)	切り出し領域の右下緯度を格納する。	
11	右下経度(※2)	切り出し領域の右下経度を格納する。	
12	単位	データ部に格納された観測データの単位を格納する。	観測データに単位が無い場合は本値を設定しない。
13	スケール	データ部に格納された観測データのスケールファクタを格納する。	観測データにスケールファクタが無い場合は本値を１とする。
14	オフセット	データ部に格納された観測データのオフセットを格納する。	観測データにオフセットが無い場合は本値をロとする。
15	著作権	データの著作権者を格納する。	

付表 A.2-1 ヘッダ部データ項目内容（2/2)

No	項目	内容	考
16	入力ファイル名	データのファイル名を格納する。	ファイル名がヘッダ部のサイズを超　する場合は、超　部分は切り　てる。
17	空　(※3)	空　文字（20[hex]）を格納する。	
18		ヘッダ部の終　に改行 LF(0A[hex])を格納する。	

※1 単位は[degree]で、データ範囲は-90[deg]から 90[deg]とする。

※2 単位は[degree]で、データ範囲は-180[deg]から 180[deg]とする。

※3 ヘッダ部のレコードサイズが 512 バイトに　たない場合は、データ終　まで空　文字(20[hex])を　たします。

2) データ部

CSV ファイルのデータ部は、指定された切り出し範囲の RGB（またはシュードカラー）に　り　てられたチャネルのデータを以下のいずれかの形式で格納します。

① 緯経度値付き形式のフォーマット

#Red Channel
経度 1,緯度 1,観測値 1,経度 2,緯度 2,観測値 2,　　経度 N,緯度 N,観測値 N　改行
・
経度 1,緯度 1,観測値 1,経度 2,緯度 2,観測値 2,　　経度 N,緯度 N,観測値 N　改行
#Green Channel
経度 1,緯度 1,観測値 1,経度 2,緯度 2,観測値 2,　　経度 N,緯度 N,観測値 N　改行
・
経度 1,緯度 1,観測値 1,経度 2,緯度 2,観測値 2,　　経度 N,緯度 N,観測値 N　改行
#Blue Channel
経度 1,緯度 1,観測値 1,経度 2,緯度 2,観測値 2,　　経度 N,緯度 N,観測値 N　改行
・
経度 1,緯度 1,観測値 1,経度 2,緯度 2,観測値 2,　　経度 N,緯度 N,観測値 N　改行

② 緯経度無し形式のフォーマット

#Red Channel
観測値１, 観測値 2,　　観測値 N　改行
・
観測値１, 観測値 2,　　観測値 N　改行
#Green Channel
観測値１, 観測値 2,　　観測値 N　改行
・
観測値１, 観測値 2,　　観測値 N　改行
#Blue Channel
観測値１, 観測値 2,　　観測値 N　改行
・
観測値１, 観測値 2,　　観測値 N　改行

5.3. 付録 A.3 KML ファイル

KML（Keyhole Markup Language）は、AMSR、AMSR-E の画像ファイルを GoogleEarth™ に表示するための KML タグを格納したファイルです。

GCOM ユーザツールが出力する KML ファイルのファイルフォーマットを付図 A.3- 1 に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<kml xmlns="http://earth.google.com/kml/2.0"> ①KML ヘッダの定義タグ
<Document>
<name> Aqua/AMSR-E </name> ②プレイスマークのラベル定義タグ
<description>③プレイスマークに表示されるインフォーメーション定義タグ
<![CDATA[GranuleID:P1AME090228179MD_P01A0000000.00：Copyright @ Japan Aerospace Exploration Agency/Earth Observation Research Center]]>
</description>
<GroundOverlay>④オーバレイ画像の定義タグ
<name> Aqua/AMSR-E </name>
<visibility>1</visibility>⑤ビューアのデフォルト設定定義タグ
<Icon>⑥表示画像の定義タグ
<href>P1AME090228179MD_P01A0000000.png</href>
</Icon>
<LatLonBox>⑦表示する画像ファイルの　　の緯経度の定義タグ
<north>90</north>
<south>-90</south>
<east>0</east>
<west>-360</west>
</LatLonBox>
<LookAt>⑧ビューアの視点定義タグ
<heading>0</heading>
<latitude>0</latitude>
<longitude>140</longitude>
<tilt>0</tilt>
<range>18000000</range>
</LookAt>
<TimeSpan>⑪タイムスパン定義タグ
<begin>2003-01-01T00:00:00Z</begin> <end>2003-02-01T00:00:00Z</end>
```

```
</TimeSpan>
</GroundOverlay>
<ScreenOverlay>□スケールバー画像のオーバレイ定義タグ
<name>Color Scale Bar</name>
<Icon>
<href>P1AME090228179MD_P01A0000000_bar.png</href>
</Icon>
<overlayXY x="0.5" y="0" xunits="fraction" yunits="fraction"/>
<screenXY x="0.5" y="10" xunits="fraction" yunits="pixels"/>
<size x="0" y="0" xunits="fraction" yunits="fraction"/>
<TimeSpan>⑪タイムスパン定義タグ
<begin>2003-01-01T00:00:00Z</begin> <end>2003-02-01T00:00:00Z</end>
</TimeSpan>
</ScreenOverlay>
<LookAt>⑩ビューアのデフォルト視点定義タグ
<heading>0</heading>
<latitude>0</latitude>
<longitude>140</longitude>
<tilt>0</tilt>
<range>18000000</range>
</LookAt>
</Document>
</kml>
```

付図 A.3-1 KML ファイルフォーマット

1) KML タグ定義

付図 A.3-1 に示したファイルフォーマット中の KML タグについて付表 A.3-1 に示します。

付表A.3-1 KML タグ定義(1/2)

No	タグ定義	設定値	考
1	KML ヘッダ定義	KML2.0 を指定する。	
2	プレイスマークのラベル定義	GoogleEarth™のプレイスマークウィンドウに表示する以下のラベルを定義する。 ・AMSR の場合：ADEOS-II/AMSR ・AMSR-E の場合：Aqua/AMSR-E ・ AMSR2 の場合：GCOM-W1/AMSR2	
3	プレイスマークの情報定義	GoogleEarth™のプレイスマークウィンドウに表示する以下の情報を定義する。 ・グラニュール ID ・著作権者	
4	オーバレイ画像定義	オーバレイ画像の を指定する	
5	ビューアのデフォルト設定定義	デフォルト設定はオン(=1)とする。	
6	表示画像のファイル名定義	表示する画像ファイル名を設定する。	表示画像は EQR で投影された画像とする。
7	表示する画像ファイルの の経緯度定義	表示する画像の の緯度経度を設定する。	
8	ビューアの視点定義	デフォルトの視点に以下を設定する。 ・latitude 0(deg) ・longitude 140(deg) ・range 18000000(m) ・tilt 0(deg) ・heading=0(deg)	
9	スクリーンオーバレイ画像定義	スケールバー画像の を指定する。	

付表A.3-1 KML タグ定義(2/2)

No	タグ定義	設定値	考
10	ビューアのデフォルト視点定義	GoogleEarth™起動時のデフォルトの視点に以下を設定する。 ・ atitude 0(deg) ・ ongitude 140(deg) ・range 18000000(m) ・tilt 0(deg) ・heading=0(deg)	
11	タイムスパン定義	画像が表示対象となる期間を定義する。	

5.4. 付録 A.4 KML ファイル(タイムライン機能対応)

Google Earth™には、表示する地理空間情報を指定した時刻によって変　させるタイムライン機能が　わっています。本ユーザツールの AMSR/AMSR-E 動画作成機能によって、タイムライン機能に対応した KML を作成することができます。

本ユーザツールが出力する、タイムライン機能対応 KML ファイルのファイルフォーマットを付図 A.4-１に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<kml xmlns="http://earth.google.com/kml/2.0"> ①KML ヘッダの定義タグ
<Document>
<name> Aqua/AMSR-E</name> ②プレイスマークのラベル定義タグ
<description>③プレイスマークに表示されるインフォメーション定義タグ
<![CDATA[GranuleID:P1AME090228179MD_P01A0000000.00 : Copyright @ Japan Aerospace Exploration Agency/Earth Observation Research Center]]>
Agency/Earth Observation Research and application Center]]>
</description>
<GroundOverlay>④オーバレイ画像の定義タグ
<name> Aqua/AMSR-E </name>
<visibility>1</visibility>⑤ビューアのデフォルト設定定義タグ
<Icon>⑥表示画像の定義タグ
<href>P1AME090228179MD_P01A0000000.png</href>
</Icon>
<LatLonBox>⑦表示する画像ファイルの　　の経緯度の定義タグ
<north>90</north>
<south>-90</south>
<east>0</east>
<west>-360</west>
</LatLonBox>
<LookAt>⑧ビューアの視点定義タグ
<heading>0</heading>
<latitude>0</latitude>
<longitude>140</longitude>
<tilt>0</tilt>
<range>18000000</range>
</LookAt>
<TimeSpan>⑪タイムスパン定義タグ
```

```
<begin>2009-02-28T23:51:41Z</begin><end>2009-03-01T00:41:30Z</end>
</TimeSpan>
</GroundOverlay>
<GroundOverlay>□複数オーバレイ画像定義タグ
    (     )
<TimeSpan>
<begin>2009-02-28T23:51:41Z</begin><end>2009-03-01T00:41:30Z</end>
</TimeSpan>
</GroundOverlay>
    (繰り返し)
<ScreenOverlay>⑨スケールバー画像のオーバレイ定義タグ
<name>Color Scale Bar</name>
<Icon>
<href>P1AME090228179MD_P01A0000000_bar.png</href>
</Icon>
<overlayXY x="0.5" y="0" xunits="fraction" yunits="fraction"/>
<screenXY x="0.5" y="10" xunits="fraction" yunits="pixels"/>
<size x="0" y="0" xunits="fraction" yunits="fraction"/>
<TimeSpan>⑪タイムスパン定義タグ
<begin>2003-01-01T00:00:00Z</begin> <end>2003-05-01T00:00:00Z</end>
</TimeSpan>
</ScreenOverlay>
<LookAt>⑩ビューアのデフォルト視点定義タグ
<heading>0</heading>
<latitude>0</latitude><longitude>140</longitude><tilt>0</tilt><range>18000000</range>
</LookAt>
</Document>
</kml>
```

付図 A.4-1 KML ファイルフォーマット(タイムライン機能対応)

1) KML タグ定義

付図 A.4-1 に示したファイルフォーマット中の KML タグについて付表 A.4-1 に示します。なお、付図 A.3-1 と同一のものについては説明を　　します。

付表 A.4-1 KML タグ定義

No	タグ定義	設定値	考
1	タイムスパン定義	タイムライン表示機能において、オーバレイ画像が表示対象となる期間を定義する。	
2	複数オーバレイ画像定義	タイムライン表示機能において、表示する複数のオーバレイ画像を定義する。構　は、タイムスパン定義が含まれたオーバレイ画像定義と同一である。	

5.5. 付録 A.5 HDF ファイル

画面上に表示した画像から、出力範囲を矩形にて選択し、その範囲に一部でも含まれるデータに対してスキャン単位で切り出したデータを HDF 形式で出力します。

●ファイル形式

ファイル形式はHDF5形式とします。

●内容

(1)メタデータ

出力するメタデータを、付表A5-1に記載します。

(2)データセット

データセットに含まれるすべてのデータを、スキャン単位で切り出して格納します。

付表 A5-1　メタデータ項目一覧(1/4)

No.	メタデータ名	説明	出力を変更する箇所（－は変更しない）
1	ProductName	プロダクトの　称	—
2	GeophysicalName	地球物理量名	—
3	ProductVersion	プロダクトバージョン	—
4	AlgorithmVersion	アル　リズムバージョン	—
5	ParameterVersion	パラメータバージョン	—
6	ProductSize_MByte	プロダクトサイズ(MB)	○：変更したデータサイズに変更
7	GranuleID	グラニュール ID	—
8	Operation	プロダクト種別	—
9	ProductionDateTime	プロダクト生成日時(UTC)	○：データ作成時刻に変更
10	ObservationStartDateTime	観測データ開　日時（UTC）	○：データ範囲の開　時刻に変更
11	ObservationEndDateTime	観測データ終了日時（UTC）	○：データ範囲の終了時刻に変更
12	GringPointLatitude	データ有　範囲緯度	○：データ範囲に合わせて変更
13	GringPointLongitude	データ有　範囲経度	○：データ範囲に合わせて変更
14	PGEName	データ処理　フトウェア名	—
15	InputFileName	入力ファイル名	—
16	ProcessingCenter	データ処理	—
17	ContactOrganizationName	連　先　　名	—
18	ContactOrganizationTelephone	連　先	—
19	StartOrbitNumber	開	—
20	StopOrbitNumber	終了	—
21	EquatorCrossingLongitude	経度	—
22	EquatorCrossingDateTime	日時（UTC）	—
23	OrbitDirection	方	—
24	PassNumber	パス	—
25	OrbitDataFileName	使用　データファイル名	—
26	EphemerisMissingDataRate	データ　率	—
27	AttitudeMissingDataRate	データ　率	—
28	OrbitDataType	データのタイプ	—
29	PlatformShortName	プラットフォーム　称	—
30	SensorShortName	観測センサ　称	—
31	NumberOfScans	数	○：データ範囲の値に変更
32	NumberOfMissingScans	数	○：*2
33	AntennaRotationVelocity	アンテナ（タコパルス）の回転　度（30～40rpm）	—

付表 A5-1　メタデータ項目一覧(2/4)

No.	メタデータ名	説明	出力を変更する箇所（－は変更しない）
34	ECSDataModel	メタデータモデル名	―
35	NumberOfPackets	レベル　パケット数	―
36	NumberOfInputFiles	レベル　ファイル数	―
37	NumberMissingPackets	パケット　　数	○：*2
38	NumberOfGoodPackets	パケット数	○：*2
39	OverlapScans	オーバラップスキャン数（　側）	○：切出し後は、0 に変更すること。
40	QALocationOfPacketDiscontinuity	Packet Sequence Counter　連続	―
41	EphemerisQA	エフェメリスリ　ットチェック	―
42	AutomaticQAFlag	プログラムによるチェック	―
43	ScienceQualityFlag	物理量算出時　　フラグ	―
44	ScienceQualityFlagExplanation	物理量算出時　　フラグ説明	―
45	AutomaticQAFlagExplanation	プログラムチェックの記述	―
46	QAPercentMissingData	データ　　数	―
47	QAPercentOutofBoundsData	データリ　ットチェック	―
48	QAPercentParityErrorData	パリティエラーデータ	―
49	ProcessingQADescription	処理中に起こったエラーの記録	―
50	ProcessingQAAttirbute	QA メタデータで異　があるアトリビュート名	―
51	GlobalMeteorologicalDataType	使用した　象データ	―
52	AncillaryDataInformation	アンシラリデータ情報	―
53	SatelliteOrbit	の	―
54	SatelliteAltitude	高度	―
55	OrbitSemiMajorAxis		―
56	OrbitEccentricity	率	―
57	OrbitArgumentPerigee	地点　数	―
58	OrbitInclination		―
59	OrbitPeriod	期	―
60	RevisitTime	回　日数	―
61	AMSRChannel	AMSR チャネル	―
62	AMSRBandWidth	AMSR バンド	―
63	AMSRBeamWidth	AMSR ビーム	―
64	OffNadir	オフナディア	―
65	SpatialResolution	空間分解能(Az　El)	―
66	ScanningPeriod	期	―

付表 A5-1　メタデータ項目一覧(3/4)

No.	メタデータ名	説明	出力を変更する箇所（－は変更しない）
67	SwathWidth	スウォース	—
68	DynamicRange	ダイナ　ックレンジ	—
69	DataFormatType	フォーマット種類	—
70	HDFFormatVersion	HDF フォーマットバージョン	—
71	EllipsoidName	地球　　体モデル	—
72	SemiMajorAxisofEarth	地球	—
73	FlatteningRatioofEarth	地球　　率	—
74	SensorAlignment	センサアライメント	—
75	Thermistor1CountRange	サー　スタ 1　　値変換係数適用範囲	—
76	Thermistor1ConversionTableD	サー　スタ 1　　値変換係数 D	—
77	Thermistor1ConversionTableE	サー　スタ 1　　値変換係数 E	—
78	Thermistor1ConversionTableF	サー　スタ 1　　値変換係数 F	—
79	Thermistor2CountRange	サー　スタ 2　　値変換係数適用範囲	—
80	Thermistor2ConversionTableW4	サー　スタ 2　　値変換係数 W4	—
81	Thermistor2ConversionTableW3	サー　スタ 2　　値変換係数 W3	—
82	Thermistor2ConversionTableW2	サー　スタ 2　　値変換係数 W2	—
83	Thermistor2ConversionTableW1	サー　スタ 2　　値変換係数 W1	—
84	Thermistor2ConversionTableW0	サー　スタ 2　　値変換係数 W0	—
85	Thermistor3CountRange	サー　スタ 3　　値変換係数適用範囲	—
86	Thermistor3ConversionTableW4	サー　スタ 3　　値変換係数 W4	—
87	Thermistor3ConversionTableW3	サー　スタ 3　　値変換係数 W3	—
88	Thermistor3ConversionTableW2	サー　スタ 3　　値変換係数 W2	—
89	Thermistor3ConversionTableW1	サー　スタ 3　　値変換係数 W1	—
90	Thermistor3ConversionTableW0	サー　スタ 3　　値変換係数 W0	—
91	Platinum1CountRange	センサ 1　　値変換係数適用範囲	—
92	Platinum1ConversionTableW4	センサ 1　　値変換係数 W4	—
93	Platinum1ConversionTableW3	センサ 1　　値変換係数 W3	—
94	Platinum1ConversionTableW2	センサ 1　　値変換係数 W2	—
95	Platinum1ConversionTableW1	センサ 1　　値変換係数 W1	—
96	Platinum1ConversionTableW0	センサ 1　　値変換係数 W0	—

付表 A5-1　メタデータ項目一覧(4/4)

No.	メタデータ名	説明	出力を変更する箇所（－は変更しない）
97	Platinum2CountRange	センサ 2　値変換係数適用範囲	—
98	Platinum2ConversionTableW4	センサ 2　値変換係数 W4	—
99	Platinum2ConversionTableW3	センサ 2　値変換係数 W3	—
100	Platinum2ConversionTableW2	センサ 2　値変換係数 W2	—
101	Platinum2ConversionTableW1	センサ 2　値変換係数 W1	—
102	Platinum2ConversionTableW0	センサ 2　値変換係数 W0	—
103	Platinum3ConversionTableW4	センサ 3　値変換係数 W4	—
104	Platinum3ConversionTableW3	センサ 3　値変換係数 W3	—
105	Platinum3ConversionTableW2	センサ 3　値変換係数 W2	—
106	Platinum3ConversionTableW1	センサ 3　値変換係数 W1	—
107	Platinum3ConversionTableW0	センサ 3　値変換係数 W0	—
108	CoefficientAvv	度　度変換係数 Avv	—
109	CoefiicientAhv	度　度変換係数 Ahv	—
110	CoefficientAov	度　度変換係数 Aov	—
111	CoefficientAhh	度　度変換係数 Ahh	—
112	CoefficientAvh	度　度変換係数 Avh	—
113	CoefficientAoh	度　度変換係数 Aoh	—
114	CSMTemperature	宇宙　度　度	—
115	CoRegistrationParameterA1	対レジストレーション係数	—
116	CoRegistrationParameterA2	対レジストレーション係数	—
117	CalibrationCurveCoefficient#1	ラジオメトリック　正 0 次係数	—
118	CalibrationCurveCoefficient#2	ラジオメトリック　正 1 次係数	—
119	CalibrationCurveCoefficient#3	ラジオメトリック　正 2 次係数	—
120	CalibrationCurveCoefficient#4	ラジオメトリック　正 3 次係数	—
121	CalibrationCurveCoefficient#5	ラジオメトリック　正 4 次係数	—
122	CalibrationMethod	正手法名	—

*1 No.53～122は、レベル2プロダクトには定義されていないため出力しない

*2 レベル1プロダクトはScan Data Qualityから算出した値を格納
レベル2プロダクトは「NumberOfMissingScans」、「NumberMissingPackets」、「NumberOfGoodPackets」の情報がなく値を算出できないため「-」（ イフン）を格納

5.6. 付録 A.6 カラーバーテーブルファイル

カラーバーテーブルファイルは、カラーバーテーブルの情報を　理するファイルです。

カラーバーテーブルファイルは、WordPad またはノートパッドのようなテキストエディタで編集することができます。カラーバーテーブルファイルのフォーマットについて付表 A.6-1 に示します。

付表 A.6-1 カラーバーテーブルファイルフォーマット

パラメータ名	フォーマット	説明
タイトル	//文字	文字　AMSR ORBIT Viewer COLOR TABLE DEFINE
カラー指定点数	N = 数値 注）：スペース	数値=2 3 5 9
ログモード選択	LOG_MODE = MODE	MODE=ON/OFF
転モード選択	REVERS_MODE = MODE	MODE=ON/OFF
データ値 1、色値 1（R,G,B）	VAL = 実数値【TAB】 COLOR = 数値 1, 数値 2, 数値 3 注）【TAB】：タブ	実数値=－9999.0～9999.0 数値 1=0～255 数値 2=0～255 数値 3=0～255
データ値 N、色値 N（R,G,B） 注）N：カラー指定点数で指定した値	同上	

```
// AMSR HDF TOOL COLOR TABLE DEFINE

N = 9
LOG_MODE = OFF
REVERSE_MODE = OFF
TITLE_NAME = [AMSR-E Brightness Temperature [K] ]
VAL = 154.800003 COLOR = 0,0,255
VAL = 176.225006 COLOR = 0,128,255
VAL = 197.649994 COLOR = 0,255,255
VAL = 219.074997 COLOR = 0,255,128
VAL = 240.500000 COLOR = 0,255,0
VAL = 261.924988 COLOR = 128,255,0
VAL = 283.350006 COLOR = 255,255,0
VAL = 304.774994 COLOR = 255,128,0
VAL = 326.200012 COLOR = 255,0,0
```

付図 A.6-1 カラーバーテーブルファイルフォーマット例

5.7. 付録 A.7 ルックアップテーブルファイル

ルックアップテーブルファイルは、ルックアップテーブルの情報を　理するファイルです。

ルックアップテーブルファイルは、WordPad またはノートパッドのようなテキストエディタで編集することができます。ルックアップテーブルファイルのフォーマットについて付表 A.7-1 に示します。

付表 A.7-1 ルックアップテーブルファイルフォーマット

パラメータ名	フォーマット	説明
タイトル	//文字	文字　　AMSR ORBIT Viewer Brightness Stretch DEFINE
コメント	//文字	文字　　ブランク
コメント	//文字	文字　　COLOR[R, G, B] = 物理量最小値,物理量最大値,表示最小値,表示量最表示値,
表示量(　)設定	R　=　実数値 1, 実数値 2, 数値 1,　数値 2, 注）　：スペース	実数値 1=任意 実数値 2=任意 数値 1=0～255 数値 2=0～255
表示量(　)設定	G　=　実数値 1, 実数値 2, 数値 1, 数値 2, 注）　：スペース	実数値 1=任意 実数値 2=任意 数値 1=0～255 数値 2=0～255
表示量(　)設定	B　=　実数値 1, 実数値 2, 数値 1, 数値 2, 注）　：スペース	実数値 1=任意 実数値 2=任意 数値 1=0～255 数値 2=0～255

```
// AMSR HDF TOOL STRETCH TABLE DEFINE

N = 9
LOG_MODE = OFF
VAL_R = 154.800003 COLOR_R = 0
VAL_R = 176.225006 COLOR_R = 31
VAL_R = 197.649994 COLOR_R = 63
VAL_R = 219.074997 COLOR_R = 95
VAL_R = 240.500000 COLOR_R = 127
VAL_R = 261.924988 COLOR_R = 159
VAL_R = 283.350006 COLOR_R = 191
VAL_R = 304.774994 COLOR_R = 223
VAL_R = 326.200012 COLOR_R = 255
```

付図 A.7-1 ルックアップテーブルファイルフォーマット例

5.8. 付録 A.8 バッチファイル

バッチファイルは、GCOM ユーザツールのバッチ処理の情報を　理するファイルです。

バッチファイルは、WordPad またはノートパッドのようなテキストエディタで編集することができます。

フォーマットの　切りは、　　スペースを使用して下さい。全　スペースは　切りとして認　しません。

バッチファイルのフォーマットについて付表 A.8-１に示します。

付表 A.8-1 パラメータファイルフォーマット(1/6)

パラメータ名	フォーマット	説明
データ表示	VIEWHDF [T] [/L] [/S /RGB] [/M] [/C] [/I] [/V] ※M、/C、/V は　　可能	/T センサ種別：AMSR2、AMSR、AMSR-E 例：/T AMSR2 /L プロダクト種別：L1A、L1B、L1R、L2、L3、L1BMap、L2Map 例：/L L1A /S※5 ※7 （/RGB との同時指定　可） 表示チャネル(L1A,L1B)：6V、6H、7V、7H、10V、10H、18V、18H、23V、23H、36V、36H、89AV、89AH、89BV、89BH、50V、52V 例：/S 18V 表示チャネル(L1R)：L1A,L1B のチャネルに 89V と 89H を加えた値の前に、6-、10-、23-、36-、89-を追加した値を指定する。 例：/S 6-6V 表示チャネル(L2)：チャネルの値にプロダクトファイルが持つ階層　　を追加した値を指定する。(低解像度の場合は 1、2。高解像度の場合は 89A-1、89A-2、89B-1、89B-2 のいずれか。) 例：/S 89A-1 /RGB※5（/S との同時指定　可） RGB の順　でチャネルを指定する。 例：/RGB 6V 10V 18V /M 地図投影法：EQR、ORTHO、PN、PS、PNS※8、MER 時はプロダクト種別ごとのデフォルト地図投影法で表示する。

付表 A.8-1 パラメータファイルフォーマット(2/6)

パラメータ名	フォーマット	説明
		例：/M EQR /C カラーバー又はルックアップテーブルファイル名を指定する。　　時は Automatic となる。 例：/C AM2L1A.clt /I※4 プロダクトファイルリスト名(※1)を指定する。 例：/I amsr2Filelist.txt /V 表示/非表示：ON、OFF バッチ処理中の画像表示/非表示を指定する。　　時は、ON(表示)となる。 例：/V OFF
画像出力	OUTIMG [/R] [/F] [/O]	R※2 表示範囲：左上緯度、左上経度、右下緯度、右下経度を指定する。 例：/R 36 138.9 34.9 140.28 /F フォーマット：BMP、JPEG、TIFF、PNG 例：/F JPEG /O※4 ※6 出力ファイル名を指定する。 例：/O output.jpg
動画作成	OUTMOV [/T] [/L] [/F] [/S] [/C] [/I] [/O] ※/C は　　可能	/T センサ種別： AMSR2、AMSR、AMSR-E 例：/T AMSR2 /L

付表 A.8-1 パラメータファイルフォーマット(3/6)

パラメータ名	フォーマット	説明
		プロダクト種別：L1A、L1B、L1R、L2、L3、L1BMap、L2Map 例：/L L1A /F フォーマット：AVI、KML、KMZ 例：/F AVI /S※5 ※7 表示チャネル(L1A,L1B)：6V、6H、7V、7H、10V、10H、18V、18H、23V、23H、36V、36H、89AV、89AH、89BV、89BH、50V、52V 例：/S 18V 表示チャネル(L1R)：L1A,L1B のチャネルに 89V と 89H を加えた値の前に、6-、10-、23-、36-、89-を追加した値を指定する。 例：6-6V 表示チャネル(L2)：チャネルの値にプロダクトファイルが持つ階層　　を追加した値を指定する。(低解像度の場合は 1、2。高解像度の場合は 89A-1、89A-2、89B-1、89B-2 のいずれか。) 例：/S 89A-1 /C カラーテーブルファイル名を指定する。　　時は Automatic となる。 例：/C AM2L1A.clt /I※4 プロダクトファイルリスト名を指定する。 例：/I amsr2Filelist.txt

付表 A.8-1 パラメータファイルフォーマット(4/6)

パラメータ名	フォーマット	説明
		/O※4 ※6 出力ファイル名を指定する 例：/O MovieFile.avi
CSV 出力	OUTCSV [/R] [/G] [/O] ※/G は　　可能	/R※2 表示範囲：左上緯度、左上経度、右下緯度、右下経度を指定する。 例：/R 36 138.9 34.9 140.28 /G 緯度経度有無：　　時は緯度経度無しとなる。 /O※4 ※6 出力ファイル名を指定する 例：/O output.csv
バイナリ出力	OUTBIN [/R] [/O]	/R※2 表示範囲：左上緯度、左上経度、右下緯度、右下経度を指定する。 例：/R 36 138.9 34.9 140.28 /O※4 ※6 出力ファイル名を指定する 例：/O BinaryFile.bin
画像の拡大縮小・移動	CHANGEMAP [/Z] [/C] [/W] [/M] ※/W は　　可能	/Z 拡大率：1 から 256 までの　数値を指定する。 例：/Z 128 /C※2 画像の中　　：中　緯度、中　経度 例：/C 36 140.28 /W※3 ウィンドウサイズ：X　　と Y　　の順に指定する。

付表 A.8-1 パラメータファイルフォーマット(5/6)

パラメータ名	フォーマット	説明
		時は変更しない。 例：/W 800 500 /M 地図投影法：EQR、PN、PS、MER 例：/M EQR
HDF 出力	OUTHDF [/T] [/L] [/S /RGB] [/M] [/C] [/I] [/V] [/R] [/O] ※/M、/C、/V、/O は　可能	/T センサ種別：AMSR2 例：/T AMSR2 的に HDF 出力できるセンサが　えた場合を考　して、パラメータを追加しておく /L プロダクト種別：L1B、L1R、L2 例：/L L1B /S （/RGB との同時指定　可） 表示チャネル(L1B)：6V、6H、7V、7H、10V、10H、18V、18H、23V、23H、36V、36H、89AV、89AH、89BV、89BH 例：/S 18V 表示チャネル(L1R)：L1B のチャネルに 89V と 89H を加えた値の前に、6-、10-、23-、36-、89-を追加した値を指定する。 例：/S 6-6V 表示チャネル(L2)：チャネルの値にプロダクトファイルが持つ階層　を追加した値を指定する。(低解像度の場合は 1、2。高解像度の場合は 89A-1、89A-2、89B-1、89B-2 のいずれか。) 例：/S 89A-1

付表 A.8-1 パラメータファイルフォーマット(6/6)

パラメータ名	フォーマット	説明
		/RGB（/S との同時指定　可） RGB の順　でチャネルを指定する。 例：/RGB 6V 10V 18V /M 地図投影法：EQR、PN、PS、MER 時はプロダクト種別ごとのデフォルト地図投影法で表示する。 例：/M EQR /C カラーバー又はルックアップテーブルファイル名を指定する。　時は Automatic となる。 例：/C AM2L1B.clt /I※4 プロダクトファイルリスト名を指定する。 例：/I amsr2Filelist.txt /V 表示/非表示：ON、OFF バッチ処理中の画像表示/非表示を指定する。　時は、ON(表示)となる。 例：/V OFF /R※2 表示範囲：左上緯度、左上経度、右下緯度、右下経度を指定する。 例：/R 36 138.9 34.9 140.28 /O※4 ※6 出力ファイル名を指定する。　時は、HDF 出力時のデフォルトファイル名にて出力する。 例：/O HdfFile.h5

※ 1　プロダクトファイルパスを格納したテキストファイル。各プロダクトのファイル名を1

行1ファイルずつフルパスで記述し、改行文字にはCR+LFを用いる。

※ 2　緯度は-90～90°、経度は-180～180°の範囲で指定する。

※ 3　最大サイズ1600×1200、最小サイズ100×100までの範囲で指定する。

※ 4　フルパスでのファイル名指定も可能とする。

※ 5　プロダクト種別がレベル2、レベル3の場合は、チャネルの指定　要とする。

※ 6　拡張子が記述されていなかった場合は、拡張子を自動で付加する。
　　拡張子が間　っていた場合は、記述されたファイル名に正しい拡張子を付加する。

※ 7　50V、52Vは、センサ種別にてAMSR/AMSR-Eを選択した場合のみ有　である。
　　また、7V、7Hは、センサ種別にてAMSR2を選択した場合のみ有　である。

※ 8　ポーラステレオ図法の北　球と南　球を同じ画面に　べて表示する。

5.9. 付録 A.9 パラメータファイル

パラメータファイルは、GCOM ユーザツールの起動に必要な情報を　理しているファイルです。

パラメータファイルは、本ユーザツールのインストールフォルダに格納されています。

パラメータファイルのフォーマットについて付表 A.9-１に示します。

付表 A.9-1 パラメータファイルフォーマット（1/3）

パラメータ名	フォーマット	説明
項目　別子	[DIR]	定
定義ファイル設定	DEF_FILE=フォルダ名	定義ファイルの格納先フォルダ名（　対パスで指定）
AMSR2 入力先フォルダ設定	INPUT_DIR=フォルダ名	AMSR2 入力先フォルダ名（　対パスで指定）
AMSR/AMSR-E 入力先フォルダ設定	INPUT_DIR_AMSR-E=フォルダ名	AMSR/AMSR-E 入力先フォルダ名（　対パスで指定）
AMSR2 出力先フォルダ設定	OUTPUT_DIR=フォルダ名	AMSR2 出力先フォルダ名（　対パスで指定）
AMSR2 動画入力先フォルダ設定	INPUT_DIR_MOVIE=フォルダ名	AMSR2 動画入力先フォルダ名（　対パスで指定）
AMSR/AMSR-E 動画入力先フォルダ設定	INPUT_DIR_MOVIE_AMSR-E= フォルダ名	AMSR/AMSR-E 動画入力先フォルダ名（　対パスで指定）
AMSR2 動画出力先フォルダ設定	OUTPUT_DIR_MOVIE= フォルダ名	AMSR2 動画出力先フォルダ名（　対パスで指定）
項目　別子	[GENERIC]	定
読み込みファイル数設定	MAX　FILE=ファイル数	一度に読み込み可能なファイル数。
バイトオーダ設定	ENDIAN=0	バイナリ形式出力時のバイトオーダ。 0：ビッグエンディアン 1：リトルエンディアン
未観測データ値設定（　　有り）	INV_DATA_VAL=未観測データ値（　　有り）	バイナリ形式出力時に未観測部分に設定するデータ。
未観測データ値設定（　　無し）	INV_DATA_VAL_UN=未観測データ値（　　無し）	バイナリ形式出力時に未観測部分に設定するデータ。
１レコード出力点数設定	N_COL=１レコードに出力する点数	CSV 形式出力時に１レコードに出力する点数。
小数点以下桁数設定	N_FRAC=データの小数点以下の桁数	CSV 形式出力時の小数点以下の桁数。
海岸線表示色	COLOR_SHORELINE=表示色	海岸線表示色 16　数 8 桁[ARGB]
緯度経度線表示色	COLOR_HELPLINE=表示色	緯度経度線表示色 16　数 8 桁[ARGB]

付表 A.9-1 パラメータファイルフォーマット（2/3）

パラメータ名	フォーマット	説明
表示色	COLOR_EQUATOR=表示色	表示色 16 数 8 桁[ARGB]
背景表示色	COLOR_BACK=表示色	背景表示色 16 数 8 桁[ARGB]
海岸線表示の有無	DRAW_SHORELINE= TRUE or FALSE	海岸線表示の有無 TRUE：表示 FALSE：非表示
緯度経度線表示の有無	DRAW_HELPLINE= TRUE or FALSE	緯度経度線表示の有無 TRUE：表示 FALSE：非表示
表示の有無	DRAW_EQUATOR= TRUE or FALSE	表示の有無 TRUE：表示 FALSE：非表示
地図背景表示の有無	DRAW_BACK= TRUE or FALSE	地図背景表示の有無 TRUE：表示 FALSE：非表示
緯度経度線間隔指定の有無	LATLON_MODE= TRUE or FALSE	緯度経度線間隔指定の有無 TRUE：手動設定 FALSE：自動設定
緯度線の間隔	LAT_WIDTH=間隔設定値	緯度線の間隔 設定値÷10（°）間隔で緯度線を表示する。
経度線の間隔	LON_WIDTH=間隔設定値	経度線の間隔 設定値÷10（°）間隔で経度線を表示する。
海岸線上下表示	DRAW_SHORELINEORDER= 表示設定値	海岸線を画像の上か下のどちらに表示するかの設定 デフォルトは上に表示する。
項目 別子	**[MAP]**	**定**
地図ファイルの自動切換え設定	MAP_MODE=自動切換え設定値	地図ファイルの自動切換え設定 0：地図ファイル 定 1：地図ファイル自動切換え

付表 A.9-1 パラメータファイルフォーマット（3/3）

パラメータ名	フォーマット	説明
地図ファイル設定	MAP_FILE=ファイル名	地図ファイル名（　対パスで指定）および地図ファイル自動切換え設定時、拡大率 1 倍以上～8 倍未　の場合に使用される地図ファイル名。
地図ファイル設定 2	MAP_FILE2=ファイル名	地図ファイル自動切換え設定時、拡大率 8 倍以上～256 倍以下の場合に使用される地図ファイル名。

6. 付録 B ライセンス

6.1. 付録 B.1 HDF4

本　フトウェアに含まれる HDF4 ライブラリは、下記の条件の下で利用・　　が　可さ
れています。

Copyright Notice and License Terms for Hierarchical Data Format (HDF) Software Library and Utilities

Hierarchical Data Format (HDF) Software Library and Utilities
Copyright 2006-2010 by The HDF Group.

NCSA Hierarchical Data Format (HDF) Software Library and Utilities
Copyright 1988-2006 by the Board of Trustees of the University of Illinois.

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without
modification, are permitted for any purpose (including commercial purposes)
provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice,
   this list of conditions, and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice,
   this list of conditions, and the following disclaimer in the documentation
   and/or materials provided with the distribution.

3. In addition, redistributions of modified forms of the source or binary
   code must carry prominent notices stating that the original code was
   changed and the date of the change.

4. All publications or advertising materials mentioning features or use of
   this software are asked, but not required, to acknowledge that it was
   developed by The HDF Group and by the National Center for Supercomputing
   Applications at the University of Illinois at Urbana-Champaign and
   credit the contributors.

5. Neither the name of The HDF Group, the name of the University, nor the
name of any Contributor may be used to endorse or promote products derived
from this software without specific prior written permission from The HDF
Group, the University, or the Contributor, respectively.

DISCLAIMER:
THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE HDF GROUP AND THE CONTRIBUTORS "AS IS"
WITH NO WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED. In no event
shall The HDF Group or the Contributors be liable for any damages suffered
by the users arising out of the use of this software, even if advised of
the possibility of such damage.

6.2. 付録 B.2 HDF5

本　フトウェアに含まれる HDF5 ライブラリは、下記の条件の下で利用・　　が　可さ
れています。

Copyright Notice and License Terms for HDF5 (Hierarchical Data Format 5) Software Library and Utilities

HDF5 (Hierarchical Data Format 5) Software Library and Utilities
Copyright 2006-2010 by The HDF Group.

NCSA HDF5 (Hierarchical Data Format 5) Software Library and Utilities
Copyright 1998-2006 by the Board of Trustees of the University of Illinois.

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without
modification, are permitted for any purpose (including commercial purposes)
provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice,
   this list of conditions, and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice,
   this list of conditions, and the following disclaimer in the documentation
   and/or materials provided with the distribution.

3. In addition, redistributions of modified forms of the source or binary
   code must carry prominent notices stating that the original code was
   changed and the date of the change.

4. All publications or advertising materials mentioning features or use of
   this software are asked, but not required, to acknowledge that it was
   developed by The HDF Group and by the National Center for Supercomputing
   Applications at the University of Illinois at Urbana-Champaign and
   credit the contributors.

5. Neither the name of The HDF Group, the name of the University, nor the
name of any Contributor may be used to endorse or promote products derived
from this software without specific prior written permission from
The HDF Group, the University, or the Contributor, respectively.

DISCLAIMER:
THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE HDF GROUP AND THE CONTRIBUTORS
"AS IS" WITH NO WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED. In no
event shall The HDF Group or the Contributors be liable for any damages
suffered by the users arising out of the use of this software, even if
advised of the possibility of such damage.

6.3. 付録 B.3 zlib

本　フトウェアは zlib の　ースコードを一部利用しています。zlib の　ースコードは、下記の条件の下で利用が　可されています。

a copy at http://opensource.org/licenses/zlib-license.php

This software is provided 'as-is', without any express or implied
warranty. In no event will the authors be held liable for any damages
arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose,
including commercial applications, and to alter it and redistribute it
freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not
claim that you wrote the original software. If you use this software
in a product, an acknowledgment in the product documentation would be
appreciated but is not required.

2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be
misrepresented as being the original software.

3. This notice may not be removed or altered from any source
distribution.